浦和競馬場北門警備棟建築工事

実施設計図

図面リスト

意匠図

図面番号	図面名称	縮尺（A1）
	表紙，図面リスト	――
D－01	特記仕様書（その１）	――
D－02	特記仕様書（その２）	――
D－03	特記仕様書（その３）	――
D－04	特記仕様書（その４）	――
D－05	特記仕様書（その５）	――
D－06	特記仕様書（その６）	――
D－07	案内図，全体配置図，敷地概要，建物概要	1 ： 1,000
D－08	部分配置図，建物求積図，平均地盤面算定図，各種法定検討	1 ： 75 1 ： 200
D－09	外部仕上表，内部仕上表	――
D－10	平面詳細図，屋根伏図，矩計図	1 ： 30 1 ： 50
D－11	立面図，断面図	1 ： 50
D－12	展開図 － 1	1 ： 50
D－13	展開図 － 2	1 ： 50
D－14	展開図 － 3，天井伏図	1 ： 50
D－15	建具表キープラン，建具表	1 ： 50 1 ： 75 1 ： 100
D－16	各部詳細図	図　示
D－17	外構詳細図	1 ： 20 1 ： 30 1 ： 50
D－18	庇詳細図〔参考図〕	1 ： 3 1 ： 10 1 ： 30
D－19	仮設計画図〔参考図〕，撤去図	1 ： 50 1 ： 200

構造図

図面番号	図面名称	縮尺（A1）
S－01	特記仕様書（構造関係・その１）	――
S－02	特記仕様書（構造関係・その２）	――
S－03	構造関係共通図（配筋標準図・その１）	――
S－04	構造関係共通図（配筋標準図・その２）	――
S－05	構造関係共通図（配筋標準図・その３）	――
S－06	構造関係共通図（配筋標準図・その４）	――
S－07	構造関係共通図（鉄骨標準図・その１）	――
S－08	構造関係共通図（鉄骨標準図・その２）	――
S－09	深層混合処理工法特記仕様書	――
S－10	ボーリング柱状図	――
S－11	伏図	1 ： 50
S－12	軸組図(1)	1 ： 50
S－13	軸組図(2)	1 ： 50
S－14	部材リスト	1 ： 30
S－15	鉄骨詳細図	1 ： 20

株式会社 第一建築設計事務所

埼玉県浦和競馬組合

課長	副参事	主幹	主査		担当
飛塚	石井	阿相	矢島		矢島

工事名	浦和競馬場北門警備棟建築工事

特記仕様書

Ⅰ　工事概要

1．工事場所　埼玉県 さいたま市 南区 大谷場一丁目8 番4 2 号　用途地域　第一種住居地域

2．敷地面積　147,940.54 ㎡

3．工事種目（建物概要）　警備 棟　鉄骨 造　1 階建て（地下　階・ＰＨ　階）

建築面積	89.86	㎡
延べ面積	84.00	㎡
床 面 積	84.00	㎡
階	84.00	㎡
階		㎡
階		㎡
階		㎡
階		㎡

4．工　　期

契 約 日から令和　年　月　日まで	
共通仮設費率の算定に用いる工期	令和　年　月　日から令和　年　月　日まで
主任技術者又は監理技術者の専任を要しない期間	令和　年　月　日から令和　年　月　日まで
現場代理人の現場への常駐を要しない期間	令和　年　月　日から令和　年　月　日まで
現場施工期間	令和　年　月　日から令和　年　月　日まで

5．工事範囲

※「3．工事種目」全てを工事範囲とする。

・「3．工事種目」のうち……の工事範囲は下記表のとおりとする。
ただし、他の工事種目は全て今回工事範囲とする。

② 仮設工事	※工事範囲全て
③ 土工事	
④ 地業工事	
⑤ 鉄筋工事	
⑥ コンクリート工事	
⑦ 鉄骨工事	
8 ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ・ＡＬＣﾊﾟﾈﾙ・押出成形セメント板工事	
⑨ 防水工事	
１０ 石工事	
⑪ タイル工事	
⑫ 木工事	
⑬ 屋根及びとい工事	
⑭ 金属工事	
⑮ 左官工事	
⑯ 建具工事	
１７ カーテンウォール工事	
⑱ 塗装工事	
⑲ 内装工事	
⑳ ユニット及びその他の工事	
２１ 排水工事	
㉒ 舗装工事	
２３ 植栽及び屋上緑化工事	

Ⅱ　建築工事仕様

（1）質問回答書、本特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて「埼玉県建築工事特別共通仕様書」及び国土交通大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成３１年版」（以下、「標準仕様書」という。）による。
（2）標準仕様書で「特記がなければ、」以下に具体的な材料・工法・検査方法等を明示している場合において、それらが関係法令等（条例を含む）と異なる場合には、具体的な対応策について監督員と協議すること。
（3）特記仕様書の表記
1）項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
2）特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と ※ 印の付いた場合は、共に適用する。○ 印と ※の場合は、○のみを適用する。
3）特記事項に記載の｛ ．．｝内の表示番号は、「埼玉県建築工事特別共通仕様書」の当該項目、当該図表を示す。
4）特記事項に記載の（ ．．）内の表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図表を示す。
5）製造所名は、五十音順とし「株式会社」等の記載は省略する。また（ ）内は製品名を示す。
6）本工事において、「環境物品等の調達の推進に関する基本方針（平成29年2月7日閣議決定）」及び、「埼玉県グリーン調達推進方針（最新版）」による特定調達品目のうち、「判断の基準」を満たす環境物品等（以下「特定調達物品等」という）を選択するよう努めるものとする。
なお、G 印は設計図書で定めのある品目を示す。
7）注は標準仕様書記載事項で、注意すべきものを示す。

章	項目	特記事項

① 一般共通事項

① 適用基準等
※埼玉県建築工事実務要覧に記載の要領等
※建築工事監理指針（国土交通省監修）（参考図書）
※建築工事標準詳細図（国土交通大臣官房官庁営繕部監修　平成28年版）

② 条件明示事項　保険の種類　(1.1.3)
※法定外の労災保険（工事に従事する者(全ての下請負人を含む)の業務上の負傷等を対象とするもの）
※建設工事保険等（工事目的物及び工事材料等を対象とするもの）
※請負業者賠償責任保険等　・
保険の期間　※工事完成期日後１４日を含む期間　・

③ 工事実績情報の登録　※行う（請負代金額500万円以上，10日以内に登録）　・行わない　(1.1.4)(1.1.8)

④ 適用区分　建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
○風圧力　風速（Vo= 34 m/s）　地表面粗度区分（・Ⅰ　・Ⅱ　○Ⅲ　・Ⅳ）
○積雪荷重　H12.5.31告示第1455号における区域　別表（ 24 ）

⑤ 別契約の関連工事　※監督員指定の別契約工事を今回工事全体としてとらえ、主導的に調整する。(1.1.7)
○監督員指定の別契約工事が行う全体調整に全面的に協力する。

6 施工に注意を要する区域等　本工事場所は以下の区域等に指定等されているため、施工計画の作成及び施工に当たっては関係法令等の遵守に十分注意する。(1.1.12、13)
・周知の埋蔵文化財包蔵地　・史跡名勝天然記念物
・　・

⑦ 工事の記録　埼玉県建築工事写真作成要領に基づき作成し、監督員に提出する。(1.2.4)(1.6.6)
埼玉県電子納品運用ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　※適用する(CD-RｘはDVD-Rで１部提出)　・適用しない

⑧ 電気保安技術者　適用する　(1.3.3)(1.3.1)

⑨ 施工条件　施工時間　(1.3.5)
・行政機関の休日に関する法律（S63第91号）に定める行政機関の休日以外とする。
ただし、監督職員の承諾を受けた場合はこの限りでない。
・以下の期間を除いた現場閉所日数の割合が28.5%(8日/28日)以上であること
年末年始6日間、夏季休暇3日間、工場製作のみの期間、工事全体の一時中止期間
指定期間（　）
施工時間以外の施工条件
・図示による　・
開催運営中による施工制限
・　・
※受注者は、施工にあたって開催運営に支障の無いように綿密に打合せを行うこと。
※特に騒音，振動，粉塵等の発生する恐れのある工事については、近隣住民に十分配慮すること。
※別契約の関連工事と十分に連携を図り、工事を進めること。
※原則として、本場開催中は工事を中止すること。
※工事時間は、原則午前9 時から 午後6 時とする。
但し、能力・調教試験，本馬場調教の開催日は、午前9 時から 午後6 時とする。
※工事を行わない日の来場者への安全対策を徹底すること。

10 施工中の安全確保　本工事の受注者を、作業が同一の場所において行われることによって生じる労働災害を防止するために必要な措置を講ずべき者（統括安全衛生管理義務者）とする。(1.3.7)

⑪ 施工中の環境保全等　建設機械は、原則として排出ガス対策型、低騒音型、低振動型を使用する。(1.3.10)

⑫ 発生材の処理等　引渡しを要するもの　(1.3.11)(1.1.13)
※無し（全て構外搬出適正処理）　・有り（※図示　・　）
注 a) 発生材のうち特記により、引き渡しを要するものは、指示された場所に整理のうえ調書を添えて監督員に報告する。
b) 産業廃棄物処理許可書及び最終処理受入票の写しを提出する。
c) 引き渡しを要しないものは、すべて構外に搬出し、「資源の有効な利用の促進に関する法律」「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という。）「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」その他関係法令等により適切に処理し監督員に報告する。

⑬ 県産品の使用　受注者は、工事材料に係る納入契約を締結する場合には、当該契約の相手方は埼玉県内に本店を有する者の中から選定するように努めるとともに、調達する工事材料は、埼玉県産とするよう努める。(1.4.2)

⑭ 環境への配慮　建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。(1.4.1)(1.4.3)
① 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、ＭＤＦ、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒト及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ないよう材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。
② 接着剤及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。
③ 接着剤は、可塑剤（フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑剤を除く）が添加されていない材料を使用する。
④ ①の材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類等は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⑮ 材料の品質等　(1.4.2)
※本工事に使用する材料等は、設計図書に定める品質及び性能と同等以上のものを使用する。ただし製造業者等が指定されている場合に同等以上のものとする場合は、あらかじめ監督員の承諾を受ける。
※材料・機材等の製造業者等は次の①から⑥すべての事項を満たすものとし、この証明となる資料又は外部機関が発行する品質及び性能等が評価されたことを示す書面を提出して監督員の承諾を受ける。
① 品質及び性能に関する試験データが整備されていること
② 生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
③ 安定的な供給が可能であること
④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許等を取得していること
⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられていること
※製材等、フローリング又は再生木質ボードを使用する場合は、グリーン購入法の基本方針の判断の基準に従い、あらかじめ「木材・木材製品の合法性、持続可能性の証明のためのｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ」（林野庁 H18.2.15）に準拠した証明書を監督員に提出する。

16 技能士　(1.5.2)(1.3.3)

適用工事種別	技能検定作業
仮設工事	・とび作業
鉄筋工事	・鉄筋組立作業
コンクリート工事	・型枠施工作業　・ｺﾝｸﾘｰﾄ圧送工事作業
鉄骨工事	・構造物鉄工事作業　・とび作業
ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ･ALCﾊﾟﾈﾙ押出成形ｾﾒﾝﾄ板工事	・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業 ・ｴｰｴﾙｼｰﾊﾟﾈﾙ工事作業
防水工事	・ｱｽﾌｧﾙﾄ防水工事作業　・ｳﾚﾀﾝｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業 ・ｱｸﾘﾙｺﾞﾑ系塗膜防水工事作業　・合成ｺﾞﾑ系ｼｰﾄ防水工事作業 ・塩化ﾋﾞﾆﾙ系ｼｰﾄ防水工事作業　・ｾﾒﾝﾄ系防水工事作業 ・ｼｰﾘﾝｸﾞ防水工事作業　・改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄｰﾄ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業
石工事	・石張り作業
タイル工事	・タイル張り作業
木工事	・大工工事作業
屋根及びとい工事	・内外装板金作業　・スレート工事作業
金属工事	・鋼製下地工事作業　・内外装板金作業
左官工事	・左官作業
建具工事	・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業　・ガラス工事作業　・自動ドア施工作業
ｶｰﾃﾝｳｫｰﾙ工事	・金属製カーテンウォール工事作業　・ﾋﾞﾙ用ｻｯｼ施工作業 ・ガラス工事作業
塗装工事	・建築塗装作業　・木工塗装作業
内装工事	・ﾌﾞﾗｽﾁｯｸ系床仕上げ工事作業　・カーペット系床仕上作業 ・ボード仕上げ工事作業　・壁装作業　・保温保冷工事作業
排水工事	・建築配管作業
舗装工事	・溶融ﾍﾟｲﾝﾄﾏｰｶｰ工事作業　・加熱ﾍﾟｲﾝﾄﾏｼﾞﾝﾏｰｶｰ工事作業
植栽工事	・造園工事作業
その他	・ｺﾝｸﾘｰﾄﾌﾞﾛｯｸ工事作業

⑰ 化学物質の濃度測定　(1.5.9)

対象化学物質	判定基準	備考
ホルムアルデヒト	100μg／m³（0.08ppm）以下	※厚生労働省が定める指針値，量単位の換算は２５℃
トルエン	260μg／m³（0.07ppm）以下	
キシレン	200μg／m³（0.05ppm）以下	
エチルベンゼン	3,800μg／m³（0.88ppm）以下	
スチレン	220μg／m³（0.05ppm）以下	
パラジクロロベンゼン	240μg／m³（0.04ppm）以下	

測定方法
採取及び分析は、法令に基づき空気中の物質の濃度に係る証明を行う者が行う。
①検体の採取方法　※吸引方式(アクティブ法)又は拡散方式(パッシブ法)
・吸引方式(アクティブ法)　・拡散方式(パッシブ法)
②アクティブ法
ホルムアルデヒドは、ジニトロフェニルヒドラジン誘導体固相吸着／溶媒抽出法によって採取し、高速液体クロマトグラフ法（以下ＨＰＬＣ）により行う。
トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン及びパラジクロロベンゼンは、固相吸着／溶媒抽出法、固相吸着／加熱脱着法、容器採取法のいずれかを用いて採取し、ガスクロマトグラフ／質量分析法（以下ＧＣ／ＭＳ）により行う。
③パッシブ法
ホルムアルデヒドは、パッシブ採取機器により採取し、ＨＰＬＣ又はガスクロマトグラフ法（以下ＧＣ）あるいはＡＨＭＴ－吸光光度法のうち採取機器に適応した分析法による。
トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン及びパラジクロロベンゼンは、パッシブ採取機器により採取しＧＣまたはＧＣ／ＭＳのうち採取機器に適応した分析法による。
測定対象室　※監督員の指定する室　○図示
測定箇所数　※（ 1 ）箇所　○図示
測定時期　※工事完了後
報告書　※２部　・

18 中間検査　中間検査　※行う（埼玉県建設工事検査要綱第４条）　・行わない　(1.6.2)(1.5.1)
中間検査実施回数（　）　実施段階（　）監督員の指示による
中間検査成績評定　※対象外　・対象（埼玉県建築工事成績評定要領第２）

⑲ 完成図等　(1.7.1～3)(1.6.1～3)
監督員の指示により埼玉県建築工事監督要綱別表第１に示す書類を提出する
完成図等の種類及び記入内容　・
※完成(竣工)図（※監督員が指定した設計図面に完成時の状態を表現したもの　・　）
※施工図（※構造躯体　○監督員の指示による ）　※施工計画書（総合、工種別とも）
作成方法及び原図のサイズ
完成(竣工)図　※Ａ１二つ折り製本１部　・
施工図　※Ａ１二つ折り製本１部　・
施工計画書　※ファイル等　・
保全に関する資料　※１部　・　部（通常取扱いに注意を要するものの使用方法を解説する）
完成写真（埼玉県建築工事写真作成要領に基づき作成する）
埼玉県電子納品運用ｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝ　※適用する(CD-RｘはDVD-Rで1部提出)　・適用しない
撮影者　※監督員の承諾する撮影者　・
撮影箇所　※外部（４）内部（６）
着工時と完成時の状況を比較できるように撮影する
・埼玉県建築工事写真作成要領別表４
写真の大きさ　※カラーキャビネ版　・カラー全紙パネル　・
写真帳の大きさ　※監督員の指示による　・
外部全景完成写真及びカラースライドの提出時期　○監督員の指示による
図面情報電子化媒体　※CD-R又はDVD-R，１部
CADデータの形式　※SXF(sfc)　○DXF　○JWW
（埼玉県建築工事図面情報電子化媒体作成要領による。CADﾃﾞｰﾀのﾊﾞｰｼﾞｮﾝは監督員と協議する。）
施設CADデータ　・更新して提出　・更新しない

⑳ 保証書　防水工事　※屋上防水　・外壁防水　○金属屋根　・　(1.6.4)
建物引渡し日から10年間、受注者、施工者、材料ﾒｰｶｰの3者連名とし2部提出する。
上記以外　・１部提出

㉑ その他
・予備材料　※監督員の指示による　・
○下請契約　※全体及び県内に分け、契約数及び契約金額の総計を提出する。

② 仮設工事

① 足場その他　「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、(2.2.4)同ガイドラインの別紙１「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり掘置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。
墜落制止用器具の使用は、「墜落制止用器具の安全な使用に関するガイドライン」（厚生労働省 H30.6.22）による。
○フルハーネス型墜落制止用器具を用いる。

② 監督員事務所　規模　・既存建物内の一部を使用　・構内に新設　㎡　(2.3.1)
・構内に新設　㎡
○設置しない（下記備品のみ用意する）
備品（ 2 名分相当）
・机　・椅子　・書棚　・黒板　・掛時計　・寒暖計　○長靴　○雨合羽
○保護帽　・懐中電灯　○墜落制止用器具　○軍手　・衣類ロッカー
・冷暖房機器　・消火器　・湯沸器　・茶器　・掃除用具　・電話機
・ＦＡＸ　・電子メール通信機器　・スキャナー　・プリンター

③ 現場表示板　※設置する（(1.1.12)による表示　※要 ○不要）　・設置しない　(2.3.1)(1.1.12)

④ 工事用水　構内既存の施設　※利用できない　○利用できる（※有償　・無償）

⑤ 工事用電力　構内既存の施設　※利用できない　・利用できる（別途施設調整を行うこと）
○利用できる（※有償　・無償）

⑥ 工事用搬入路　※図示　・

⑦ 仮囲い　※設置位置等は監督員の指示による　○図示

⑧ 交通誘導員　必要に応じ搬入路付近に交通誘導員を配置する。
配置箇所　※監督員の指示による　○図示

9 快適トイレ　仕様　※図示　・

③ 土工事

① 埋戻し及び盛土　埋戻し及び盛土の種別　(3.2.3)
・Ａ種　適用場所（　）
○Ｂ種　適用場所（　）
・Ｃ種　適用場所（　）土質（　）受渡場所（　）
・Ｄ種　適用場所（　）
品質　細粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする。
○六価クロム溶出試験　・行う　○行わない

② 建設発生土の処理　○場外搬出適切処理　・構内指示の場所にたい積　・構内指示の場所に敷き均し　(3.2.5)

3 山留めの撤去　鋼矢板等の抜き後の処理　※直ちに砂で充填する　・　(3.3.3)
山留めの存置　・行う（存置範囲　※図示　・　）

④ 地業工事　⑤ 鉄筋工事　⑥ コンクリート工事　⑦ 鉄骨工事

特記仕様書（構造関係）による

8 コンクリートブロック・ＡＬＣパネル及び押出成形セメント板工事

1 補強コンクリートブロック造　ブロックの種類　(8.2.2～8)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	適用箇所	備考
※空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・				・無　・有		

モルタルの調合(容積比)　・セメント（　）：砂（　）
各部の配筋　※図示　・
充填するブロックの範囲　・図示　・

2 コンクリートブロック帳壁及び塀　ブロックの種類　(8.3.2～7)

断面形状及び圧縮強さによる区分	正味厚さ(mm)	ﾓｼﾞｭｰﾙ呼び寸法(mm) 長さ	高さ	化粧の有無	(表8.3.1)以外の適用箇所	備考
・空洞ブロックC(16)				・無　・有		
・型枠状ブロック 20				・無　・有		
・				・無　・有		

塀の厚さ　・
壁鉄筋の継手、定着及び末端部の折り曲げ形状　※図示　・
各部の配筋　※図示　・
充填するブロックの範囲　・図示　・

3 ＡＬＣパネル　(8.4.2～5)

パネルの区分	単位荷重(N/m²)	厚さ(mm)	長さ(mm)	幅(mm)	耐火性能	表面加工	構法の種別
・外壁パネル		・100・			有(1)時間	・平・意匠	・A種・B種
・間仕切壁パネル		・100・			・有(1)時間・無	・平・意匠	・C種・D種・E種
・屋根パネル		・100・/			有(0.5)時間	平	F種
・床パネル		・100・			有（ ）時間		

パネルの相互の接合部に充填する耐火目地材（　）

外壁・屋根パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法
パネル幅の最小限度を300mm未満とする場合　・
パネル短辺小口相互の接合部、外壁、間仕切壁パネルの出隅及び入隅パネル接合部、パネルと他部材との取合い部の目地幅（mm）　・10～20　・
外壁、間仕切壁パネルの伸縮目地への耐火目地材の充填　・適用する　・適用しない

4 押出成形セメント板（ＥＣＰ）　(8.5.2～5)

パネルの種類	形状	厚さ(mm)	幅(mm)	工法の種別	備考
・外壁パネル	・F（ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ）	・50・60・		・A種・B種	
	・D（ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ）	・50・60	600		
	・T（ﾀｲﾙﾄﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ）	60			
・間仕切壁パネル	・F（ﾌﾗｯﾄﾊﾟﾈﾙ）	・50・60・		・B種・C種	
	・D（ﾃﾞｻﾞｲﾝﾊﾟﾈﾙ）	・50・60	600		
	・T（ﾀｲﾙﾄﾞｰｽﾊﾟﾈﾙ）	60			

外壁パネルの工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法
パネル相互の目地幅（mm）　・長辺（　）　・短辺（　）
出隅及び入隅のパネル接合目地の目地幅（mm）　※15程度　・
やむを得ず欠き込み等を行う場合は、下表の寸法を限度とする。ただし、欠損部分を考慮した強度を確認の上、施工計画書を提出する。

		開口の大きさ		切断後のパネルの残り部分の幅	
パネルに開口を設ける場合	短辺	・図示	・	・図示	・
	長辺	・図示	・	・図示	・
パネルを切り欠く場合	短辺	・図示	・	・図示	・
	長辺	・図示	・	・図示	・

⑨ 防水工事

1 アスファルト防水　屋根保護防水　(9.2.2～5)（表9.2.3～9）
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	絶縁用シート	立上り部の保護
・A－1			※ｶﾞﾗｽﾃｨｼｭﾌｪﾙﾄ厚さ0.15mm以上・	・乾式保護材 ・ｺﾝｸﾘｰﾄ押え ・れんが
・A－2				
・A－3				
・B－1				
・B－2				
・B－3				
・AI－1		（材質）※JIS A 9521による押出法ｱｽﾌｧﾙﾄﾌｫｰﾑ断熱材3種bA(ｽｷﾝ層付き) （厚さ）・25mm・50mm・	※ﾌﾗｯﾄﾔｰﾝｸﾛｽ70g/m²程度・	
・AI－2				
・AI－3				
・BI－1				
・BI－2				
・BI－3				

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
用途による区分　・
材料構成による区分　※Ｒ種
厚さ　※1.5mm以上　・
部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.2.5から標準仕様書表9.2.8による
平場の保護コンクリートの厚さ
こて仕上げ　※水下　80mm以上　・
床タイル張り　※水下　60mm以上　・

・乾式保護材
窯業系パネル：無石綿の繊維質原料等を主原料として、板状に押出成形しオートクレーブ養生したもの。
金属複合板：金属板と樹脂を積層一体化したもの。

屋根露出防水
防水層の種別

種別	施工箇所	断熱材 G	仕上塗料
・D－1			種類 ※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様・ 使用量 ※ｱｽﾌｧﾙﾄﾙｰﾌｨﾝｸﾞ類の製造所の仕様・
・D－2			
・D－3			
・D－4			
・DI－1		（材質）※標準仕様書9.2.2(9)による （厚さ）・25mm　・50mm　・	
・DI－2			

高日射反射率防水の適用G　※適用する　・適用しない
屋根露出防水絶縁断熱工法の場合の、ルーフドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置　※図示　・
脱気装置の種類及び設置数量
※アスファルトルーフィング類の製造所の指定
・種類（　）　設置数量（　）

屋内防水
防水層の種別

種別	施工箇所	種別	施工箇所
・E－1		・E－2	

保護層　・設ける（※図示　・　）　・設けない
防水層の下地の立上り
※コンクリート打放し仕上げ　標準仕様書表6.2.4[打放し仕上げの種別]のＢ種　・
押え金物の材質、形状及び寸法
※アルミニウム製　L-30×15×2.0mm程度　・
防水層の下地モルタル塗り
・適用する（施工範囲　※図示　・　）　・適用しない
屋根排水溝　※図示　・

株式会社第一建築設計事務所	埼玉県浦和競馬組合	課長 飛塚	副参事 石井	主幹 阿相	主査 矢島	担当 矢島	日付 / 改訂 R4.1(Ver.R4-1)

工事名	浦和競馬場北門警備棟建築工事	図面No. D-01
図面名称	特記仕様書（その１）	

2 改質アスファルトシート防水

防水層の種別 (9.3.2、3)(表9.3.1～3)

種別	施工箇所	断熱材 G	防湿層	仕上塗料
・ＡＳ－Ｔ１ ・ＡＳ－Ｔ２ ・ＡＳ－Ｔ３ ・ＡＳ－Ｔ４ ・ＡＳ－Ｊ１				種類 ※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ＡＳＩ－Ｔ１		（材質） ※標準仕様書9.3.2(3)(ｳ)による ・	・設ける （改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様による） ・設ない	使用量 ※改質ｱｽﾌｧﾙﾄｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ＡＳＩ－Ｊ１		（厚さ） ・25mm ・50mm ・		

高日射反射率防水の適用G ・適用する ・適用しない
改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による ・
粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による ・
部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※標準仕様書表9.3.1から表9.3.3による ・
押え金物
※改質アスファルト製造所の仕様による ・
屋根露出防水絶縁工法及び屋根露出防水絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
※改質アスファルト製造所の仕様による ・
・種類（ ） 設置数量（ 個）

3 合成高分子系ルーフィングシート防水

防水層の種別 (9.4.2～4)(表9.4.1～3)

種別	施工箇所	絶縁用ｼｰﾄの材質	仕上塗料
・Ｓ－Ｆ１ ・Ｓ－Ｆ２	・ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地 ・	※発砲ｽﾁﾚﾝｼｰﾄ ・	種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・Ｓ－Ｍ１ ・Ｓ－Ｍ２ ・Ｓ－Ｍ３			種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ＳＩ－Ｆ１ ・ＳＩ－Ｆ２	・ﾌﾟﾚｷｬｽﾄｺﾝｸﾘｰﾄ下地 ・	※発砲ｽﾁﾚﾝｼｰﾄ ・	種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・
・ＳＩ－Ｍ１ ・ＳＩ－Ｍ２		※発砲ｽﾁﾚﾝｼｰﾄ ・	種類・使用量 ※ﾙｰﾌｨﾝｸﾞｼｰﾄの製造所の仕様 ・

合成高分子系ルーフィングシート防水工法（断熱工法）における断熱材G
（種類）SI-F1、SI-F2の場合 ※標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(b)による ・
SI-M1、SI-M2の場合 ※標準仕様書9.4.2(3)(ｴ)(a)による ・
（厚さ）・25mm ・50mm ・
高日射反射率防水の適用G ・適用する ・適用しない
SI-F1、SI-F2、SI-M1及びSI-M2における防湿用フィルムの設置
・設ける ・設けない
S-M2またはSI-M2の場合立上り部の工法
・接着工法 立上り面のシート厚さ ※1.5mm ・
・機械式固定方法
接着工法の場合の脱気装置の種類及び設置数量
※ルーフィングシートの製造所の仕様
・種類（ ） 設置数量（ 個）
固定金具の材質及び寸法形状
※厚さ0.4mm以上の防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板
・
ＰＣコンクリート部材下地の目地処理
・行う（・図示 ・ ） ・行わない
ＰＣコンクリート部材の入隅部の増張り（種別 S-F1、SI-F1の場合）
・行う（・図示 ・ ） ・行わない
機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張付け
建築基準法に基づき定まる風圧力（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法

屋内防水
防水層の種類

種別	施工箇所	保護層		立上り部の保護
		平場のモルタル塗り		
		塗り厚さ	工法	ﾓﾙﾀﾙ塗り厚さ
・S-C1		・ mm	・床塗り工法 ・下地モルタル塗り	※７mm以下 ・

平場のモルタル塗りの目地の目地割り及び種類 ・図示 ・

ルーフィングシートの種類及び厚さ
※標準仕様書 表9.4.1、表9.4.2及び表9.4.3による ・
・種類（ ） 厚さ（ ）

4 塗膜防水

※特定化学物質障害予防規則の対象とならない材とする (9.5.3)(表9.5.1～2)
防水層の種別

種別	施工箇所	仕上塗料	保護層
・Ｘ－１		種類・使用量 ※主材料の製造所の仕様 ・	
・Ｘ－２		種類・使用量 ※主材料の製造所の仕様 ・	
・Ｙ－１	※地下外壁防水 ・		
・Ｙ－２	※屋内防水 ・		・適用する ・適用しない

（Ｘ－１、Ｘ－２）高日射反射率防水の適用G ・適用する ・適用しない

ウレタンゴム系塗膜防水Ｘ－１（絶縁工法）の脱気装置の種類及び設置数量
※主材料の製造所の仕様
・種類（ ） 設置数量（ 個）
ゴムアスファルト系塗膜防水 Ｙ－１、Ｙ－２
工程数及び各工程の使用量
※主材料の製造所の仕様
・

5 ケイ酸質系塗布防水

防水層の種別 (9.6.1、3、4)(表9.6.1、2)

種別	施工箇所	種別	施工箇所
※Ｃ－ＵＩ		・Ｃ－ＵＰ	

下地処理
コンクリートの打継ぎ箇所の処理
※打継ぎ部分に対し、幅30mm及び深さ30mmにＶ形にはつり、水洗い清掃した後、防水材の製造所の指定する材料を充填
・図示 ・
型枠締付け材にコーンが使用されている部位及び防水材の塗布面以外の下地処理
・図示 ・

⑥ シーリング

下表以外は、標準仕様書表9.7.1による (9.7.2、3、5)(表9.7.1)
ただし、外壁タイル接着剤張りの場合のシーリングは11章に、カーテンウォールの場合のシーリングは17章による

施工箇所	シーリング材の種類（記号）
外壁	MS-2
サッシ廻り	MS-2
水廻り	SR-1

⊙その他適宜必要箇所

シーリング材の目地寸法
※標準仕様書9.7.3(1)(ｱ)～(ｳ)による
・図示 ・
外部に面するシーリング材の接着性試験
※簡易接着性試験 ・引張接着性試験

注 練り混ぜた２成分形シーリング材は、１組の作業班が１日に行った施工箇所を１ロットとして、各ロットごとにサンプリングを行い、サンプリング試料を監督員に提出すること。

7 防水工事施工票

※設置する（ ヶ所） (2.1.2)
（施工年月日は防水工事施工完了日(手直しは除く)を記入）

10 石工事

1 施工

石材の割付け ・図示 ・ (10.1.3、5)
粗面仕上げの場合ののみ込み部分の仕上げ ・図示 ・
屋内の床を本磨きとする場合のワックスかけ
・行う（適用場所 ・すべて ・ ）
・行わない

2 石材等

天然石 (10.2.1、3)(表10.2.1、2)

施工箇所	岩石の種類	等級	形状及び寸法(mm)	厚さ(mm)	表面仕上げの種類	備考
・床石		※2等品	※正方形に近い矩形（石材1枚の面積が0.8㎡以下） ・			

テラゾブロック

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	形状による区分	仕上げ面による区分	寸法(mm)	表面仕上げの種類	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・平もの ・役もの	・片面 ・両面			

テラゾタイル

施工箇所	種石の種類	種石の大きさ(mm)	寸法による区分	表面仕上げ	備考
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・３００型 ・４００型		
	※大理石 ・花こう岩	※1.5～12 ・	・３００型 ・４００型		

取付け用モルタル、既調合の目地モルタル、石裏面処理材、裏打ち処理材、金物の固定に使用する充填材料
※専門工事業者の指定する製品 ・

3 外壁湿式工法

受金物 (10.2.2、3)(10.3.2、3)
材質 ※SUS304 ・
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 L=150mm
・

アンカーの材質及び寸法
※SS400 M12 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法等（ ）
ドレンパイプの材質
・樹脂ネット製パイプ クロスメッシュ巻き25～35φ
・
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※流し筋工法
・あと施工アンカー工法
・あと施工アンカー、横筋流し工法
目地
一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※標準仕様書表11.1.1による ・図示
シーリング材の目地寸法 ※幅・深さともに10mm以上 ・図示

4 内壁空積工法

受金物 (10.2.2、3)(10.4.2、3)
材質 ※SUS304 ・
形状及び寸法 ・L-75×75×6(mm)の加工 L=100mm
・L-75×75×6(mm)の加工 L=150mm
・
アンカーの材質及び寸法
※SS400 M12 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法等（ ）
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
下地ごしらえ ※あと施工アンカー、横筋流し工法
・あと施工アンカー工法
目地
一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ※6m程度ごと ・図示
シーリング材の目地寸法 ※幅・深さともに10mm以上 ・図示

5 乾式工法

取付け方式 (10.2.2、3)(10.5.2、3)(表10.2.4)
・スライド方式 ・ロッキング方式
金物の種類、形状、寸法等
※標準仕様書表10.2.4による ・
アンカーの材質及び形状 ※ステンレス(SUS304) M10 ・
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）
だぼ用の穴の位置 ※標準仕様書10.5.2(2)(ｱ)による ・図示
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
外壁の工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1、・1.15、・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地 目地幅(mm) ※8以上 ・
シーリング材 ・適用する（※標準仕様書9章7節による ・図示）
・適用しない

6 床及び階段の石張り

床石張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない (10.6.2、3)
階段張りの裏面処理 ・適用する ・適用しない
目地
一般目地 目地幅(mm) ・図示 ・屋外4以上 ・屋内3～6
シーリング材 ・適用する ・適用しない
伸縮調整目地 位置 ・図示 ・標準仕様書10.6.2(5)(ｲ)による
シーリング材の目地寸法 ※幅、深さともに10mm以上
・図示 ・

7 アーチ、上げ裏等の石張り

取付け工法 ・内壁空積工法 ・乾式工法 (10.2.2)(10.7.1、2)
取付け金物 標準仕様書10.2.2(3)参照
材質 ※ステンレス（SUS304） ・
寸法 引金物 ・
だぼ ・
かすがい ・
受け金物 ・
ファスナーの形状 ・スライド式 ・ロッキング方式
吊金物及び化粧吊りボルト
・設ける 吊金物 ※ステンレス(SUS304)径6mm長さ80mm（加工物）
・
吊りボルト ※ステンレス(SUS304)M10化粧ナット付き
・
・設けない
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）
アンカーの材質及び径 ・SS400 M12 ・ステンレス(SUS304)M10 ・
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
裏打ち処理 ・適用する ・適用しない
目地 一般目地 目地幅(mm) ※6以上 ・
伸縮調整目地 位置 ※他の部位との取合い部 ・図示
シーリング材の目地寸法 ※幅、深さともに10mm以上
・図示 ・

8 笠木、甲板等の石張り

取付け工法 ・外壁湿式工法 ・乾式工法 (10.2.2)(10.7.1、3)
取付け金物 標準仕様書10.2.2(3)参照
材質 ※ステンレス（SUS304） ・
寸法 引金物 ・
だぼ ・
かすがい ・
受け金物 ・
ファスナーの形状 ・スライド式 ・ロッキング方式
あと施工アンカーの材質及び寸法（ ）
石裏面処理 ・適用する ・適用しない
アンカーの材質及び径 ・ステンレス(SUS304)M10 ・
乾式工法の場合の取付け代 ・70mm程度 ・
石裏の補強用モルタル ・適用する ・適用しない

11 タイル工事

① 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地

位置 ※標準仕様書 表11.1.1による ・図示 (11.1.3)(表11.1.1)

② セメントモルタルによるタイル張り

タイルの形状・寸法等 (11.2.2、3、7)

施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ種	Ⅱ種	Ⅲ種	うわぐすり 無ゆう	施ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用 G	耐凍害性 有	無	耐滑り性		備考
ポーチ① ポーチ②	300□	⊙	・	・	・	⊙	⊙	・	⊙	・	・	・	⊙	⊙		
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
モルタル塗りのコンクリート素地面の処理
・MCR工法 ・目荒し工法（高圧水洗処理） ・
壁タイル張りの工法
外壁タイル ・密着張り ・改良積上げ張り ・改良圧着張り
内装タイル以外のユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り

・既調合モルタル
モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。

3 有機系接着剤によるタイル張り

タイルの形状・寸法等 (11.3.2～4、7)

施工箇所	形状/寸法(mm)	吸水率による区分 Ⅰ種	Ⅱ種	Ⅲ種	うわぐすり 無ゆう	施ゆう	役物 有	無	色 標準	特注	再生材の適用 G	耐凍害性 有	無	耐滑り性		備考
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		
		・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・		

標準的な曲がりの役物は一体成形とする
試験張り ・行う ・行わない
見本焼き ・行う ・行わない
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・
下地調整塗材塗りを行うコンクリート素地面の処理
・MCR工法 ・目荒し工法(高圧水洗処理) ・
目地のシーリング材
打継ぎ目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・
ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系シーリング材 ・
伸縮調整目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・
その他の目地 ※変成シリコーン系シーリング材 ・

12 木工事

① 表面仕上げ

(12.1.4)

表面仕上げの種別		適用箇所
機械加工	・Ａ種	
	⊙Ｂ種	建具枠，ロールスクリーンボックス，他
	・Ｃ種	
手加工	・Ｈ－Ａ種	
	・Ｈ－Ｂ種	
	・Ｈ－Ｃ種	

② 製材 G

(12.2.1)(12.4.1)(12.5.1)(12.6.1)(12.7.1)

・「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	材面の品質	間伐材等の適用
			※2級 ・		※A種 ・B種 ・			・
			※2級 ・		※A種 ・B種 ・			・

・「製材の日本農林規格」による造作用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	形状	含水率	保存処理	材面の品質	間伐材等の適用
見え掛り面			※上小節 ・		※A種 ・B種 ・			・
見え掛り面以外			※小節以上 ・		※A種 ・B種 ・			・
					※A種 ・B種 ・			・

・「製材の日本農林規格」による広葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	等級	含水率	保存処理	材面の品質	間伐材等の適用
			※1等 ・	※10%以下 ・A種・B種・ ・			・
			※1等 ・	※10%以下 ・A種・B種・ ・			・

・「製材の日本農林規格」以外の製材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	材面の品質	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用
			（ ） 造作材の場合 （※A種・B種）	※A種 ・B種 ・	・	・
			（ ） 造作材の場合 （※A種・B種）	※A種 ・B種 ・	・	・

③ 造作用集成材 G

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ (12.2.1)

⊙「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	見付け材面数	寸法(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
⊙図示				※１等 ・２等	⊙
				※１等 ・２等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面数	寸法(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
						※１等 ・２等	・
						※１等 ・２等	・

・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	化粧薄板の厚さ(mm)	寸法(mm)	見付け材面の品質	間伐材等の適用
						・
						・

・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
				※15%以下 ・	・
				※15%以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
						※15%以下 ・	・
						※15%以下 ・	・

・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	化粧薄板の樹種	芯材の樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率	間伐材等の適用
						※15%以下 ・	・
						※15%以下 ・	・

4 造作用単板積層材G

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ (12.2.1)

・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質（化粧加工の有無）	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		・有り（加工 ・天然木加工・塗装加工） ・無し（等級 ・１等 ・２等 ・３等）	・する ・しない	・

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	寸法(mm)	表面の品質（化粧加工の有無）	含水率	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		・有り（加工 ・天然木加工・塗装加工） ・無し（ ）	※14%以下 ・	・	・
		・有り（加工 ・天然木加工・塗装加工） ・無し（ ）	※14%以下 ・	・	・

・ＣＬＴ（直交集成板）G

施工箇所	曲げ性能（強度等級）	種別	接着性能（使用環境）	樹種	寸法(mm)	間伐材等の適用
						・
						・

⑤ 合板等

ホルムアルデヒド放散量 ※規制対象外 ・ (12.2.1)

・「合板の日本農林規格」による普通合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	板面の品質	単板の樹種名	防虫処理の適用	間伐材等の適用
	※5.5 ・	※1類 ・2類	広葉樹 ※２等以上 ・１等 針葉樹 ※C-D以上 ・		・	・

⊙「合板の日本農林規格」による構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	等級	板面の品質	単板の樹種名	強度等級	防虫処理の適用	間伐材等の適用
⊙図示	※12 ⊙9	※1類 ・特類	※2級 以上 ・1級	※C・D以上 ・		・指定する （ ） ・指定しない	・	・

・「合板の日本農林規格」による化粧ばり構造用合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	単板の樹種名	接着の程度	防虫処理の適用	間伐材等の適用
			・1類 ・特類	・	・

・「合板の日本農林規格」による天然木化粧合板 G

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	化粧板に使用する単板の樹種名	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		・1類 ・2類		・	・

・「合板の日本農林規格」による特殊加工化粧合板 Ⓖ

施工箇所	厚さ(mm)	接着の程度	単板の樹種名	化粧加工の方法	防虫処理の適用	間伐材等の適用
		・1類 ・2類			・	・

・パーティクルボード Ⓖ

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	耐水性による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)
		※13タイプ ・	※P又はM ・		※15 ・

・構造用パネル

施工箇所	厚さ(mm)	等級
		・1級 ・2級 ・3級 ・4級

・MDF Ⓖ

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ(mm)	間伐材等の適用
						・

6 接合具等　諸金物の形状、寸法及び材質　(12.2.2、3)
※かすがい、座金、箱金物及び短冊金物は、標準仕様書12.2.2(2)(ｱ)による ・
接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
ホルムアルデヒドの放散量　※規制対象外 ・

⑦ 防腐・防蟻・防虫処理　(12.3.1、2)
・防腐、防蟻処理を省略できる樹種による製材
適用部位：（　　）
・薬剤の加圧注入による防腐、防蟻処理

適用部材	保存処理性能区分
	・K2 ・K3 ・K4
	・K2 ・K3 ・K4

⊙薬剤の塗布等による防腐、防蟻処理

適用部材	処理の方法	薬剤の種類
外壁下地	※標準仕様書12.3.1(ｲ)(b)①～④による ・	

・薬剤の接着剤への混入による防腐、防蟻処理
適用部位（　　）
・合板等の加圧注入による防腐、防蟻処理　（　　）

防虫処理　・適用する　・適用しない

8 内部間仕切、窓、床等の木材　RC造等の内部間仕切軸組　※彩又は松 ・　(12.4.1)～(12.7.1)
床組　※彩又は松 ・
窓、出入口その他　吊元枠、水排かりの下枠及び敷居　※ひのき ・
その他　※松又は杉 ・
縁甲板及び上がりがまち　※ひのき ・
壁及び天井下地　※彩又は松 ・

⑬ 屋根及びとい工事

1 長尺金属板葺　材料　(13.2.2、3)

施工箇所	板及びコイルの種類	塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号	厚さ(mm)	屋根葺形式	備考
	※JIS G 3322の屋根用コイル ・			・心木なし瓦棒葺 ・立平葺・縞掛葺 ・横葺 ・	

下葺材料　・アスファルトルーフィング 940
・改質アスファルトルーフィング下葺材
（・一般タイプ ・複層基材タイプ ・粘着層付タイプ）
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法
雪止め　・設置する（施工箇所　※図示　・　　）

② 折板葺　材料　(13.2.2)(13.3.2、3)(表13.2.1)

施工箇所	形式	山高、山ﾋﾟｯﾁによる区分		耐力による区分	材料による区分	厚さ(mm)	軒先面戸板	耐火性能
		山高	山ﾋﾟｯﾁ					
⊙ 図示	・重ね形 ⊙はぜ締め形 ・かん合形	90	300	（　）種	※鋼板製 ・ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金板製	0.6	⊙有り ・無し	⊙30分 ・無し

板及びコイルの種類（ JIS G 3322 ）
塗膜の耐久性、めっき付着量等の種類及び記号（　　）
タイトフレームに JIS G 3302 以外の鋼材を直接外気の影響を受けない屋内で使用する場合の表面処理（標準仕様書表14.2.2による　・E種　・F種）
断熱材 ⊙有り（種別：裏貼材　厚さ(mm)：4.0　防火性能：　時間）
・無し
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1⊙1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法
折板のけらば納め　※けらば包みによる方法　・

3 粘土瓦葺　材料　(13.4.2、3)

施工箇所	種類 製法による区分	形状による区分	寸法による区分	大きさ	産地	役物瓦の種類	雪止め瓦の使用
							・する ・しない
							・する ・しない

JIS A 5208 に基づく凍害試験等　※行わない　・行う（　　）
瓦桟木　材質　※杉　・ひのき　・
寸法　※幅21×高さ15(mm)以上　・
棟補強用心材　材質　※杉　・ひのき　・
寸法　※幅40×高さ30(mm)以上　・
棟補強等に使用する金物等
材質、形状、寸法及び留付け方法　・図示　・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法
桟木の留付け工法　※図示　・
棟の工法　※標準仕様書13.4.3(4)(ｱ)、(ｲ)による　・

④ とい　といその他の材種　(13.5.2、3)(表13.5.1～5)
・配管用鋼管　⊙硬質ポリ塩化ビニル管　・ルーフドレン　⊙カラーVP
とい受け金物の材種、形状、取付け間隔　※標準仕様書13.5.2による　・
足金物の材種、形状、取付け間隔　※標準仕様書表13.5.2による　・
多雪地域の場合の軒どいの取付間隔　※0.5m以下　・
防露材のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・

鋼管製といの防露巻き
・適用する（工法：※標準仕様書表13.5.4による　・　　）
・適用しない

⑭ 金属工事

1 ステンレスの表面仕上げ　(14.2.1)

種　類	施工箇所（手すり、タラップ、建具以外）
※HL程度	
・鏡面仕上程度	
・No.2B 程度	

2 アルミニウム及びアルミニウム合金の表面処理　※表面処理は標準仕様書表14.2.1による　(14.2.2)(表14.2.1)

種　別	施工箇所（成形板、笠木、建具以外）
・AB－1種	
・AB－2種	
・AC－1種	
・AC－2種	
・BA－1種	
・BA－2種	
・BB－1種	
・BB－2種	
・BC－1種	
・BC－2種	
・C 種	

陽極酸化皮膜の着色方法　※二次電解着色　・三次電解着色
色合い等
・標準色
・アンバー　・ブロンズ
・ブラック系　・ステンカラー　・
・特注色（　　）

3 鉄鋼の亜鉛めっき　(14.2.3)(表14.2.2)

表面処理方法	種　別	施工箇所（手すり、タラップ以外）
溶融亜鉛めっき	・A種	
	・B種	
	・C種	
電気亜鉛めっき	・D種	
	・E種	
	・F種	

④ 軽量鉄骨天井下地　野縁等の種類　(14.4.2～4)(表14.4.1)
屋外（※25形　・19形）　屋内（※19形　・25形）

⊙屋外の軒天井、ピロティ天井等
⊙ 屋内に準ずる
野縁受、吊りボルト及びインサートの間隔　・図示　・
周辺部の端からの間隔　・図示　・
野縁の間隔　・図示　・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1・1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法

・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合の補強方法　※図示　・
・天井のふところが1.5m以上3.0m以下の場合の補強方法
※標準仕様書14.4.4(8)による　・図示　・
・天井のふところが3.0mを超える場合の補強方法　※図示　・

・天井下地材における耐震性を考慮した補強
補強箇所　※図示　・
補強方法　※図示　・

⑤ 軽量鉄骨壁下地　スタッド、ランナーの種類　(14.5.3、4)(表14.5.1)
※標準仕様書表14.5.1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類
・図示　⊙ 外壁：65形　⊙ 間仕切壁：100形（但し、従業員執務室・給湯室間間仕切壁は 50形）
スタッドの高さが5.0mを超える場合　※図示　・
出入口及びこれに準ずる開口部の補強
※標準仕様書14.5.4(5)による　・

6 金属成形板張り　種別　※図示　・　(14.6.2、3)(表14.2.1)
表面処理　※図示　・
取付け用下地　※標準仕様書14.4による　・図示　・
伸縮調整継手　・設ける（施工箇所　・図示　・　　）　・設けない

⑦ アルミニウム製笠木　種類　・250形 ⊙300形　・350形　(14.7.2、3)(表14.2.1)(表14.7.1)
表面処理　種別　（ BB-2 ）種
色合等　⊙標準色（・アンバー・ブロンズ・ブラック系・ステンカラー）
・特注色
笠木の固定金具の工法等
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1⊙1.15・1.3）倍の風圧力に対応した工法

⊙ 図示による　(14.8.2、3)
手すり　・ステンレス製　SUS304（表面処理　※HL程度　・　）
・鋼製（表面処理　・溶融亜鉛めっき種　・　）
タラップ　・ステンレス製　SUS304（表面処理　※研磨なし　・HL程度）
・鋼製（表面処理　※溶融亜鉛めっき種　・　）

⑮ 左官工事

① 下地　ラス系下地　(15.2.4～7)
施工箇所　⊙図示　・
ラス系下地のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
せっこうボード、その他のボード下地
種類及び張り方　・図示　・
こまい下地
施工箇所　・図示　・
こまい下地のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
木ずり下地
施工箇所　・図示　・

② モルタル塗り　モルタル　・現場調合材料　・既調合材料　(15.3.2、5)
既製目地材　・設ける　施工箇所（　　）　形状（※図示　・　）
・設けない
床の目地　・設ける（目地割り　※2㎡程度(最大目地間隔3m程度)　・　）
（種類　※押し目地　・　）
・設けない
外装タイル張り下地等の下地モルタル塗り及び下地調整塗材塗りの接着力試験
・適用する　・適用しない

3 セルフレベリング材塗り　種類及び品質　・せっこう系　・セメント系　(15.5.2)(表15.5.1)

4 仕上塗材仕上げ　建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　(15.6.2、4)
※規制対象外　・

仕上塗材の種類
薄付け仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・外装薄塗材 Si	・	・砂壁状
・可とう形外装薄塗材 Si	・	・ゆず肌状（・吹付け　・ローラー塗り）
・外装薄塗材 E	・	・さざ波状
・可とう形外装薄塗材 E	・	・平たん状
・防水形外装薄塗材 E	・	・凹凸状（・吹付け　・こて塗り）
・外装薄塗材 S	・	・着色骨材砂壁状（・吹付け　・こて塗り）
・内装薄塗材 C	・	・砂壁状じゅらく
・内装薄塗材 L	・	・京壁状じゅらく
・内装薄塗材 Si	・	
・内装薄塗材 E	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
・内装薄塗材 W	・	

厚付け仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・外装厚塗材 C	・	・打放し　・凸部処理　・平たん状
・外装厚塗材 Si	・	・凹凸状　・ひき起こし　・かき落とし
・外装厚塗材 E	・	
・内装厚塗材 C	・	吸放湿性　・適用する　・適用しない
・内装厚塗材 L	・	上塗材　・適用する　・適用しない
・内装厚塗材 G	・	外装厚塗材 C の上塗材
・内装厚塗材 Si	・	・ｾﾒﾝﾄｽﾀｯｺ　・
・内装厚塗材 E	・	

複層仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・複層塗材 CE	・	・ゆず肌状　・凸部処理　・凹凸状
・可とう形複層塗材 CE	・	
・複層塗材 Si	・	耐候性　※耐候形３種　・
・複層塗材 E	・	上塗材
・複層塗材 RE	・	溶　媒　※水系　・溶剤系　・弱溶剤系
・防水形複層塗材 CE	・	樹　脂　※アクリル系　・
・防水形複層塗材 E	・	外　観　※つやあり　・つやなし
・防水形複層塗材 RE	・	・メタリック
・防水形複層塗材 RS	・	

軽量骨材仕上塗材

呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等
・吹付用軽量塗材	・	
・こて塗用軽量塗材	・	

ＡＬＣパネルの場合の下地処理
内壁目地部の形状　※Ｖ形目地付き　・

5 マスチック塗材塗り　種別　・A種　・B種　(15.7.2)

6 せっこうプラスター塗り　施工箇所　・図示　・　(15.8.2、3)

7 ﾄﾞﾛﾏｲﾄﾌﾟﾗｽﾀｰ塗り　施工箇所　・図示　・

8 しっくい塗り　施工箇所　・図示　・　(15.10.1～3)

9 こまい壁塗り　施工箇所　・図示　・　(15.11.2～8)

10 ロックウール吹付け　ロックウールのホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・　(15.12.2、3)
接着剤のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・
吹付け厚さ(mm)　・図示　・25　・

⑯ 建具工事

1 防火戸　※建具表による　・　(16.1.3)

2 見本の製作等　建具見本の製作　・行う（建具符号：図示）　・行わない　(16.1.4)
建具見本の程度　・工事に使用するものとして、あらかじめ製作する
・納まり等が分かる程度のもの
特殊な建具の仮組　・行う（建具符号：図示）　・行わない

3 防犯建物部品　・適用する（※建具表による　・　）　・適用しない　(16.1.6)

④ アルミニウム製建具　性能値等（建具符号、枠の見込み寸法：建具表による）　(16.2.2、4、5)(表14.2.1)
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級　※建具表による　・図示
外部に面する建具　⊙A種　・B種　・C種（木下地　・D種　・E種）
・防音ドア、防音サッシとする場合　遮音性の等級（　　）
・断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合　断熱性の等級（　　）
・耐震ドアとする場合　面内変形追随性の等級（　　）
表面処理
外部に面する建具　種別　・BB-1種　⊙BB-2種　（標準仕様書表14.2.1）
着色　⊙標準色　・特注色
屋内の建具　種別　・BC-1種　⊙BC-2種　（標準仕様書表14.2.1）
着色　⊙標準色　・特注色
結露水の処理方法　※図示　・
水切り板、ぜん板　※図示　・
木下地の場合の外部に面する建具回りの止水処理
内付け建具　・図示（建具の製造所の仕様による）　・

⑤ 網戸等　(16.2.3)

種類	材種	線径	網目
⊙防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス(SUS316)製	※0.25mm以上 ・	※16～18メッシュ ・
・防鳥網	ステンレス(SUS304)線材	1.5mm	網目寸法15mm

6 樹脂製建具　性能値等（建具符号、枠の見込み寸法：建具表による）　(16.2.5)(16.3.2～5)
耐風圧性等級、気密性等級、水密性等級　※建具表による　・図示
外部に面する建具　・A種　・B種　・C種（木下地　・D種　・E種）
・防音ドア、防音サッシとする場合
遮音性の等級　・T－A種　・T－B種
・断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合
断熱性の等級　・H－A種　・H－B種　・H－C種
ガラス　※複層ガラス　・
表面色　※標準色　・特注色
水切り板、ぜん板　※図示　・
木下地の場合の外部に面する建具回りの止水処理
内付け建具　・図示（建具の製造所の仕様による）　・

7 鋼製建具　性能等級（建具符号：建具表による）　(16.2.2)(16.4.2～4)(表16.4.2)
・簡易気密型ドアセット（建具符号：・建具表による　・　）
外部に面する建具の耐風圧性　・S－4　・S－5　・S－6
・防音ドア、防音サッシとする場合　遮音性の等級（　　）
・断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合　断熱性の等級（　　）
・耐震ドアとする場合　面内変形追随性の等級（　　）
大型建具
※適用しない（標準仕様書表16.4.2による）
・適用する（建具符号、鋼板類の厚さ：建具表による）

8 鋼製軽量建具　性能等級（建具符号：建具表による）　(16.2.2)(16.5.2～4)
・簡易気密型ドアセット（建具符号：・建具表による　・　）
・防音ドア、防音サッシとする場合　遮音性の等級（　　）
・断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合　断熱性の等級（　　）
・耐震ドアとする場合　面内変形追随性の等級（　　）
材料
鋼板　※亜鉛めっき鋼板　・ビニル被膜鋼板　・カラー鋼板　・ステンレス鋼板
召合せ、縦小口包み板等の材質　※鋼板　・建具表による
大型建具
※適用しない（標準仕様書表16.5.1による）
・適用する（建具符号、鋼板類の厚さ：建具表による）

9 ステンレス製建具　性能等級（建具符号：建具表による）　(16.2.2)(16.4.2)(16.6.2～5)
・簡易気密型ドアセット（建具符号：・建具表による　・　）
外部に面する建具の耐風圧性　・S－4　・S－5　・S－6
・防音ドア、防音サッシとする場合　遮音性の等級（　　）
・断熱ドア、断熱サッシ Ⓖ とする場合　断熱性の等級（　　）
・耐震ドアとする場合　面内変形追随性の等級（　　）
材料　鋼板　※SUS304、SUS430J1L、SUS443J1　・
表面仕上げ　※HL　・鏡面仕上げ　・
ステンレス鋼板の曲げ加工　※普通曲げ　・角出し曲げ

⑩ 木製建具　建具材の加工、組立時の含水率　※B種　・　(16.7.2～4)
建物内部の木製建具に使用する表面材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

⊙フラッシュ戸
⊙ 図示による
表面材の合板の種類

合板の種類	規格等	備考
・普通合板 Ⓖ	表面の樹種 生地、透明塗料塗り （※ラワン合板程度　・　） 不透明塗料塗り （※しな合板程度　・　） 板面の品質（　） 接着の程度（・1類　・2類） 防虫処理　・行う	
・天然木化粧合板 Ⓖ	樹種名（　） 接着の程度（・1類　・2類） 防虫処理　・行う	
・特殊加工化粧合板 Ⓖ	化粧加工の方法 （・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ・ﾌﾟﾘﾝﾄ・塗装） 表面性能（　）タイプ 接着の程度（・1類　・2類） 防虫処理　・行う	

表面板の厚さ　※表16.7.6による　・
・かまち戸
かまち樹種（　）　鏡板樹種（　）
見込み寸法　※36mm　・建具表による　・
・ふすま
張りの種別（・Ⅰ型　・Ⅱ型）
上張り(押入等の裏側以外)　・鳥の子　・新鳥の子又はビニル紙程度
縁仕上げ　・塗り縁　・生地縁（素地）　・生地縁（ウレタンクリヤー塗装）
見込み寸法　※19.5mm　・建具表による　・
・戸ぶすま
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
・紙張り障子
見込み寸法　※30mm　・建具表による　・
枠及びくつずりの材料　・建具表による　・

⑪ 建具用金物　⊙ 図示による　(16.8.2、3)(表16.8.1)
金物の種類及び見え掛り部の材質等
※標準仕様書表16.8.1及び適用は建具表による　・
樹脂製建具に使用する丁番
※標準仕様書表16.8.3による　・建具表による　・
握り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付位置
・建具表による　・図示　・
木製建具に使用する戸車及びレール
※標準仕様書表16.8.5による　・建具表による　・

⑫ 鍵　マスターキー　⊙製作する（　　）　(16.8.4)
・製作しない
その他の鍵　※各室３本１組　・
鍵箱　※有り　・無し

13 自動ドア開閉機構　引き戸用駆動装置（表16.9.1、5）　(16.9.2、3)

自動ドア	性能	防錆	センサーの種類	凍結防止
・SSLD-1 ・SSLD-2 ・DSLD-1 ・DSLD-2	※耐電圧、温度上昇、耐久性（サイクル）は標準仕様書表16.9.1による ・	・適用する ・適用しない	・マットスイッチ ・光線（反射）スイッチ ・熱線スイッチ ・音波スイッチ ・光電スイッチ ・電波スイッチ ・タッチスイッチ ・押しボタンスイッチ ・ペダルスイッチ ・多機能トイレスイッチ	・行う （適用箇所は建具表による） ・行わない

多機能トイレ出入口引き戸用駆動装置（表16.9.2）
耐電圧、温度上昇、耐久性(サイクル)、防錆、電源
※標準仕様書表16.9.2による
・耐電圧（　）　・温度上昇（　）
・耐久性(サイクル)（　）　・防錆（　）
・電源（　）
引き戸用検出装置（表16.9.3）
放射無線周波数電磁界耐性、耐電圧、防錆、防滴、電源
※標準仕様書表16.9.3による
・放射無線周波数電磁界耐性（　）　・耐電圧（　）
・防錆（　）　・防滴（　）　・電源（　）
戸の開閉方式　・図示
引き戸用検出装置の種類（表16.9.4）　・建具表による
凍結防止措置　・適用する（建具表）　・適用しない

14 自閉式上吊り引戸装置　性能　※標準仕様書表16.10.1による　・　(16.10.3)
・標準仕様書表16.10.1によらない場合は下記による
（　　）

15 重量シャッター　シャッターの種類　(16.11.2、3)
・管理用シャッター　耐風圧強度（　）N/㎡
・外壁用防火シャッター　耐風圧強度（　）N/㎡
・屋内用防火シャッター
・防煙シャッター
開閉機能による種類　※上部電動式（手動併用）　・上部手動式
保護装置
二重チェーン、急降下制御装置、急降下停止装置、障害物感知装置の設置個所
※建具表による　・
管理用シャッターのシャッターケース　※設ける　・設けない
スラット及びシャッターケース用鋼板
鋼板の種類　・JIS G 3302（溶融亜鉛めっき鋼板）
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっきの付着量　※Z12又はF12　・

16 軽量シャッター　開閉形式　※手動式　・上部電動式（手動併用）　(16.12.2～4)
耐風圧強度　（　）N/㎡
スラットの材質
・JIS G 3312（塗装溶融亜鉛めっき鋼板）
めっき付着量　（※Z06又はF06　・　）
・JIS G 3322（塗装溶融55%アルミニウム－亜鉛合金めっき鋼板）
めっき付着量　（※AZ90　）
スラットの形状　・インターロッキング形　・オーバーラッピング形

17 オーバーヘッドドア　(16.13.2、3)

セクション材料による区分	耐風圧区分(Pa)	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材質
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ	・125(1250Pa) ・100(1000Pa) ・75（ 750Pa) ・50（ 500Pa)	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

障害物感知装置を設置する電動シャッター　※建具表による　・

⑱ ガラス

(16.14.2～4)(表16.14.1)

適用は以下によるほか、ガラスの種類・厚さの組み合わせは建具表及び図面による。
板ガラスの品種、厚さの呼びによる種類　※建具表による　・図示
型板ガラスの厚さによる種類　※建具表による　・図示
網入り板ガラス、線入り板ガラスの網、線の形状、板の表面の状態、厚さの呼びによる種類　※建具表による　・図示

・合わせガラス
材料板ガラスの種類、厚さの組み合わせ、合わせガラスの合計厚さ、特性による
種類　※建具表による　・図示
形状　・平面合わせガラス　・曲面合わせガラス
落球衝撃はく離特性及びショットバック衝撃特性
・Ⅰ類　・Ⅱ－1類　・Ⅱ－2類　・Ⅲ類

⊙強化ガラス
形状による種類、材料板ガラスの種類による名称、特性による種類
※建具表による　・図示
破片の状態及びショットバック衝撃特性による種類　・Ⅰ類　⊙Ⅲ類

・熱線吸収板ガラス
板ガラスによる種類、厚さによる種類、性能による種類
※建具表による　・図示
性能　・1種　・2種

⊙複層ガラス
材料板ガラスの種類、厚さの組み合わせ、複層ガラスの厚さ
※建具表による　・図示
断熱性による区分　・T1　・T2　・T3　・T4　・T5　・T6
日射取得性、日射遮蔽性による区分　・G　・S
乾燥気体の種類　⊙空気　・アルゴン

・熱線反射ガラス
材料板ガラスの種類、厚さによる種類　※建具表による　・図示
日射熱遮へい性による区分　・1種　・2種　・3種
耐久性による区分(日射熱遮へい性が2種の場合)　・A類　・B類
映像調整　・行う　・行わない

・倍強度ガラス
材料板ガラスの種類、厚さによる種類　※建具表による　・図示

ガラスの留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ(mm)
アルミニウム製	⊙シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	⊙建具の製造所の仕様による ・
鋼製及び鋼製軽量	・シーリング材 ・	・建具の製造所の仕様による ・
ステンレス製	・シーリング材 ・	・建具の製造所の仕様による ・

19 ガラスブロック

(16.14.5)

表面形状	呼び寸法	厚さ	色調 クリア	色調 乳白	目地幅(mm) 平積み	目地幅(mm) 曲面積み	伸縮調整目地(mm)	防火性能
・正方形	・125×125	80	・	・	※8～15 ・15～25 ・	外側 ※15以下 ・ 内側 ※6以上 ・	※6mm以下ごとに10～25 ・図示 ・	※無し ・有り
	・160×160	・95 ・125	・	・				
	・200×200	・95 ・125	・	・				
	・320×320	95	・	・				
・長方形	・250×125	80	・	・				
	・320×160	95	・	・				

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。
壁用金属枠及び補強材　・設ける（形状　※図示　・　）
・設けない
力骨　材質　※ステンレス鋼（SUS304）　・
寸法　※径5.5mm　・
形状　※はしご形状複筋及び単筋　・
化粧目地モルタルの色（　・　）
金属製化粧カバー　材質　・ステンレス製　・アルミニウム製
寸法　※図示　・
形状　※図示　・
工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
目地部の横力骨の納まり
※ガラスブロック製造所の仕様による　・図示　・

17 カーテンウォール工事

1 取付方法、性能等

適用は以下によるほか、カーテンウォール図による。　(17.1.3)(17.2.2)(17.3.2)
取付方法　・層間方式　・柱・梁方式　・方立方式　・スパンドレル方式　・
性能

耐震性能 水平方向(kH)	耐震性能 垂直方向(kV)	水密性	気密性	遮音性	断熱性	耐火性能	耐温度差性(℃)
・1.0 ・	・0.5 ・					・30分 ・1時間	・80 ・70 ・60

耐風圧性能
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1　・1.15　・1.3）倍の風圧力に対応した工法
主要部材の耐風圧性能（ガラスを除く）

支点間距離(h)	耐風圧性能	状態
4m以下	・たわみ量が±(1/150)×h かつ絶対量20mm以下であること ・	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。
4mを超える	・	

層間変位追従性

建築物の構造種別	層間変位量(h=支点間距離)	変位後の状態等
鉄骨造	・±(1/200)×h以上 ・	部材の脱落、ガラスの破損及び主要部材に有害な歪みが起こらないこと。 ｼｰﾘﾝｸﾞは補修程度の損傷であること。
鉄筋コンクリート造 鉄骨鉄筋コンクリート造	・±(1/300)×h以上 ・	

構造用ガスケット
・適用する（施工箇所　・図示　・　）
材質　・クロロプレン系　・EPDM系　・シリコーン系
形状　・H型　・Y型　・C型
寸法(mm)　ガラス板厚(　)、支持枠の厚さ(　)、ウェブの寸法(　)
・適用しない
断熱材 Ⓖ
種類（　）
厚さ(mm)（　）
施工箇所　・図示　・
耐火材料

施工部位	種　別	規格等
・ファスナー部		
・取付けブラケット		
・パネル目地部		
・層間ふさぎ		

2 メタルカーテンウォール

適用は以下によるほか、カーテンウォール図による。　(17.2.2、3、5)
金属系材料の種類
・アルミニウム材　・鋼材　・ステンレス鋼材
（アルミニウム材の場合）
規格等　※標準仕様書16.2.3による
種別　・
箔色　・標準色　・特注色
映像調整　・行う　・行わない
形状及び仕上げ
製品の寸法許容差　※標準仕様書表17.2.1による　・
見え掛り部の仕上げ　・
ガラス溝の寸法、形状　※カーテンウォールの製造所の仕様
取付け
躯体付け金物の取付け位置の寸法許容差
鉛直方向　※±10mm　・
水平方向　※±25mm　・
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅　※±3mm　・
目地の心の通り　※＋2mm
目地両側の段差　※＋2mm　・
各階の基準墨から各部材までの距離　※±3mm　・
シーリング材の種類
・
ガラスの取付け
・シーリング　種類　・
・構造ガスケット　形状、寸法等　・図示　・

3 PCカーテンウォール

適用は以下によるほか、カーテンウォール図による。　(17.3.2～5)(表17.3.1、2)
材料
コンクリート　種類（　）
品質　設計基準強度(Fc)　※30N/mm2　・
スランプ　※12cm　・
気乾単位容積質量
・普通コンクリートの場合　2.1t/m3を超え2.5t/m3以下
・
・単位水量の最大値　※185kg/m3　・
鉄筋　種類記号　※SD295A（・D13　・D10）
補強鉄線の径(mm)　・3.2　・4.0　・5.0　・6.0
網目寸法　・
シーリング材の種類　・
耐火目地材　・
先付けの材料
・表面仕上げ材　・セラミックタイル
・石材（・花こう岩　・大理石　・　）
・
・建具枠
・ゴンドラ用ガイドレール
形状及び仕上げ
製品に見え掛り部の寸法許容差
辺長　※±3mm　・　ねじれ、そり　※＋5mm　・
対角線長の差　※＋5mm　・　曲がり　※＋3mm　・
版厚　※±2mm　・　面の凹凸　※＋3mm　・
開口部内法寸法　※±2mm　・　先付け金物の位置　※＋5mm　・
PCカーテンウォールの仕上げ　・
構造ガスケットを用いる場合のアンカー溝の寸法及び寸法許容差
・

製作
配筋　※図示　・
取付け
カーテンウォール部材の取付け位置の寸法許容差
目地の幅　※±5mm　・
目地の心の通り　※＋3mm
目地両側の段差　※＋4mm　・
各階の基準墨から各部材までの距離　※±5mm　・
ガラスの取付け
・シーリング　種類　・
・構造ガスケット　形状、寸法等　・図示　・

⑱ 塗装工事

① 材料

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量　(18.1.3)
※規制対象外　・

・防火材料　※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする
・仕上表による

② 素地ごしらえ

(18.2.2～7)

下地面等		種別
木部	不透明塗料塗りの場合	※A種　・B種
	透明塗りの場合	・A種　※B種
鉄鋼面		・A種　・B種　※C種
亜鉛めっき鋼面		・A種　・B種
モルタル面及びプラスター面		・A種　※B種
コンクリート面（DP以外）及びALCパネル面		・A種　※B種
押出成形セメント板面及びコンクリート面（DP）		・A種　・B種
せっこうボード面及びその他ボード面	目地：継目処理工法	※A種　・B種
	目地：継目処理工法以外	・A種　※B種

3 錆止め塗料塗り

(18.3.2、3)

下地面等		工程の種別	塗料の種別
鉄鋼面	見え掛り部分	※A種　・B種	※A種　・B種 EP-G(屋内)の場合 ・A種　※B種
	見え隠れ部分	・A種　※B種	
亜鉛めっき鋼面	鋼製建具	※A種　・B種	※A種　・B種 EP-G(屋内)の場合 ※C種
	鋼製建具以外	・A種　※B種	

④ 塗装

(18.4.1～18.14.2)

塗装		種別	塗料の種類
・合成樹脂調合ﾍﾟｲﾝﾄ塗り(SOP)	木部屋外	※A種　・B種	※1種　・2種
	木部屋内	・A種　※B種	※1種　・2種
	鉄鋼面	・A種　※B種	※1種　・2種
	亜鉛めっき鋼面	―	※1種　・2種
⊙クリヤラッカー塗り（CL）		・A種　※B種	―
・アクリル樹脂系非水分散型塗料塗り(NAD)		・A種　※B種	―
⊙耐候性塗料塗り(DP)	鉄鋼面	―	上塗り等級(　)級
	亜鉛めっき鋼面	―	上塗り等級(　)級
	ｺﾝｸﾘｰﾄ面及び押出成形ｾﾒﾝﾄ板面	・A種　⊙B種　・C種	―
・つや有合成樹脂ｴﾏﾙｼｮﾝﾍﾟｲﾝﾄ塗り(EP-G)	ｺﾝｸﾘｰﾄ面、ﾓﾙﾀﾙ面、ﾌﾟﾗｽﾀｰ面、せっこうﾎﾞｰﾄﾞ面、その他ﾎﾞｰﾄﾞ面等	・A種　※B種	―
	屋内の鉄鋼面	・A種　※B種	―
・合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)		・A種　※B種	―
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)		・A種　※B種	―
・ウレタン樹脂ワニス塗り(UC)		・A種　※B種	―
⊙オイルステイン塗り(OS)		塗料：・水性⊙油性	―
・木材保護塗料塗り(WP)		・A種　※B種	―

屋上、屋根面の金属面に塗装する場合の塗料は高日射反射率塗装 Ⓖ とする。
・高日射反射率塗料塗り Ⓖ
耐候性屋根用塗料（JIS K 5675）種類　※2種　・
等級　・1級　・2級　・3級
塗付け量　※塗料製造所の仕様による　・

⑲ 内装工事

① 接着剤

接着剤のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・　(19.2.2)
接着剤は可塑剤（難揮発性の可塑剤を除く）が添付されていないものとする。
施工箇所の下地がセメント系下地及び木質系下地以外の場合の接着剤の種別
・図示　・

2 ビニル床シート Ⓖ

(19.2.2、3)

種類の記号	色柄	厚さ(mm)	備考
※FS(複層ﾋﾞﾆﾙ床ｼｰﾄ) ・ ・	・無地 ・ﾏｰﾌﾞﾙ柄 ・柄物	※2.0 ・	

目地処理する場合の工法　※熱溶接工法　・

③ ビニル床タイル Ⓖ

⊙ 図示による　(19.2.2)

種類の記号	色柄	寸法	厚さ(mm)	備考
※KT(ｺﾝﾎﾟｼｼｮﾝﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・TT(単層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・FT(複層ﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・FOA(量敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ) ・FOB(薄型置敷きﾋﾞﾆﾙ床ﾀｲﾙ)	・無地 ・柄物	・300×300 ・450×450 ・500×500	※2.0 ・2.5 ・3.0 ・	

4 特殊機能床材

(19.2.2)

シート種別	厚さ、寸法、形状	性能	種類
・帯電防止床シート	(mm)		
・帯電防止床タイル	× (mm)		
・視覚障害者用床タイル	× (mm)		
・耐動荷重性床シート	(mm)		
・防滑性床シート	(mm)		
・防滑性床タイル	× (mm)		

⑤ ビニル幅木

材質　⊙軟質　・硬質　・床シート巻上げ（端部の処理は図示）　(19.2.2)
高さ(mm)　※60　・75　・100
厚さ(mm)　※1.5以上　・

6 ゴム床タイル

色柄　（　）　(19.2.2)
厚さ(mm)（　）
寸法(mm)（　）

7 カーペット敷き Ⓖ

・織じゅうたん　(19.3.2、3)(表19.3.1)
品質　織り方及びパイル形状　（　）
色柄、パイル糸の種類　（　）
種別　・A類　・B類　・C類
帯電性　・適用する　・適用しない
織じゅうたんの接合方法　※ヒートボンド工法　・
下敷き材　※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

・タフテッドカーペット

パイル形状	ﾊﾟｲﾙ長さ(mm)	工法	帯電性	備考
・カットパイル	・	※全面接着工法 ・グリッパー工法	・適用する(　) ・適用しない	
・ループパイル	・			
・カット、ループ併用	・			

下敷き材（グリッパー工法の場合）
※反毛フェルト(JIS L 3204)の第2種2号　呼び厚さ8mm　・

・ニードルパンチカーペット
厚さ(mm)（　）
帯電性　・適用する（性能：※人体帯電圧3kv以下　・　）　・適用しない
備考　（　）

・タイルカーペット

パイル形状	種　別	施工箇所	寸法	総厚さ(mm)	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500× 500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500× 500 ・	※6.5 ・	
・ｶｯﾄ、ﾙｰﾌﾟ併用	・第一種 ・第二種		※500× 500 ・	※6.5 ・	

タイルカーペットの敷き方　平場　※市松敷き　・模様流し　・
階段部分　※模様流し　・市松敷き　・
見切り、押え金物　・適用する（材質、形状等　※図示　・　）
・適用しない

8 合成樹脂塗床

塗料のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・　(19.4.2、3)(表19.4.4～8)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 (弾性ｳﾚﾀﾝ樹脂系塗床)			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ　・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 (ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床)		・薄膜流しのべ工法 ・厚膜流しのべ工法 ・樹脂ﾓﾙﾀﾙ工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材 (ｴﾎﾟｷｼ樹脂系塗床)			※平滑仕上げ
・ｱｸﾘﾙ樹脂塗床 (JIS K 5970) (防塵塗料塗り)		※製造所の指定による	工程 塗布量（kg/㎡） ※0.25kg/㎡以上 表面仕上げ ※平滑　・防滑 溶剤 ※水性　・溶剤系　・無溶剤系 仕上げ色 ※標準色　・

9 フローリング張り

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量　(19.5.2～6)(表19.5.1～6)
※規制対象外　・
単層フローリング Ⓖ
・フローリングボード1等
工法　・釘止め工法（・根太張り　・直張り）　・接着工法
樹種　※なら　・
厚さ、大きさ　※標準仕様書表19.5.1、3による　・
仕上塗装　・塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用　・する　・しない
・フローリングブロック1等
工法　※接着工法　・
樹種　※図示　・
厚さ、大きさ　※図示　・
仕上塗装　・塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用　・する　・しない
複合フローリング Ⓖ
・天然木化粧複合フローリング
工法　・釘止め工法（・根太張り　・直張り）　・接着工法
樹種　※なら　・
種別（標準仕様書表19.5.2、4、6）　・A種　・B種　・C種
仕上塗装　・塗装品　・無塗装品
間伐材等の適用　・する　・しない
接着工法の場合の裏面緩衝材　※合成樹脂発泡シート　・
・現場塗装仕上げ　※ウレタン樹脂ワニス塗り
・オイルステインの上、ワックス塗り
・生地のままワックス塗り

10 畳敷き

(19.6.2)(表19.6.1)
種別　・A種　・B種　・C種　・D種（畳床：・KT-Ⅰ・KT-Ⅱ・KT-Ⅲ・KT-K・KT-N）
下地の種類　・標準仕様書表12.6.1による床組
・ポリスチレンフォーム床下地（ノンフロン Ⓖ ）
・
畳表及び畳床はホルムアルデヒド、アセドアルデヒド及びスチレンを発散しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。

⑪ せっこうボード、その他のボード及び合板張り

適用は以下によるほか図示による。　(19.7.2、3)(表19.7.1)
合板類、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

木質系セメント板

種　類	厚さ(mm)、規格等
・硬質木毛セメント板 Ⓖ	・15　・20　・25　・
・中質木毛セメント板 Ⓖ	・15　・20　・25　・
・普通木毛セメント板 Ⓖ	・15　・20　・25　・
・硬質木片セメント板 Ⓖ	・12　・15　・18　・21　・
・普通木片セメント板 Ⓖ	・30　・

合板、化粧板

・普通合板 Ⓖ	表板の材種 生地、透明塗料塗り （※ﾌﾗﾝ程度　） 不透明塗料塗り （※しな程度　・　） 板面の品質（　） 厚さ(mm)（　） 接着の程度（・1類　・2類） ・防虫処理
・天然木化粧合板 Ⓖ	化粧板の樹種名（　） 厚さ(mm)（　） 接着の程度（・1類　・2類） ・防虫処理
・特殊加工化粧合板 Ⓖ	化粧加工の方法（・ｵｰﾊﾞｰﾚｲ　・ﾌﾟﾘﾝﾄ　・塗装） 表面性能（　）タイプ 厚さ(mm)（　） 接着の程度（・1類　・2類） ・防虫処理
⊙メラミン樹脂化粧板	JIS K 6903による厚さ（※1.2　⊙3　）
・ポリエステル樹脂化粧板	

パーティクルボード

・単板張りパーティクルボード Ⓖ	・無研磨板 VN　・研磨板 VS ・10　・12　・15　・18　・
・化粧パーティクルボード Ⓖ	・単板ｵｰﾊﾞｰﾚｲ DV　・ﾌﾟﾗｽﾁｯｸｵｰﾊﾞｰﾚｲ DO ・塗装 DC ・10（難燃）　・12（難燃）　・

吸音材料

・ロックウール化粧吸音板	・フラットタイプ （・9(不燃)　・12(不燃)　・　） ・凹凸タイプ （・12(不燃)　・15(不燃)　・　）
・ロックウール吸音ボード1号	・25　・
・グラスウール吸音ボード32K	・25（ガラスクロス包）　・
⊙せっこうボード	⊙12.5（不燃）　・15（不燃）
・不燃積層せっこうボード	9.5（不燃）　・化粧無（下地張り用） ・化粧有（トラバーチン模様）
⊙シージングせっこうボード	12.5（※不燃　・準不燃）
・強化せっこうボード	・12.5（不燃）　・15（不燃）
・せっこうラスボード	9.5
・化粧せっこうボード(木目)	12.5（不燃）幅440mm程度 模様(・柾目　・板目)専用下地材有り
⊙化粧せっこうボード （トラバーチン模様）	9.5（準不燃）

繊維強化セメント板

・けい酸カルシウム板	タイプ2(無石綿)　・6　・8
・	

繊維板

・ハードボード(素地) Ⓖ	・未研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ）RN ・研磨板（・ｽﾀﾝﾀﾞｰﾄﾞ　・ﾃﾝﾊﾟｰﾄﾞ）RS
・ハードボード（化粧） Ⓖ	・内装用 DI　・外装用 DE ・2.5　・3.5　・5　・7
・ミディアムデンシティファイバーボード（MDF） Ⓖ	・3　・7　・9　・12　・
・インシュレーションボード Ⓖ	A級（・天井仕上　・内装仕上　・　） ・9　・12　・15　・18

せっこうボード等の下地　※図示　・
遮音シール材　・適用する（・シーリング材　・ジョイントコンパウンド）
・適用しない
合板類の張付け　・A種　※B種
せっこうボードの目地工法　・仕上表による　・

⑫ 壁紙張り

壁紙のホルムアルデヒド放散量　※規制対象外　・　(19.8.2、3)

施工箇所	壁紙の種類 紙	織物	塩化ﾋﾞﾆﾙﾌﾟﾗｽﾁｯｸ	無機質	その他	防火規別	備考
⊙ 図示	・	・	・	・	・	・不燃⊙準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	
	・	・	・	・	・	・不燃・準不燃	

モルタル、プラスター面の素地ごしらえ　・A種　※B種
コンクリート・ALC面の素地ごしらえ　・A種　※B種
せっこうボード面の素地ごしらえ　・A種　※B種

⑬ 断熱材 Ⓖ

(19.9.2、3)
フェノールフォームを使用した断熱材及び接着剤のホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

※断熱材打込み工法

種類	厚さ(mm)	施工箇所
・ビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・
・押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし)	・	・
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・
・フェノールフォーム断熱材	・	・

・断熱材現場発泡工法
断熱材の種類　※A種1　・A種1H
厚さ(mm)　・25　・30　・
施工箇所　・図示　・

⊙ 図示による

株式会社 第一建築設計事務所

埼玉県浦和競馬組合

課長	副参事	主幹	主査		担当
飛塚	石井	阿相	矢島		矢島

日付
改訂　R4.1(Ver.R4-1)

工事名　浦和競馬場北門警備棟建築工事
図面名称　特記仕様書（その4）
図面No.　D-04

⑳ ユニット及びその他工事

1 フリーアクセスフロア

フリーアクセスフロア及び表面仕上材 (20.2.2)

施工箇所	構　法	寸法(mm)	高さ(mm)	耐震性能	所定荷重(N)	表面仕上げ材	備　考
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3,000 ・5,000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	
	・置敷式 ・支柱調整式	・500×500 ・		・1.0G ・0.6G	・3,000 ・5,000	・帯電防止床ﾀｲﾙ ・ﾀｲﾙｶｰﾍﾟｯﾄ ・	

フリーアクセスフロアスフロアの試験方法
※標準仕様書20.2.2(ｲ)(a)～(d)による　・
寸法精度
※標準仕様書20.2.2(ｵ)(a)～(c)による　・

※工法及び上記以外はフリーアクセスフロアの製造所の仕様による

2 可動間仕切

パネル材のホルムアルデヒド放射量　※規制対象外　・ (20.2.3)

構造形式	構成基材の種類 ｽﾀｯﾄﾞ	構成基材の種類 パネル	総厚さ(mm)	表面仕上材 材質	表面仕上材 厚さ(mm)	表面仕上材 ﾊﾟﾈﾙ表面仕上げ	遮音性(db/500HZ)	防火性能
・スタッド式（内蔵） ・スタッド式（露出） ・パネル式 ・スタッドパネル式				・鋼板 ・	・0.6 ・0.8	・ﾒﾗﾐﾝ樹脂焼付又はｱｸﾘﾙ樹脂焼付 ・壁紙張り ・	・0 ・12 ・20 ・28 ・36	・不燃

パネル内に取付ける建具　・あり（※図示　・　）　・なし
ドアクローザー、丁番、錠前、上げ落としは、標準仕様書 16章 8節 の建具用金物に対応する材質とする。
表面仕上材を壁紙張りとする場合の品質、性能は標準仕様書19章による。

3 移動間仕切

(20.2.4)

構造形式	操作方法	圧接装置の操作方法	総厚さ(mm)	パネル表面材 材質	パネル表面材 仕上げ	遮音性(dB/500Hz)
・平行方向移動式 ・二方向移動式	・手動式 ・電動式 ・部分電動式	・プッシュ式 ・ハンドル式 ・		・鋼板 ・	・焼付塗装 ・壁紙張り ・	・36未満 ・36以上

パネル表面仕上げの壁紙張りの品質、性能は、標準仕様書19章による。
遮音性能は、JIS A 6512に準拠し、中心周波数500Hzの音についての透過損失とする。
ハンガーレールの取付け下地の補強
※取付け全重量の５倍以上の荷重に対して、使用上支障のない耐力及び変形量となるように補強する。
・図示

④ トイレブース

パネル材料のホルムアルデヒド放射量　※規制対象外　・ (20.2.5)

⊙ 図示による

表面材の種類	脚部形状	ドアエッジの材質
・メラミン樹脂系化粧板 ・ポリエステル樹脂系化粧板	※幅木タイプ ・	・アルミニウム製 ・ステンレス製 ・表面材と同材 ・製造所の標準仕様

5 階段滑り止め

材種　・ステンレス製　・黄銅製押出型材 (20.2.6)
・アルミニウム製押出型材　・
滑り止め材　形状　・ひも型　・タイヤ型　・
材質　・ゴム　・合成樹脂　・
取付け方法　※接着工法　・埋め込み工法　・
幅　mm　端部フラットエンド　・あり　・なし

⑥ 手すり

⊙ 図示による

材種	表面仕上げ	直径(mm)	取付箇所	備考
・集成材	・ｸﾘｱﾗｯｶｰ　・	・35　・45		
・ステンレスパイプ	・HL　・			
・鋼製パイプ	・EP-G　・SOP　・			
・ビニル製ハンドレール	・			

7 黒板及びホワイトボード G

・黒板　区分　※焼き付け　・ (20.2.8)
種類　・ほうろう　・鋼製　・
色　※緑　・
・ホワイトボード（　）

⑧ 鏡

取付箇所（ 図示による） (20.2.9)
寸法（mm）　⊙図示　・
厚さ（mm）　※ 5　・

9 表示

・衝突防止表示 (20.2.10)
形状（※丸形　・図示　）
寸法（※300　・　・　）
材質（・ステンレス製　・　）
・誘導標識、非常用進入口等の表示　※消防法に適合する市販品　・

案内用図記号はJIS Z 8210による。
色、書体、印刷等の種別、取付け形式等は図示による。
その他の表示　※図示

10 煙突ライニング

・煙突用成形ライニング材 (20.2.11)
適用安全使用温度　・400℃　・650℃　・

11 ブラインド

(20.2.12)

形式	操作方法	種　類	スラットの材種	ｽﾗｯﾄ幅(mm)	ﾎﾞｯｸｽ・ﾚｰﾙのみの材種	寸法・取付箇所
・横形	・手動	※ギヤ式 ・コード式 ・操作棒式	※アルミニウム合金製 ・	※25 ・	※鋼製 ・	・図示 ・
	・電動	―				
・縦形	・手動	※２本操作ｺｰﾄﾞ式 ・１本操作ｺｰﾄﾞ式	・アルミスラット ・クロススラット ・	・80 ・100	ｱﾙﾐﾆｳﾑ合金製	・図示 ・
	・電動	―				

スラットの材質
アルミスラット　焼付け塗装仕上げ
クロススラット　消防法で定める防炎性能の表示がある特殊樹脂加工
ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用した製品を使用する場合 G とする

⑫ ロールスクリーン

操作方法　・スプリング式　⊙コード式　・電動式 (20.2.13)
幅、高さ　⊙図示
材種　ガラス繊維製　⊙合成天然繊維製　・木製
品質等　⊙防炎　⊙ウォッシャブル
その他の材料　※ロールスクリーンの製造所の仕様による　・

13 カーテン

(20.2.14)

形式		開閉操作	ひだの種類	きれ地の種別、品質、特殊加工等	取付箇所	備考
・シングル ・ダブル	・片引き ・引分け	・手引き ・ひも引き ・電動	・フランスひだ ・箱ひだ、つまひだ ・ﾌﾟﾚｰﾂひだ、片ひだ		・図示 ・	
						（暗幕）

ポリエステル繊維又は植物を原料とする合成繊維を使用する場合は、G とする
暗幕カーテンの両端、上部及び召合せの重なり　※300mm以上　・

14 カーテンレール

材料による区分　※アルミニウム及びアルミニウム合金の押出し成型材 (20.2.14)
・ステンレス製
強さによる区分　※10-90　・
仕上げ　※アルマイト　・
形状　※角形　・

⑮ ブラインドボックス及びカーテンボックス

⊙ 図示による
溝型×深さ(mm)　・90×150　・120×80　・120×150　・150×80　・図示
材質　・集成材（仕上げ：　）
・アルミニウム製　押出し型材（市販品）
種別（標準仕様書表14.2.1）　・BC-1種　・BC-2種
色合い　・標準色（　）　・特注色（　）
・鋼製（仕上げ：　）

⑯ 天井点検口

材種	寸法	形式		外枠	内枠
※アルミニウム製 ・	⊙450×450 ・600×600 ・	⊙一般形 ・気密形	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙額縁タイプ ・目地タイプ	⊙額縁タイプ ・目地タイプ

⑰ 床点検口

材種	寸法	形式		備考
⊙アルミニウム製 ・ステンレス製 ・鋼製	⊙450×450 ・600×600 ・	⊙一般形 ・密閉形	・屋内外用 ⊙屋内用	⊙鍵付き

密閉型とは、ボルト、ナット等メカニカル構造にパッキンを装着したものとする。

18 耐震スリット

方　向	タ　イ　プ	耐火性能	防水性能	備考
・垂直方向 ・水平方向	※完全（全貫通型）	・耐火型 ・非耐火型	・有り ・無し	

目地

目地	内壁	外壁
目地材	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（見え掛かり部のみ） ・	・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（見え掛かり部のみ） ・ｼｰﾘﾝｸﾞ材（内外とも）
目地寸法(幅mm×深さmm)	・20×10　・	・20×10　・

目地材の材質は標準仕様書表9.7.1による。

19 止水版

形式　・差込式　・据置式　・壁張り式
施工箇所　・図示　・

20 エキスパンション・ジョイント金物

材種	クリアランス(mm)	耐火性能	備考
・アルミニウム製 ・ステンレス製	・50　・100 ・150　・	・有り（　） ・無し	図示

外部は防水型とする。

21 くつふきマット

材種	受け枠	備考
・塩化ビニル又はゴム製 ・硬質アルミニウム合金製 ・ステンレス鋼(SUS304)製 ・	・ステンレス製(SUS304) ・硬質アルミニウム合金 ・	

㉒ 流し台ユニット

⊙ 図示による

材種	寸法(mm) W	D	H	備考
・流し台	・1200 ・1500 ・1800	・550 ・600 ・650	・800 ・850	市販品 トラップ付き 天板ステンレス製
・コンロ台	・600	・550 ・600 ・650	・620 ・670	市販品 バックガード有り 天板ステンレス製
・つり戸棚	・1200 ・900	・450	・500 ・700	市販品
・水切り	・1200 ・900 ・600	―	―	市販品 ステンレス製 ・１段式　・

品質・性能　JIS A 4420による。
形状　※図示　・

23 旗竿

材種	形式	高さ(m)	操作方法	固定方法	備考
・アルミニウム合金製 ・	・テーパー式 ・同一断面式		・ハンドル式 ・ロープ式	・埋込式 ・ベース式 ・バンド式	

24 旗竿受金物

材種　・ステンレス製（SUS304）　・

25 車止めさく

形式		材種	柱径、肉厚(mm)	高さ(mm)
・上下式鎖内蔵式	・標準品 ・スプリング式	・ステンレス製 ・	・	・
・				

㉖ フェンス

⊙ 図示による
フェンスの種類　・ビニル被覆エキスパンドフェンス
・樹脂塗装メッシュフェンス
・鋼管フェンス　・アルミフェンス
高さ　・図示　・

27 プレキャストコンクリート

補強鉄線の径及び網目寸法　（　） (20.3.2～4)
コンクリートの設計基準強度
※水セメント比55%以下、単位セメント量の最小値300kg/m³ を満足する調合強度
・図示
配筋
※配筋を定めた計算書を監督員に提出する。　・図示
取付け方法
※図示　・

28 間知石及びコンクリート間知ブロック積み

(20.4.2、3)

材種		種類	質量区分	備考
・間知石	・花こう岩 ・凝灰岩	―	―	
・コンクリート間知ブロック	―		・A　・B	

積み方　※谷積み　・布積み
目塗り　・図示　・
伸縮調整目地　材種　・図示　・
厚さ　・図示　・

29 鋼製書架及び物品棚

種　類	規　格　等	JIS による種類
・鋼製書架	JIS S 1039の規格による	・１種　・２種　・３種
・鋼製物品棚		・４種　・５種　・６種　・

30 屋内掲示板

枠の材質　※アルミニウム製　・
表面の材質　※塩ビ発泡シート張り　・

31 洗面カウンター

材種　・メラミン樹脂化粧板張り（芯材：集成材）　・人工大理石
奥行き(mm)　・約450　・約600

32 防煙垂れ壁

・固定式

材　質	厚さ(mm)	高さ(mm)	備　考
※網入り磨板ガラス ・線入り磨板ガラス	※6.8 ・	※500 ・	アルミ製枠付き

・可動式

種　類	材　質	高さ(mm)	備　考
・垂直降下式（巻取り型）	※不燃布（不燃認定品）	※500 ・800 ・	ガイドレール ※固定式（壁埋込型） ・可動式（天井収納型）
・回転降下式	鋼板製又はアルミ製	※500 ・800 ・	表面仕上げ ※天井材張り ・

降下機構　煙感知器連動及び手動開放装置（埋込型）

33 屋外掲示板

照明器具　※有り　・無し
施錠　※有り　・無し
製造所　（　）

34 収納家具

材質、形状、寸法　※図示　・
合板類、ＭＤＦ及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量
※規制対象外　・

21 排水工事

1 屋外雨水排水

材料 (21.2.1、2)(表21.2.1、2)

材種	管の種類	形状	呼び径	備考
・遠心力鉄筋コンクリート管	※外圧管（1種）	・Ｂ形管 ・	※図示　・	
・硬質ポリ塩化ビニル管	・VP		※図示　・	
	・VU		※図示　・	
	・RS-VP G		※図示　・	
	・RS-VU G		※図示　・	

基床の厚さ及び種類　・図示　・
硬質ポリ塩化ビニル管の継手に用いる材料　※接着剤　・
側塊の形状及び寸法　・図示　・
排水桝の種類　・図示　・
砂地業に用いる材料(標準仕様書4.6.2(2))
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料(標準仕様書4.6.2(1))
・再生クラッシャラン G　・切込砂利　・切込砕石

現場打ちの場合のコンクリート材料　設計基準強度　※18N/mm2　・
現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD295A　・
現場打ちの場合の足掛け金物の材料
・ステンレス製　・鋼製(防錆処置)　・鋼製(合成樹脂被覆加工)
凍上抑制層の厚さ　・図示　・
凍上抑制層に用いる材料　・
砂の粒度試験　・行う　・行わない
埋戻し土　※標準仕様書表3.2.1（※Ｂ種　・　）　・

2 鋳鉄製ふた

鋳鉄製マンホールふた (21.2.1)

種類	適用荷重	鍵	備考
・水封形 ・簡易密閉形(パッキン式) ・密閉形(テーパ・パッキン式) ・中ふた付き密閉形(テーパ・パッキン式) ・RS-VU G	・Ｔ－２用 ・Ｔ－６用 ・Ｔ－２０用 ・	・有り ・無し	左記以外の品質等は、(公社)空気調和衛生工学会SHASE-S209による。

3 グレーチング

・鋼製 (21.2.1)

形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用	・細目 ・	・（　） ・	・凹凸形 ・
		・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用 ・	・普通目 ・細目	・（　） ・	・平形 ・

・ステンレス製

形式	用途	適用荷重	ﾒｲﾝﾊﾞｰﾋﾟｯﾁ	亜鉛めっき（付着量）	上面形状
・受枠付き、ボルト固定 ・	・溝ふた(横断用) ・溝ふた(側溝用) ・桝ふた用 ・Ｕ字溝用	・歩行用	―	―	・凹凸形 ・
		・T-2用 ・T-6用 ・T-14用 ・T-20用 ・	―	―	・平形 ・

4 街きょ、縁石、側溝

(21.3.1、2)(表21.3.1)

種類	形状、寸法
・縁石	・図示　・
・Ｌ形側溝	・図示　・
・Ｕ形側溝	・図示　・
・Ｕ形側溝ふた	・図示　・
・	・図示　・

地業の材料
・シルト　・山砂　・川砂　・砕砂
砂利地業に用いる材料
・再生クラッシャラン　・切込砂利　・切込砕石
砂利地業の厚さ　※100(mm)　・図示
現場打ちの場合のコンクリート材料　設計基準強度　※18N/mm2　・
現場打ちの場合の鉄筋　種類の記号　※SD295A　・
凍上抑制層の厚さ　・図示　・
凍上抑制層に用いる材料　・
砂の粒度試験　・行う　・行わない
埋戻し土　※標準仕様書表3.2.1（※Ｂ種　・　）　・

㉒ 舗装工事

1 路床

路床の材料 (22.2.2、3、5)(表22.2.1)

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・Ａ種　・Ｂ種　・Ｃ種　・Ｄ種 ・建設汚泥から再生した処理土 G	・図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャラン G　・クラッシャラン ・切込み砂利 ・川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量6%以下） ・	・図示 ・
・フィルター層	・川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量6%以下） ・	・図示 ・

・路床安定処理
安定処理の方法　・安定処理工法　・置き換え工法
添加材料による安定処理
種類　・普通ポルトランドセメント　・高炉セメントＢ種 G
・フライアッシュセメントＢ種
・生石灰（・特号　・1号）　・消石灰（・特号　・1号）
・固化材（・セメント系　・石灰系）
添加量　kg/m³（目標CBR　・3以上　・　）
路床置換処理
置換厚さ　※図示　・
置換材料の種類、品質　※図示　・

・不織布（ジオテキスタイル）
単位面積質量　・60g/㎡以上　・
厚さ(mm)　・0.5～1.0　・
引張強さ　・98N/5cm（10kgf/5cm）以上　・
透水係数　・1.5×10-1cm/sec以上　・

試験
砂の粒度試験　・行う　・行わない
路床土の支持力比（ＣＢＲ）試験　・行う（　箇所）　・行わない
現場ＣＢＲ試験　・行う（　箇所）　・行わない
安定処理土のＣＢＲ試験　・行う（　箇所）　・行わない
路床締固め度の試験　・行う　・行わない
六価クロム溶出試験　・行う　・行わない

2 路盤

路盤の構成及び厚さ　・図示　・ (22.3.2、3)(表22.3.1)
路盤材料

種　別	
砕　石	・クラッシャラン
	・粒度調整砕石
再生材	・クラッシャラン G
	・粒度調整砕石 G
・クラッシャラン鉄鋼スラグ G	
・粒度調整鉄鋼スラグ G	
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ G	

3 アスファルト舗装

アスファルト舗装の構成及び厚さ　※図示　・ (22.4.2～6)(表22.4.1、4)
材料及び種類
アスファルト　・再生アスファルト G　（・60～80　・80～100）
・ストレートアスファルト
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G
加熱アスファルト混合物等の種類（配合は標準仕様書表22.4.4による）
・密粒度アスファルト混合物（１３）
・細粒度アスファルト混合物（１３）
・密粒度アスファルト混合物（１３Ｆ）
・粗粒度アスファルト混合物（２０）
シールコートの施工　・行う　・行わない
試験
アスファルト混合物等の抽出試験　・行う　・行わない
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

4 コンクリート舗装

構成及び厚さ (22.5.2～4)(表22.5.1～3)

舗装の種類	部位	構成	厚さ(mm)
コンクリート版	・車路、駐車場	※図示	・150　・200
	・歩行者用通路	※図示	※70　・

縁部立下り寸法等　・図示
材料
コンクリート
※普通コンクリート　標準仕様書表22.5.1による　・
・普通コンクリートではない場合は下記による
コンクリートの種類　・
設計基準強度　・
所定のスランプ　※8　・
粗骨材の最大寸法　・
早強ポルトランドセメント　・使用する　・使用しない
注入目地材料　※低弾性タイプ　・高弾性タイプ
アスファルト乳剤　・プライムコート(1.5L/㎡)
溶接金網
敷設位置　※ｺﾝｸﾘｰﾄ版厚150mmの場合は、1/2程度の位置とする
※ｺﾝｸﾘｰﾄ版厚200mmの場合は、表面から1/3程度の位置とする
・図示
目地
種類　※標準仕様書表22.5.3による　・
間隔　※標準仕様書表22.5.3による　・　m程度ごと
構造　※標準仕様書図22.5.1による　・図示
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・

5 カラー舗装

・加熱系カラー舗装 (22.6.2～4)
構成及び厚さ　※図示　・
加熱系混合物の結合材
・アスファルト混合物
・石油樹脂系混合物　顔料の添加量（　%）
舗装の平たん性
※通行の支障となる水たまりを生じない程度　・
着色骨材　（　）
自然石　（　）
・常温系カラー舗装
工法　・ニート工法　・塗布工法
着色部の下部　・アスファルト舗装　・コンクリート舗装
配合その他　・図示　・

⑥ 透水性舗装

透水性舗装の構成及び厚さ　※図示　・
材料
骨材　・道路用砕石
・アスファルトコンクリート再生骨材 G　（表22.4.1）
（種類　・60～80　・80～100）

区分	種類	部位	厚さ(mm)
表層	・ポーラスアスファルト	車路、駐車場	50
	・開粒度アスファルト	歩行者用通路	30
	・透水性コンクリート		70
	・透水性インターロッキングブロック	・車路、駐車場	80
		・歩行者用通路	60
敷砂層	・砂	・車路、駐車場	20
		・歩行者用通路	30
フィルター層	川砂、海砂又は良質な山砂（75μmふるい通過量6%以下）		100

アスファルト乳剤（プライムコート）の施工は行わない。

⊙透水性アスファルト舗装 Ⓖ
・ポーラスアスファルト混合物(13) ⊙開粒度アスファルト混合物(13)
配合(表22.7.1)

ふるいの呼び名	ふるいの通過質量百分率（%）	
	車路、駐車場	歩行者用通路
19mm	100	100
13.2mm	90～100	95～100
4.75mm	11～35	20～36
2.36mm	10～20	12～25
300μm	―	5～13
75μm	3～7	3～6
アスファルト（%）	4～6	3.5～5.5

基準値(表22.7.2)

項目	基準値	
	車路、駐車場	歩行者用通路
最大粒径（mm）	13	
安定度 （kN）	3.43以上	3.0以上
フロー値 （1/100cm）	―	20～40
空隙率 （%）	20程度	12以上
動的安定度 （回/mm）	3,000以上	―
透水係数 （cm/s）	1×10^{-2}以上	

試験
開粒度アスファルト混合物等の抽出試験 ⊙行う ・行わない
・ア繊布（ジオテキスタイル）
敷設位置 ※フィルター層と路床の間に敷設 ・図示
舗装の平たん性 ※著しい不陸がないもの ・

・透水性コンクリート舗装 (22.5.2～4、6)
コンクリート舗装に対する基準値

項目	基準値
最大粒径 （mm）	13
空隙率 （%）	20以上
透水係数 （cm/s）	1×10^{-2}以上
目地の間隔	版厚の20倍程度

構成、厚さはコンクリート舗装による
・不織布（ジオテキスタイル）
敷設位置 ※フィルター層と路床の間の敷設 ・図示

・透水性コンクリート平板舗装 (22.8.2、3)
透水性コンクリート平板舗装は、ブロック系舗装による

・透水性インターロッキングブロック舗装 (22.8.2、3)
透水性インターロッキングブロック舗装は、ブロック系舗装による

7 半たわみ性舗装

半たわみ舗装（車路、駐車場）の構成及び厚さ ※図示 (22.3.2、3、5)(表22.3.1)

区分	種類	厚さ(mm)
表層	半たわみ性舗装用アスファルト混合物Ⅰ型(13)	40
基層	再生粗粒度アスファルト混合物(20)	40

試験
半たわみ性舗装用アスファルト混合物等の抽出試験 ・行う ・行わない

材料
浸透用セメントミルクの標準的な性状

項目	性状	試験方法
フロー値(Pロート)砂	10～14	舗装調査・試験法便覧（C041）
圧縮強度(7日養生) MPa	9.8～29.4	JIS R 5201
曲げ強度(7日養生) MPa	2.0以上	舗装調査・試験法便覧（C042）

配合
半たわみ性舗装用アスファルト混合物の標準配合

ふるいの呼び名	ふるい通過質量百分率（%）
19.0 mm	100
13.2 mm	95～100
4.75 mm	10～ 35
2.36 mm	5～ 22
600 μm	4～ 12
300 μm	3～ 12
75 μm	1～ 6
アスファルト量（%）	3～ 4.5

半たわみ性舗装用アスファルト混合物のマーシャル安定度試験に対する基準値

項目	基準値
密度 （g/cm³）	1.9以上
安定度 （kN）	2.94以上
フロー値 （1/100cm）	20～40
空隙率 （%）	20～28
突固め回数（回）	50

施工
アスファルト混合物等の施工は、標準仕様書22.4.5による。
浸透用セメントミルクの施工は、(1)から(5)による。
(1) 浸透用セメントミルクの製造は、一般に移動式ミキサによって行うが、工事規模が大きい場合には専用の移動式や固定式の混合プラントを用いることもある。
(2) 浸透用セメントミルクの施工は、一般に舗装体表面の温度が50℃程度以下になってから行う。その場合、舗装体にごみ、泥、水などが残っていないことを確認する。浸透作業は、一般に振動ローラ等により行う。
(3) セメントミルクが舗装表面に残っていると、路面のすべり抵抗値を低下させることがあるので、舗装表面の骨材の凹凸が現れる程度にセメントミルクをゴムレーキ等で除去する。特にすべり止め対策を必要とするところは、硅砂の使用及び余剰セメントミルクのよりいっそうの除去等、材料や施工法等で対処するか、場合によっては施工後ショットブラスト等で表面を粗くすることが必要である。
(4) 交通開放までの一般的な養生期間は、下表に示すとおりである。

セメントミルクの種類	養生期間
普通タイプ	約 3 日
早強タイプ	約 1 日
超速硬タイプ	約 3 時間

(5) 浸透用セメントミルクを注入する前に交通開放すると、骨材の剥奪や飛散、またはごみ、泥等による汚れが生じることがあるので、基本的には注入前に交通開放を行わないようにする。

試験
締固め度 標準仕様書22.4.2(2)による

舗装厚さの許容差 ※標準仕様書 22.4.2(3) による
舗装の平たん性 ※通行の支障となる水たまりを生じない程度

8 弾性舗装

弾性舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ (22.4.2～6)（表22.4.2～6）
※図示 ・

区分	種類	厚さ(mm)
表層	弾性舗装材	15～20
基層	再生密粒度アスファルト混合物（13）	30

加熱アスファルト混合物は、アスファルト舗装による

9 ブロック系舗装

・コンクリート平板舗装 Ⓖ（歩行者用通路）の構成及び厚さ (22.8.2、3)
※図示 ・

種類	寸法(mm)	厚さ(mm)	目地材	備考
※普通平板（N） ・透水平板（P） ・保水性平板（M）	※300角 ・	※60 ・	※砂 ・モルタル	表面加工 ・研ぎ出し ・洗い出し ・たたき出し
敷砂層	・砂 ・空練りﾓﾙﾀﾙ			

クッション材 ※砂 ・空練りモルタル

歩行者用通路に使用する普通平板は Ⓖ（再生材料を用いた舗装用ブロック）、透水平板はⒼ（透水性コンクリート）とする。

仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、コンクリート平板間の段差は3mm以内とする。
・

・インターロッキングブロック舗装 Ⓖ の構成及び厚さ ※図示 ・

種類	部位	形状寸法	厚さ(mm)	曲げ強度(N/mm²)	横断面勾配	目地材	備考
※普通ブロック（N） ・透水性ブロック（P） ・保水性ブロック（M）	車路、駐車場	・図示 ・	80	5.0以上	2%	砂	色彩、表面加工 ・標準品 ・
※普通ブロック（N） ・透水性ブロック（P） ・保水性ブロック（M）	歩行者用通路	・図示 ・	60	3.0以上	1.5～2%		

歩行者用通路に使用する普通ブロックは Ⓖ（再生材料を用いた舗装用ブロック）、透水性ブロックは Ⓖ（透水性コンクリート）とする。

仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm以内とする。
・

区分	部位	厚さ(mm)	種類
敷砂層	・車路、駐車場	20	砂
	・歩行者用通路	30	
フィルター層		100	川砂、海砂又は良質な山砂 （75μmふるい通過量6%以下）

・不織布（ジオテキスタイル）
敷設位置 ※図示
・敷砂層と路盤の間に敷設 ・フィルター層と路床の間に敷設
単位面積質量 ・60g/m²程度 ・
厚さ(mm) ・0.5～1.0 ・
引張強さ ・98N/5cm(10kgf/5cm)以上 ・
透水係数 ・1.5×10^{-1}cm/sec以上 ・
舗装の割付（車路、駐車場）
・ヘリンボンボンド(45°) ・ヘリンボンボンド(90°)
仕上り面の平たん性 ※走行、歩行に支障となる段差がないものとし、ブロック間の段差は3mm 以内とする。
・

・舗石舗装（歩行者用通路）の構成及び厚さ ※図示 ・

種類	形状・寸法(mm)	厚さ(mm)	施工方法	基層	基層の厚さ(mm)
※花こう岩 ・	・割石・図示 ・	・	・うろこ張り ・	・ｺﾝｸﾘｰﾄ版 ・ｱｽﾌｧﾙﾄ混合物	※70 ・ ※50 ・

目地材 ※モルタル ・
クッション材 ※砂 ・空練りモルタル
仕上り面の平たん性 ※歩行に支障となる段差がないものとし、舗石間の段差は3mm 以内とする。
・

⑩ 砂利敷き

種別 (22.9.2)(表22.9.1)
・A種（施工範囲：・図示 ・通路 ・ ）
⊙B種（施工範囲：⊙図示 ・建物周囲他 ・ ）

11 路面標示用塗料

路面標示用塗料は JIS K 5665 による。

種類	施工	適用	色	幅(mm)	塗布厚さ(mm)
・1種 Ⓖ	常温	液状	・白 ・	・150 ・100	・1.0 ・
・2種 Ⓖ	加熱				
※3種1号	溶融	粉体状			

Ⓖ 低揮発性有機溶剤型の路面標示用水性塗料

23 植栽及び屋上緑化工事

1 植栽地の確認等

土壌の水素イオン濃度（pH）試験 ・行う ・行わない (23.1.3)
電気伝導度（EC）の試験 ・行う ・行わない

2 植栽基盤の整備 (23.2.2～4)

植栽	工法	有効土層の厚さ(cm)	整備範囲	土壌改良材
・樹木	※A種 ・B種 ・C種 ・D種	樹高12m以上 （※100 ・120 ・150） 樹高7m以上～12m未満 （※80 ・100） 樹高3m以上～7m未満 （※60 ・80） 樹高3m未満 （※50 ・60）	・葉張り部分 ・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない
※芝、地被類	※B種 ・	※20 ・	・植栽部分 ・図示 ・	・適用する ・適用しない

植栽基盤の排水設備 ・設ける（※図示 ・ ） ・設けない

植込み用土 ・適用する（・現場発生土の良質土 ・客土 ・ ）
・適用しない

土壌改良材 ・適用する ・適用しない
・バーク堆肥 Ⓖ
施工箇所 ※植栽範囲 ・図示
使用量 植栽基盤面積1㎡あたり（・50L ・ ）
・汚泥発酵肥料（下水汚泥コンポスト）Ⓖ
施工箇所 ※植栽範囲 ・図示
使用量 植栽基盤面積1㎡あたり（・10L ・ ）
材料
「金属等を含む産業廃棄物に係る判定基準を定める省令」の別表第一の基準に適合する原料を使用したもので、植害試験の調査の結果、害が認められないものとする。

3 樹木

樹種、寸法、株立数等 ※図示 ・ (23.3.2)

4 支柱

支柱材 ※丸太（間伐材）Ⓖ ・真竹 ・ (23.3.2、3)
防腐処理方法 ※加圧式防腐処理丸太材 ・
形式 ・図示 ・

5 幹巻き用材料

材料 ※幹巻き用テープ ・わら及びこも ・ (23.3.2)

6 芝

種類 ※コウライシバ ・ノシバ ・ (23.4.2、3)
芝張りの工法
平地 ※目地張り ・べた張り
法面 ・目地張り ※べた張り

7 吹付けは種 (23.4.2)

種子の種類	発芽率	種子の量（g/m²）	備考
※洋芝類（採取後2年以内）	※発芽率80%以上		
・	・		

8 地被類 (23.4.2)

樹種	コンテナ径	単位面積当たりのコンテナ数	芽立数
・	・	・	・

9 新植、移植樹木、芝等の枯補償 (23.3.4、6)(23.4.7)

新植樹木（芝張り、吹付けは種及び地被類を含む）の枯補償の期間
※引渡しの日から1年 ・無し ・
移植樹木の枯損処置を行う期間
※引渡しの日から1年 ・無し ・

10 屋上緑化 Ⓖ

植栽基盤及び材料 (23.5.2～4)
・屋上緑化システム
土壌層の厚さ ・図示 ・
排水層 ・軽量骨材（層の厚さ： ） ・板状成型品
植込み用土 ※改良土 ・人工軽量土
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※図示 ・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示 ・
・屋上緑化軽量システム
樹木、芝及び地被類の樹種並びに種類、寸法、株立数等 ※図示 ・
見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等 ※図示 ・

工法
建築基準法に基づき定まる風圧力の（・1 ・1.15 ・1.3）倍の風圧力に対応した工法
支柱 ・設置する（形式 ・図示 ・ ）
かん水装置 ・設置する（種類 ・ ）

㉔ その他

① 工事全般における注意事項

※ 地中埋設高圧電線管
本工事建物範囲の一部において、既設地中埋設高圧電線管（GL-1,200以深）が存在する。
根伐工事をはじめ、工事全般において十分注意の上、施工すること。

※ 発生材の処理
発生材の処理は、工事受注者が適法処理を行うこと。
尚、処分については場外搬出処分とし、建築廃棄物処理委託契約書（写），マニフェスト伝票（写）D，E票を提出のこと。

※ 質疑・軽微な変更
図面、仕様等の相違、明記の無い場合、また施工上の質疑が生じた際は、監督員と協議の上、施工すること。
現場の取り合い、納まり等で変更が生じた場合でも、軽微なものについては、請負金額の増減は行わない。

※ 撤去工事
使用機器は低騒音･低振動型のものとし、状況に応じて防音に配慮した施工を行うこと。
風向きや近隣の状況･施設の利用状況に注意し、むやみに窓等を開閉せず、確認の上で施工を行うこと。
コンプレッサーは低騒音・低振動型とし、設置位置は風向きや反射音等の影響を考慮するとともに、施設の利用状況及び近隣の状況を良く把握した上で、適宜場所を変えること。
また、休憩時間など作業が無い時間帯はエンジンを止めること。

※ 車両等
近隣に配慮して、走行速度，歩行者保護の安全走行，騒音防止，不正軽油の監視，排ガス適合低振動低騒音車両などに注意し、場内でのアイドリングストップを守ること。
資材の納入時の車両に関しても、注意を徹底させること。
近隣道路に場内からの粉塵などを拡散させないよう注意すること。
また、仮設計画図をよく確認し、通勤車両の駐車不足分は、近隣に工事受注者の負担にて確保すること。

② 仮設計画における注意事項

※ 仮設実施計画にあたって、仮設材の位置，仕様，車両の進入方法等、敷地内に乗り入れることが可能な車両について、施工前に必ず施設管理者及び施設関係者と協議すること。

※ 仮設実施計画については、監督員と協議の上、承諾を受けた後に工事を行うこと。

※ 仮囲い等は、現場の状況に応じて計画することとし、仮囲いや足場周囲に問題や異常が生じていないかを適宜巡回確認を行うこと。
また、仮囲いの場外側に面する部分は、審線やクランプなどの状態を確認の上、施設利用者，関係者，近隣に対し、安全性に配慮すること。

※ ゲート等の位置は、監督員と協議の上、必要に応じて適切な位置に移動すること。

※ 施設出入口付近に「お知らせ掲示板」（0.9ｘ0.9m程度）を設け、施設利用者に対し工程表，配置図，危険箇所，迂回路（方法）等を記載し、周知させること。
また、安全対策，通行方法に関する貼り紙を施設管理者と協議し、適宜掲示すること。

※ 基本的な搬出入計画，施工工程，車両の進入方法等について、施工前に必ず施設管理者と協議した上で、監督員の承諾を得ること。
また、工事状況により安全・保安仮設材を必要に応じて設置すること。

※ 交通誘導員（警備員）を重機，仮設材，撤去材搬出時等には必ず配置するとともに、重機や大型の工事車両の出入の際は交通誘導員等を増員して、施設利用者，関係者，近隣に対し、交通安全に配慮すること。
また、常時通路や前面道路（ 工事関係者出入口周辺 ）の清掃を行うこと。

※ 粉塵等の飛散の予防の為、出来る限り施工範囲外へ影響がないよう養生等を行い、日常の清掃に努めること。

※ コンプレッサー等の騒音の生じる機器の置き場所には注意を払い、足場内への据付，防音シートで囲うなど、騒音対策を必要に応じて実施すること。

※ 騒音・粉塵等が施設関係者・近隣住民の迷惑にならないよう十分に配慮すること。

※ 仮設トイレの設置場所は充分配慮した位置とし、臭気や目隠しに対する対策を行うこと。

※ 重機等の乗り入れにより、既存舗装に支障が生じた場合は、現況復旧とすること。

※ 仮設材撤去後の工事範囲内の整地は、本工事に含むものとする。

※ 工事関係車両用駐車スペースは、本図に拠る範囲以外には無いため、必要となる駐車台数は工事受注者の負担にて近隣に設けること。

※ 定期的に安全協議会，安全パトロール等を実施し、安全対策に配慮すること。

※ 工事エリアにおいて、建築基準法，労働安全衛生法，環境基本法，その他関係法令を遵守し、必要な手続き及び安全対策を行うこと。

※ 本計画敷地内において、本工事以外に複数の工事を併行して実施するものとし、工事受注者はその旨を充分に理解するとともに、必要に応じて他工事受注者と調整を図り、双方が円滑に工事を進められよう協力すること。

③ その他注意事項・居ながら施工による注意事項

※ 施設全体として居ながら施工となるため、施設の行事予定や一日の中での時間的な制約の有無について、施設管理者及び施設関係者と充分に協議を行い、協力して施工に反映させること。（ 施設運営に極力支障を生じさせないこと ）

※ 工事計画は、施設管理者及び施設関係者と充分協議し、理解の上で計画すること。
その施工内容・手順に伴って、起こり得る問題となる事項や予想され得る事故・事態について、施設管理者及び施設関係者に説明すること。
また、施工により利用者の利便性を損ねる可能性があるので、施工内容の組み合わせ・時間等に対して充分配慮した施工とすること。

※ 工事着手前、並びに各工事の進行前には、施設管理者及び施設関係者と必ず協議を行うこと。

※ 近隣の行事予定を把握し、工事車両の入場計画を立てること。

※ 工事関係者の動線並びに資材搬出入路は、施設利用者及び他工事関係者の動線でもあるため、第三者への安全の確保を最優先とするとともに、通行への障害を最小限となるよう努めること。

※ 発注者の作成する書類，手続き等において、工事受注者は積極的にその協力を行うものとする。

※ 施設管理者及び施設関係者が行う工事対応準備のための会議や資料作成に対し、積極的に協力すること。

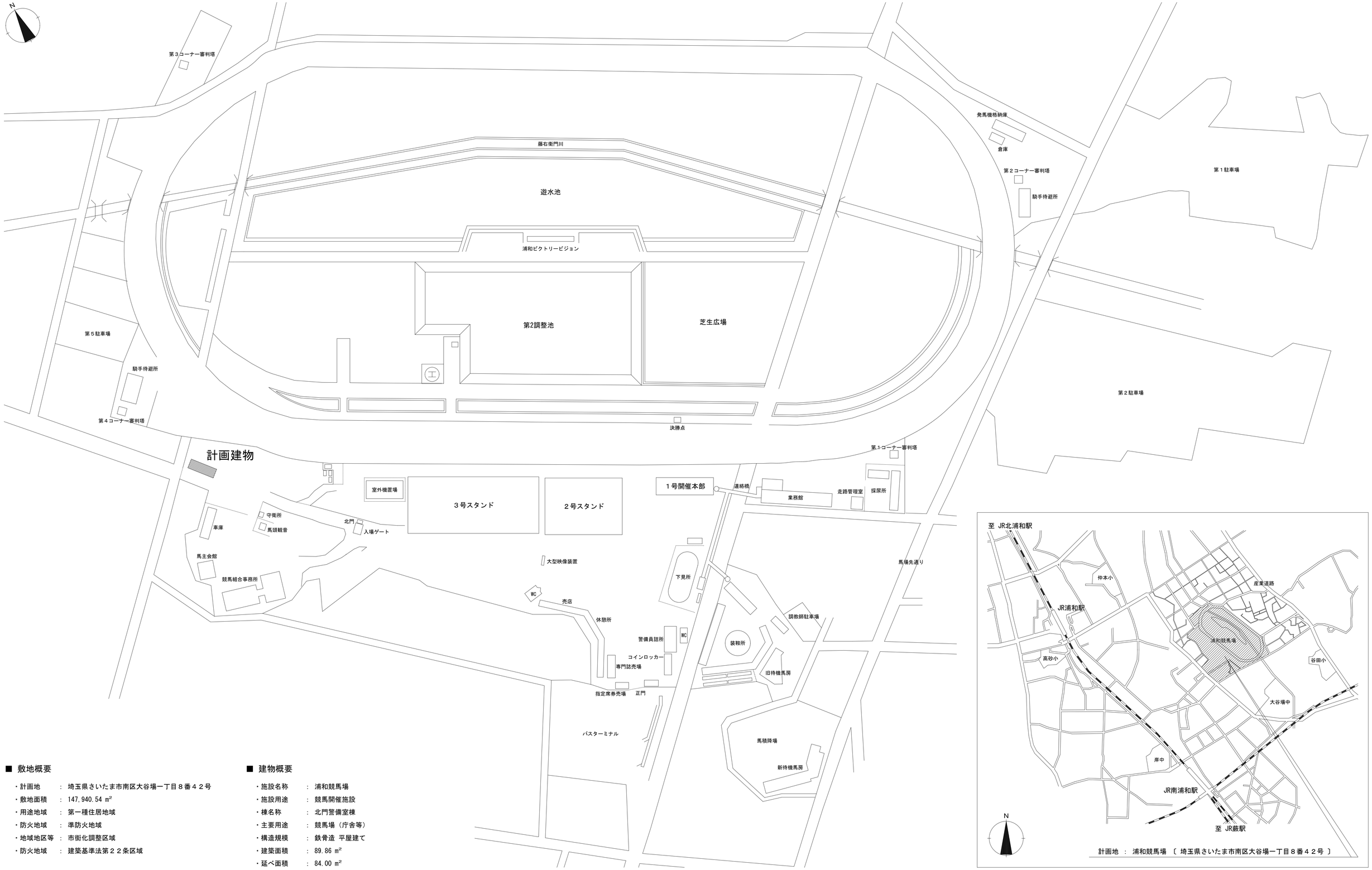
※ 工事状況により、監督員または施設管理者及び施設関係者が工事の中断を指示する場合は、速やかに対処すること。

※ 工事施工中、近隣（ 近隣住民，通行人，工作物，植栽，建築物等 ）に損害を与えた場合には、工事受注者の責任において、損害の補償及び現状に復旧を行うものとする。

※ 本工事に伴う許認可，手続き，届出等は、工事受注者の責任にて行うこと。
また、そのための手数料は、請負金額に含むものとする。

※ 作業員の新規入場教育を徹底し、名簿は常備すること。
休憩場所，喫煙場所などの他、風紀にも充分注意すること。

※ その他、特記仕様書，図示記載事項，現場説明書等を充分に熟知し施工にあたること。



全 体 配 置 図　scale 1 : 1,000

案 内 図　Non Scale

■ 敷地概要

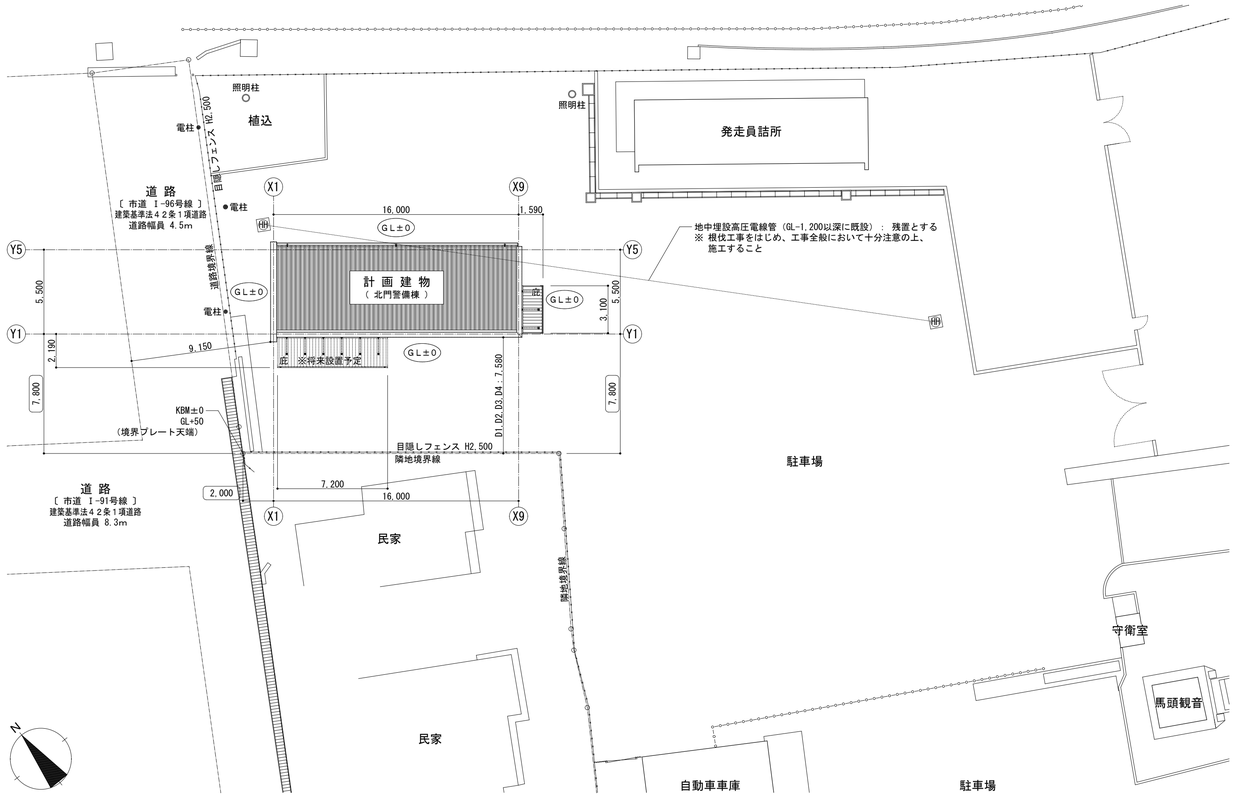
- 計画地　：　埼玉県さいたま市南区大谷場一丁目８番４２号
- 敷地面積　：　147,940.54 m^2
- 用途地域　：　第一種住居地域
- 防火地域　：　準防火地域
- 地域地区等　：　市街化調整区域
- 防火地域　：　建築基準法第２２条区域

■ 建物概要

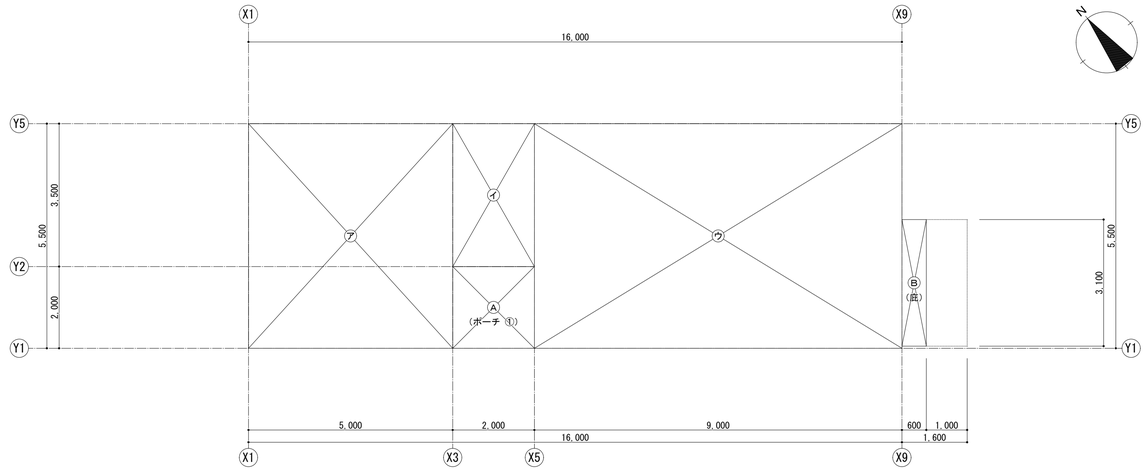
- 施設名称　：　浦和競馬場
- 施設用途　：　競馬開催施設
- 棟名称　：　北門警備室棟
- 主要用途　：　競馬場（庁舎等）
- 構造規模　：　鉄骨造 平屋建て
- 建築面積　：　89.86 m^2
- 延べ面積　：　84.00 m^2

株式会社第一建築設計事務所
〒350-1126　埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357　FAX 049-244-5372
一級建築士 大臣登録 第 348040 号　古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D－07
				年／月／日	図面名称：案内図，全体配置図，敷地概要，建物概要	縮尺：A1 1:1,000　A3 1:2,000



部 分 配 置 図　scale 1 : 200



■ 各部面積算出表

記号	計　算　式	面積（㎡）
㋐	5.000 × 5.500	27.500 000
㋑	2.000 × 3.500	7.000 000
㋒	9.000 × 5.500	49.500 000
Ⓐ	2.000 × 2.000	4.000 000
Ⓑ	0.600 × 3.100	1.860 000

■ 延べ床面積

計　算　式
㋐＋㋑＋㋒
＝ 27.500 ＋ 7.000 ＋ 49.500
＝ 84.000
改め　84.00 ㎡

■ 建築面積

計　算　式
㋐＋㋑＋㋒＋Ⓐ＋Ⓑ
＝ 27.500 ＋ 7.000 ＋ 49.500 ＋ 4.000 ＋ 1.860
＝ 89.860
改め　89.86 ㎡

建 物 求 積 図　scale 1 : 75

■ 居室床面積算定

警備室
（ 3.00 × 5.50 ）
＝ 16.500 000　→ 16.50㎡

仮眠室
（ 2.00 × 2.80 ）
＝ 5.600 000　→ 5.60㎡

会議室
（ 4.00 × 4.00 ）
＝ 16.000 000　→ 16.00㎡

従業員執務室
（ 4.00 × 5.50 ）
＝ 22.000 000　→ 22.00㎡

■ 居室平均天井高さ算定

警備室	→ 2.625m
仮眠室	→ 2.625m
会議室	→ 2.625m
従業員執務室	→ 2.625m

■ 道路斜線検討

・建物高さ
5,200mm

・斜線高さ
9.150 × 1.25　＝ 11.43 ㎡
＞ 5.20 ㎡　∴OK

■ 排煙検討

警備室
・必要排煙面積
16.50 × 1/50 ＝ 0.33 ㎡
・有効排煙面積　〔 使用建具：AD-3 〕
0.71 × 0.50 × 1箇所　＝ 0.35 ㎡
＞ 0.33 ㎡　∴OK

仮眠室
・必要排煙面積
5.60 × 1/50 ＝ 0.12 ㎡
・有効排煙面積　〔 使用建具：AW-4 〕
0.57 × 0.80 × 1箇所　＝ 0.45 ㎡
＞ 0.12 ㎡　∴OK

会議室
・必要排煙面積
16.00 × 1/50 ＝ 0.32 ㎡
・有効排煙面積　〔 使用建具：AW-3 〕
0.57 × 0.80 × 1箇所　＝ 0.45 ㎡
＞ 0.32 ㎡　∴OK

従業員執務室
・必要排煙面積
22.00 × 1/50 ＝ 0.44 ㎡
・有効排煙面積　〔 使用建具：AW-3 〕
0.57 × 0.80 × 1箇所　＝ 0.45 ㎡
＞ 0.44 ㎡　∴OK

■ 消防法 無窓階検討

・必要開口面積
84.00 × 1/30 ＝ 2.80 ㎡
・有効開口面積　〔 使用建具：AD-1, AD-2 〕
（ 1.30 × 2.07 × 1箇所 ）
（ 0.86 × 2.07 × 1箇所 ）　＝ 4.47 ㎡
＞ 2.80 ㎡　∴OK
（ 非無窓階 ）

■ 換気検討

警備室
・必要換気面積
16.50 × 1/20 ＝ 0.83 ㎡
・有効換気面積　〔 使用建具：AD-3 〕
0.71 × 2.00 × 1箇所　＝ 1.42 ㎡
＞ 0.83 ㎡　∴OK

仮眠室
・必要換気面積
5.60 × 1/20 ＝ 0.28 ㎡
・有効換気面積　〔 使用建具：AW-4 〕
0.57 × 1.50 × 1箇所　＝ 0.85 ㎡
＞ 0.28 ㎡　∴OK

会議室
・必要換気面積
16.00 × 1/20 ＝ 0.80 ㎡
・有効換気面積　〔 使用建具：AW-3 〕
0.57 × 1.50 × 1箇所　＝ 0.85 ㎡
＞ 0.80 ㎡　∴OK

従業員執務室
・必要換気面積
22.00 × 1/20 ＝ 1.10㎡
・有効換気面積　〔 使用建具：AW-3 〕
0.57 × 1.50 × 2箇所　＝ 1.71 ㎡
＞ 1.10 ㎡　∴OK

■ 消防法 収容人数検討

警備室, 仮眠室　：　２人
会議室　：　５人
従業員執務室　：　３人　　合計　１０人

※ 従業員以外の建物使用は無いものとする

■ 採光検討

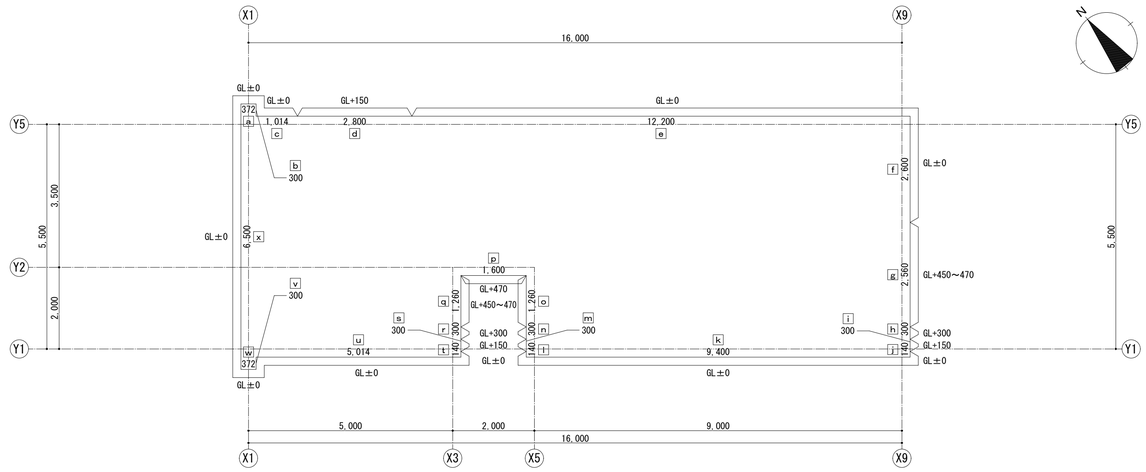
警備室
・必要採光面積
16.50 × 1/20 ＝ 0.83 ㎡
・採光補正係数 ①（ D1, H1 ）
7.58 / 2.82 × 6 − 1.4 ＝ 14.72　→ 3.00
・有効採光面積　〔 使用建具：AW-1 〕
2.20 × 0.90 × 3.00 × 1箇所　＝ 5.94 ㎡
＞ 0.83 ㎡　∴OK

仮眠室
・必要採光面積
5.60 × 1/20 ＝ 0.28 ㎡
・採光補正係数 ②（ D2, H2 ）
7.58 / 2.12 × 6 − 1.4 ＝ 20.05　→ 3.00
・有効採光面積　〔 使用建具：AW-3 〕
0.57 × 1.50 × 3.00 × 1箇所　＝ 2.56 ㎡
＞ 0.28 ㎡　∴OK

会議室
・必要採光面積
16.00 × 1/20 ＝ 0.80 ㎡
・採光補正係数 ③（ D3, H3 ）
7.58 / 2.12 × 6 − 1.4 ＝ 20.05　→ 3.00
・有効採光面積　〔 使用建具：AW-3 〕
0.57 × 1.50 × 3.00 × 1箇所　＝ 2.56 ㎡
＞ 0.80 ㎡　∴OK

従業員執務室
・必要採光面積
23.50 × 1/20 ＝ 1.10㎡
・採光補正係数 ④（ D4, H4 ）
7.58 / 2.12 × 6 − 1.4 ＝ 20.05　→ 3.00
・有効採光面積　〔 使用建具：AW-3 〕
0.57 × 1.50 × 3.00 × 1箇所　＝ 2.56 ㎡
＞ 1.10 ㎡　∴OK

各種法定検討　Non Scale



■ 平均地盤面算出表

記号	長さ(m)	高さ(m)	面積(m²)	記号	長さ(m)	高さ(m)	面積(m²)
a	0.372	＋0.000	＋0.000 0000	m	0.300	＋0.150	＋0.045 0000
b	0.300	＋0.000	＋0.000 0000	n	0.300	＋0.300	＋0.090 0000
c	1.014	＋0.000	＋0.000 0000	o	1.260	＋0.460	＋0.579 6000
d	2.800	＋0.150	＋0.420 0000	p	1.600	＋0.470	＋0.752 0000
e	12.200	＋0.000	＋0.000 0000	q	1.260	＋0.460	＋0.579 6000
f	2.600	＋0.000	＋0.000 0000	r	0.300	＋0.300	＋0.090 0000
g	2.560	＋0.460	＋1.177 6000	s	0.300	＋0.150	＋0.045 0000
h	0.300	＋0.300	＋0.090 0000	t	0.140	＋0.000	＋0.000 0000
i	0.300	＋0.150	＋0.045 0000	u	5.014	＋0.000	＋0.000 0000
j	0.140	＋0.000	＋0.000 0000	v	0.300	＋0.000	＋0.000 0000
k	9.400	＋0.000	＋0.000 0000	w	0.372	＋0.000	＋0.000 0000
l	0.140	＋0.000	＋0.000 0000	x	6.500	＋0.000	＋0.000 0000
			合 計	49.772			＋3.913 8000

面積合計 / 全周長　＝ ＋3.9138000 / 49.772
＝ ＋0.07863457365 (m)
＝ ＋78.63457365 (mm)
∴ 平均地盤面は、ＧＬ＋７９ (mm)

平均地盤面算定図　scale 1 : 75

株式会社第一建築設計事務所
〒350-1126　埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357　FAX 049-244-5372
一級建築士 大臣登録 第 348040 号　古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D − 08
				年／月／日	図面名称：部分配置図，建物求積図，平均地盤面算定図，各種法定検討	縮尺：A1 1 : 75,200　A3 1 : 150,400

■ 外部仕上表

屋根	・屋根 ： ガルバリウム鋼板 t0.6 H90 折板葺（ ボルトレス工法ハゼ締 ），ポリエチレンフォーム t4 裏貼 ・軒先面戸 ： ガルバリウム鋼板既製品 ・水上，ケラバ包み ： ガルバリウム鋼板 t0.6 現場加工品	ポーチ①	・床 ： コンクリート下地 + 外装用（防滑）磁器質タイル 300□ 貼 ・軒天 ： 軽量鉄骨下地 + アルミスパンドレル（木目柄，羽目板調，働き幅100程度）（スパンドレル用廻り縁共）
庇	・庇（建物南面 上部） ： 将来設置に備え、受材のみ取付 （ 設置予定庇 ； アルミ製，W7,200×D2,000 〔 アルフィン株式会社 AD2-2G（サポートポール仕様，竪樋45角基本セット共） 同等 〕） ※庇詳細図〔参考図〕（D-18図）参照 ・庇（建物東面 上部） ： アルミ製，W3,100×D1,400 〔 アルフィン株式会社 AD2-2G（サポートポール仕様） 同等 〕 ※庇詳細図〔参考図〕（D-18図）参照	ポーチ②	・床 ： コンクリート下地 + 外装用（防滑）磁器質タイル 300□ 貼（側面共） ・手すり ： アルミ製 H800，笠木 60×28，支柱 40×28 〔 ＹＫＫ ＡＰ株式会社 ルシアス歩行補助手すり（自立タイプ，湿式用柱） 同等 〕
外壁	・外壁（一般部） ： 透湿防水シート + 胴縁 t15 + 構造用合板 t9 + 防水紙（専用部材）+ 外装材貼 〔 ケイミュー株式会社 LAP-WALL コロニアル（グラッサコーティング）同等 〕 ・外壁（X1通り壁 四周） ： 透湿防水シート + 窯業系サイディング t18 横貼（通気金具工法） 〔 ケイミュー株式会社 ネオロック・光セラ18 セラトピア エストレモウッド18 同等 〕 ・パラペット裏側 ： 耐水合板 t12，透湿防水シート，ガルバリウム鋼板 t0.5 貼	室外機置場	・床 ： フィルター層用 砂敷き t50 + 再生クラッシュラン C40 t100 + 透水性アスファルト舗装 t50 （ 但し、建物際は左記路盤の上，砂利敷 t50，W100 ） ・目隠しパネル ： アルミ製木目調フェンス（ルーバータイプ） H2,000 〔 四国化成工業株式会社 アレグリアフェンスＴＬ４型 同等 〕 ・出入口片開戸 ： アルミ製木目調片開き扉（ルーバータイプ） H2,000 〔 四国化成工業株式会社 アレグリアＴＬ袖門扉４型（支柱化粧材共）同等 〕
根回り・外周部	・根回り ： コンクリート打放し補修 + DP塗装 ・水切金物 ： ガルバリウム鋼板 加工 ・防虫通気材 ： 有孔ガルバリウム鋼板製	断熱材 防湿気密フィルム	・天井裏 ： グラスウール t100（24k） ・外周部壁 ： グラスウール t100（24k） ・トイレ周囲間仕切壁 ： グラスウール t100（24k） ・基礎コンクリート下部 ： 防湿シート t0.15
開口部	・玄関ドア ： ※建具表（D-15図）参照 ・アルミサッシ ： ※建具表（D-15図）参照	その他	・受付カウンター（外部） ： ※各部詳細図（D-16図）参照 ・館銘サイン ： ※各部詳細図（D-16図）参照 ・犬走り ： 土間コンクリート 金ごて仕上（側面共） ・建物周囲床（復旧） ： フィルター層用 砂敷き t50 + 再生クラッシュラン C40 t100 + 透水性アスファルト舗装 t50 （ 但し、建物際は左記路盤の上，砂利敷 t50，W100 ）
雨どい 金物等	・軒樋 ： 塩ビ製角樋 150×150 ・竪樋（呼樋共） ： カラーVP φ75 ・パラペット上部笠木 ： アルミ製（笠木下換気部材共）	撤去	・既存アスファルト舗装 ：【 撤去 】フィルター層用 砂敷き t50 + 再生クラッシュラン C40 t100 + 透水性アスファルト舗装 t50 ・車止め ：【 撤去 】コンクリート製，600×180×150，６箇所

■ 内部仕上表

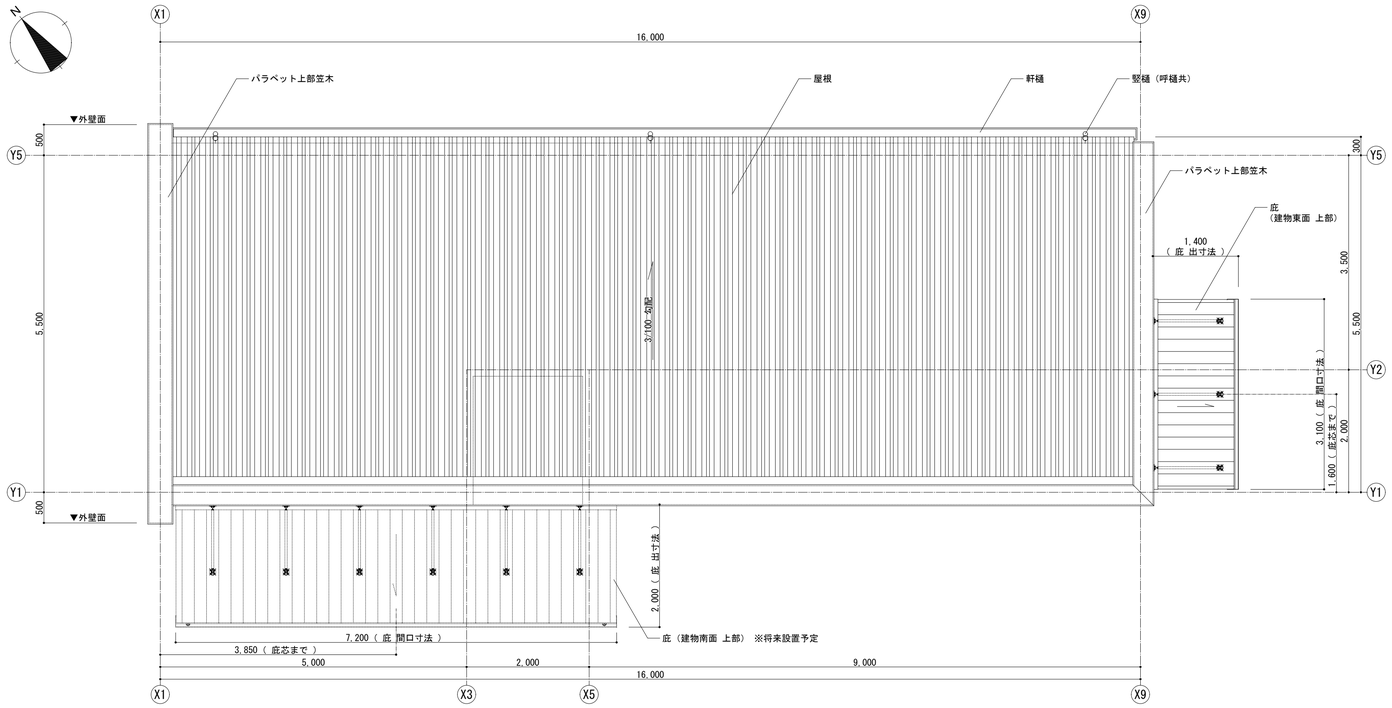
階数	室名	天井高さ	床						幅木			腰・壁						廻縁			天井						室内環境測定対象室（★印が対象室）	造作・設置機器等仕様
			下地			仕上			仕上			下地			仕上			仕上			下地			仕上				
			コンクリート金ごて			複層ビニル床タイル（東リ株式会社 ロイヤルストーン 同等） t3.0	汚垂パネル t6.0		ビニル幅木 H60			軽量鉄骨下地の上、石こうボード t12.5	軽量鉄骨下地の上、シージング石こうボード t12.5		ビニルクロス	メラミン化粧板 t3.0		塩ビ製			軽量鉄骨下地			化粧石膏ボード t9.5				
1	ホール	2,625	●			●			●			●			●			●			●			●				＊ 室名札（ 警備室，会議室，トイレ 計３箇所 ） ： 木製，250×80 程度，平付 ／ ＊ 消火器 ： 粉末(ABC)消火器 10型（スタンド共） ／ ＊ 天井点検口 ： アルミ製，450□
	湯沸コーナー	2,625	●			●			●				●			●		●			●			●				＊ ミニキッチン ： W1,200×D550×H800 程度 ／ ＊ 加熱調理機 ： ＩＨクッキングヒーター，１口 ／ ＊ 水切棚 ： ステンレス製，１段吊，W600 ／ ＊ 吊戸棚 ： 既製品，W1,200×D360×H600 程度，耐震ラッチ，ミニキッチン同材仕様 ／ ＊ 床点検口 ： アルミ製，450□ ／ ＊ レンジフード ： 不燃材，W600×D590×H600 程度，150φ×515m3/h×20Pa，電源 1φx100V 38.0W （ 排気ダクトは、スパイラルダクトの上，ロックウール t50巻とする ）
	倉庫①	2,625	●			●			●			●			●			●			●			●				＊ 固定棚 ： メラミンポストフォーム t30，D400（ブラケット金物共）
	警備室	2,625	●			●			●			●			●			●			●			●			★	＊ 受付カウンター（内部） ： ※各部詳細図（D-16図）参照 ／ ＊ 天井点検口 ： アルミ製，450□ ／ ＊ ロールスクリーン ： 建具表（D-15図）参照 ／ ＊ ロールスクリーンボックス ： タモ集成材 t20 加工，150×150（有効寸法）程度，OSCL塗装
	仮眠室	2,625	●			●			●			●			●			●			●			●				＊ ロールスクリーン ： 建具表（D-15図）参照 ／ ＊ ロールスクリーンボックス ： タモ集成材 t20 加工，150×150（有効寸法）程度，OSCL塗装
	会議室	2,625	●			●			●			●			●			●			●			●			★	＊ ロールスクリーン ： 建具表（D-15図）参照 ／ ＊ ロールスクリーンボックス ： タモ集成材 t20 加工，150×150（有効寸法）程度，OSCL塗装 ／ ＊ 天井点検口 ： アルミ製，450□
	倉庫②	2,625	●			●			●			●			●			●			●			●				＊ 固定棚 ： メラミンポストフォーム t30，D400（ブラケット金物共）
	従業員執務室	2,625	●			●			●			●			●			●			●			●			★	＊ ロールスクリーン ： 建具表（D-15図）参照 ／ ＊ ロールスクリーンボックス ： タモ集成材 t20 加工，150×150（有効寸法）程度，OSCL塗装 ／ ＊ 消火器 ： 粉末(ABC)消火器 10型（スタンド共） ／ ＊ 天井点検口 ： アルミ製，450□
	給湯室	2,625	●			●			●			○			○			●			●			●				＊ ミニキッチン ： W900×D460×H800 程度 ／ ＊ 水切棚 ： ステンレス製，１段吊，W600 ／ ＊ 吊戸棚 ： 既製品，W600×D360×H600 程度，耐震ラッチ，ミニキッチン同材仕様
	倉庫③	2,625	●			●			●			●			●			●			●			●				＊ 固定棚 ： メラミンポストフォーム t30，D400（ブラケット金物共）
	トイレ①	2,625	●			○	○		●				●			●		●			●			●				＊ ライニングフカシ壁 ： フカシD110（ 下地，仕上共、同室壁に同じ ） ／ ＊ ライニング甲板 ： メラミンポストフォーム t20，D120 ／ ＊ Ｌ型手すり ： ステンレス製（樹脂被覆），φ34程度，700×700 ／ ＊ ブース内棚 ： メラミンポストフォーム t20，D120（ ブラケット金物共 ） ／ ＊ 化粧鏡 ： 耐食鏡 t5 ／ ＊ 床点検口 ： アルミ製，450□ ／ ＊ トイレブース ： 建具表（D-15図）参照
	トイレ②	2,625	●			●			●				●			●		●			●			●				＊ ライニングフカシ壁 ： フカシD110（ 下地，仕上共、同室壁に同じ ） ／ ＊ ライニング甲板 ： メラミンポストフォーム t20，D120 ／ ＊ 化粧鏡 ： 耐食鏡 t5 ／ ＊ Ｌ型手すり ： ステンレス製（樹脂被覆），φ34程度，700×700 ／ ＊ 床点検口 ： アルミ製，450□

■ 特記事項

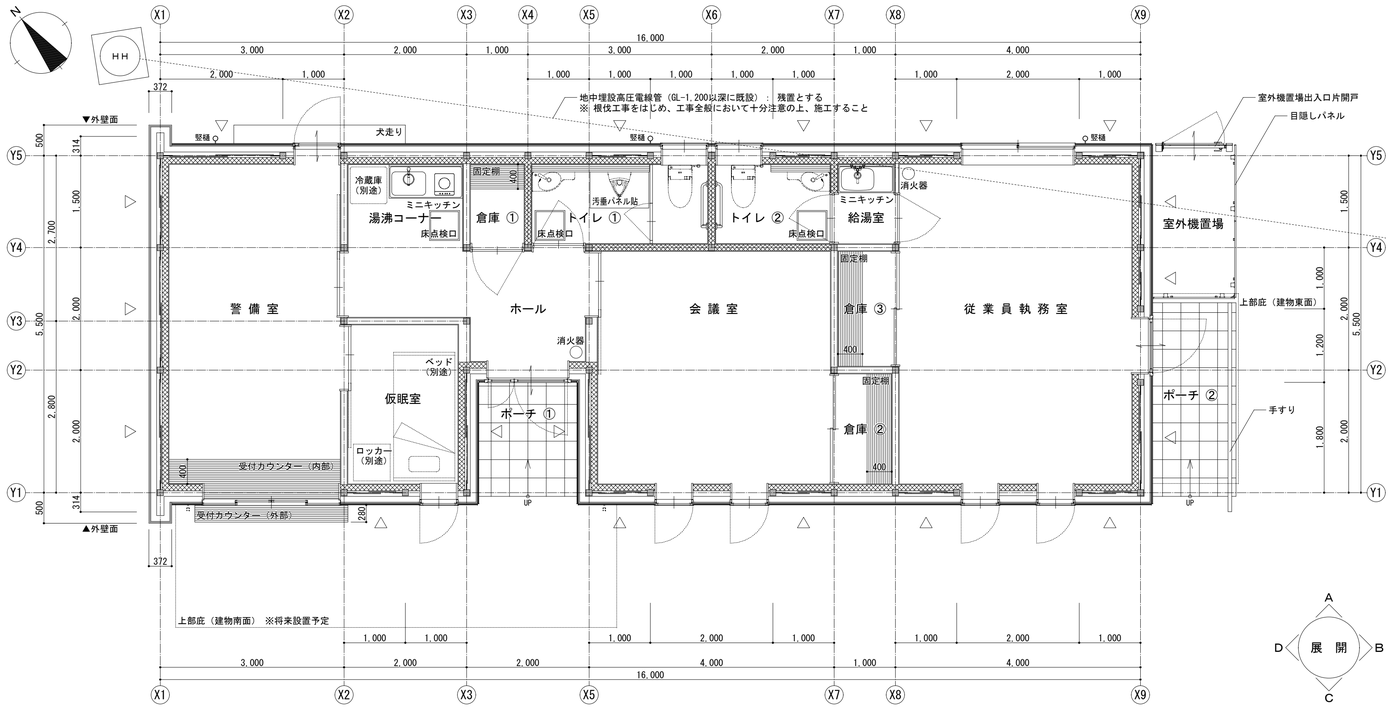
＊ ● 印は、室“共通”下地及び仕上を示す
＊ ○ 印は、室“部分”下地及び仕上を示す
＊ 石こうボード t12.5 ： NM－8619（不燃材料）
＊ シージング石こうボード t12.5 ： NM－8639（不燃材料）
＊ メラミン化粧板 ： NM－2183（不燃材料）
＊ ケイカル板 ： NM－8615（不燃材料）
＊ 内部仕上材は、Ｆ☆☆☆☆品を使用すること
＊ 使用する合板類は、Ｆ☆☆☆☆品を使用すること
＊ 使用する接着剤は、ノンホルムアルデヒドタイプを使用すること
＊ 仕上色は現場にて監督員と協議の上、決定とする
＊ 機器・器具等取付用の壁下地は、必要に応じて適宜設けるものとする
＊ 建物内のガス設備は、無いものとする

株式会社第一建築設計事務所
〒350-1126 埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357 FAX 049-244-5372
一級建築士 大臣登録 第 348040 号 古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D－09
				年／月／日	図面名称：外部仕上表，内部仕上表	縮尺：A1 Non Scale / A3 Non Scale



屋 根 伏 図　scale 1 : 50



平 面 詳 細 図　scale 1 : 50

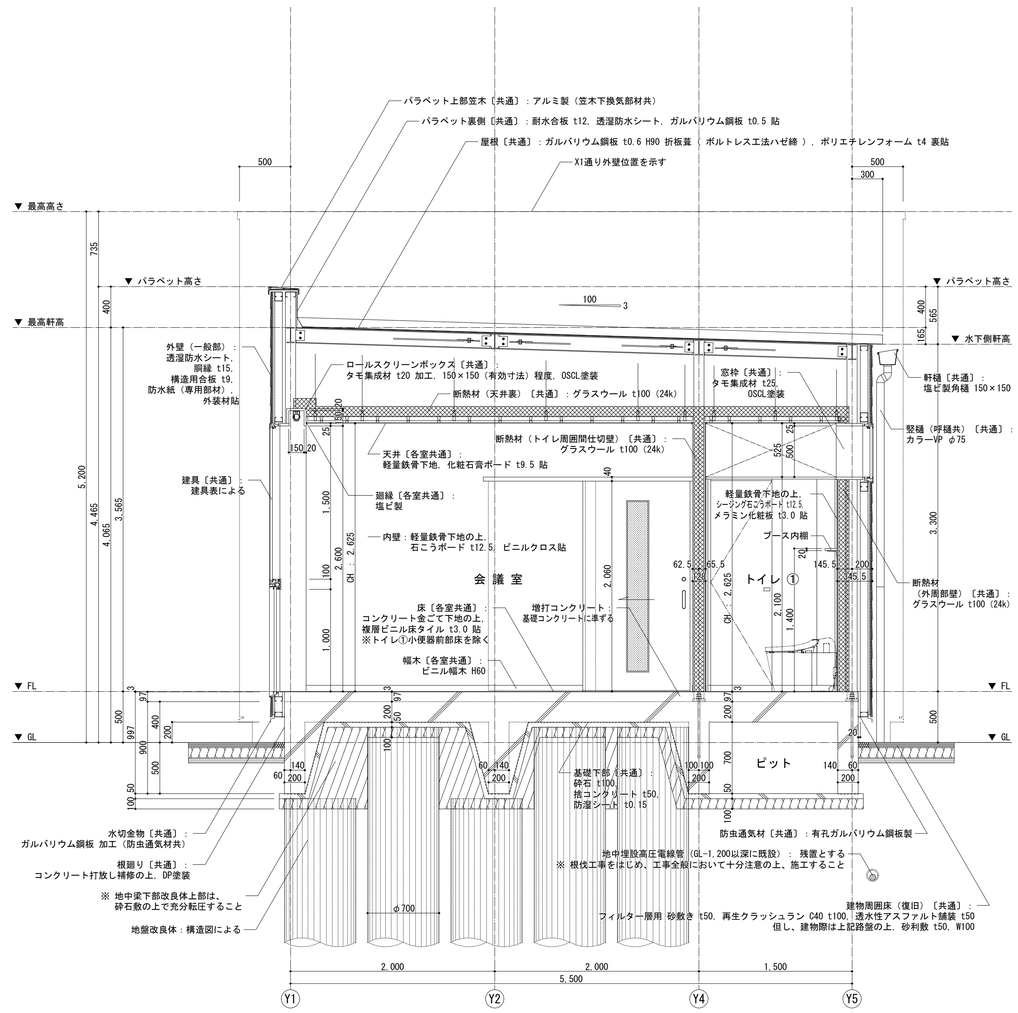
■ 特記事項

＊ △ 印は、ブレース位置を示す　※構造図参照

＊ ▨ 部は、断熱材（グラスウール t100, 24k）位置を示す

＊ 特記なき内部床仕上は、“ 複層ビニル床タイル t3.0 貼 ”とする

＊ 床点検口の位置は、現場にて協議を行い、監督員の承認の上、施工すること



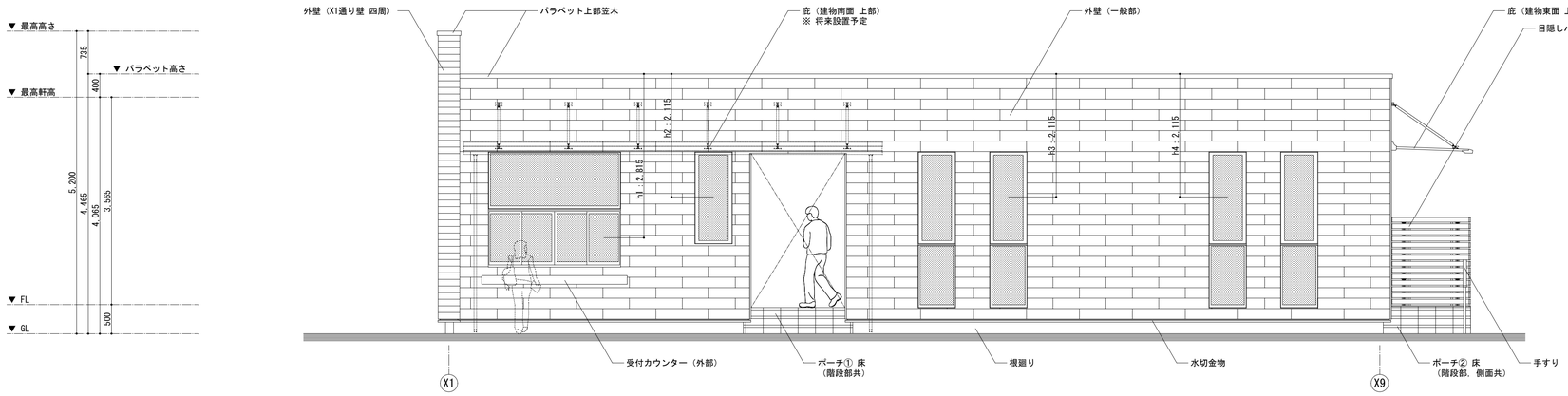
矩 計 図　scale 1 : 30

株式会社第一建築設計事務所

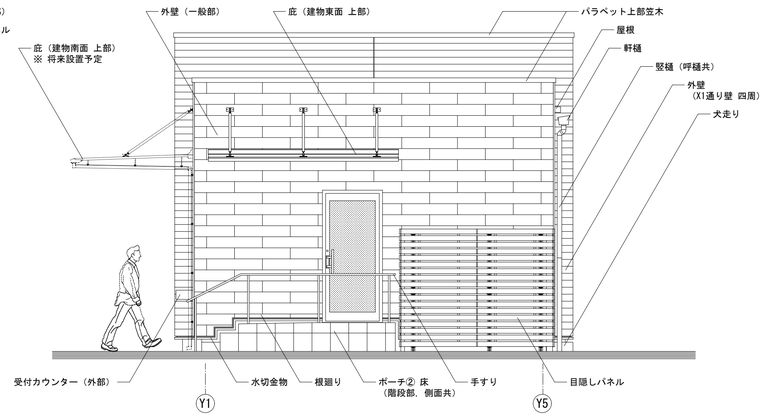
〒350-1126　埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357　FAX 049-244-5372

一級建築士 大臣登録 第 348040 号　古川 昇一郎

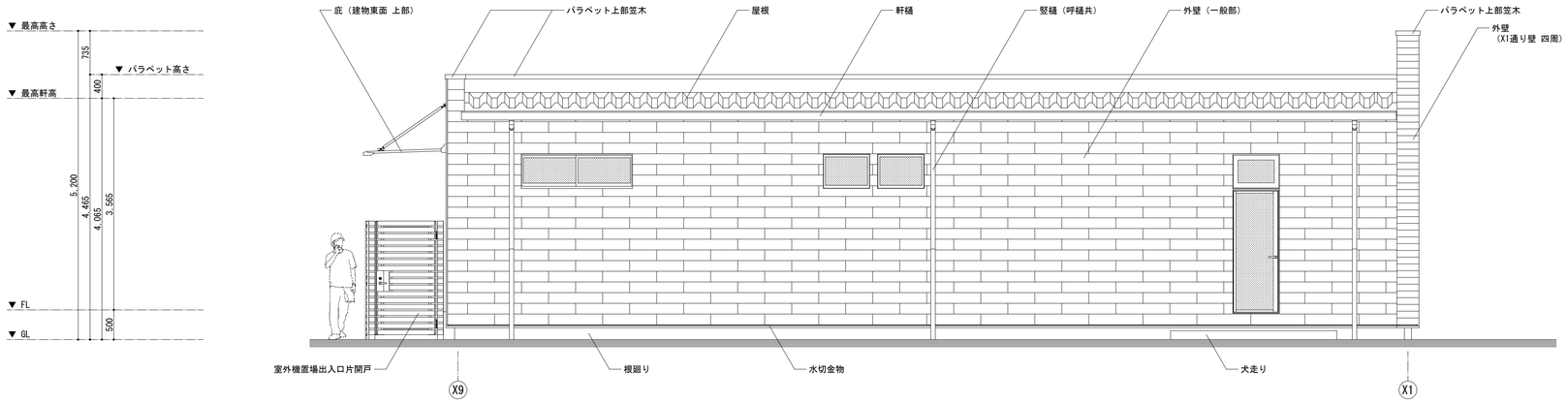
責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D－10
				年／月／日	図面名称：平面詳細図, 屋根伏図, 矩計図	縮尺：A1 1 : 30, 50　A3 1 : 60,100



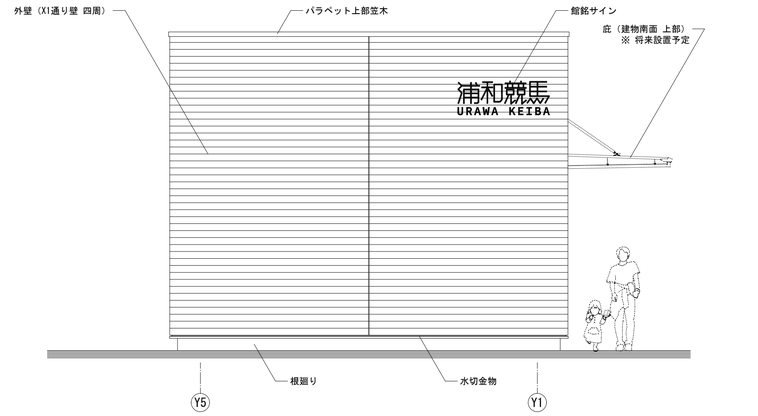
南側立面図（ アプローチ側 ）



東側立面図（ スタンド側 ）

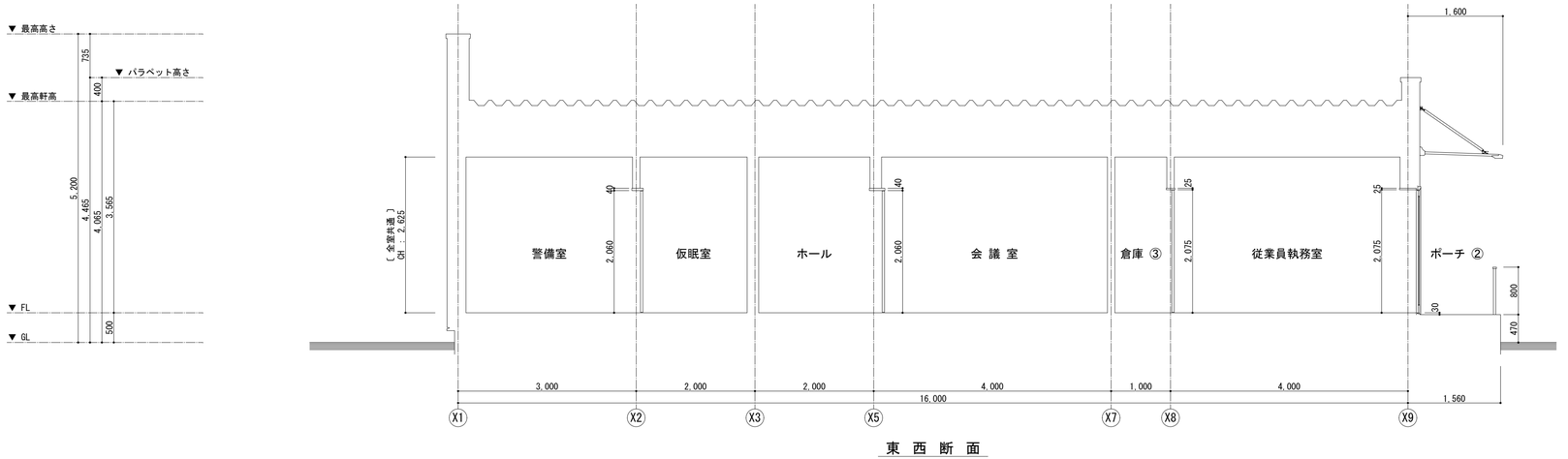


北側立面図（ コース側 ）

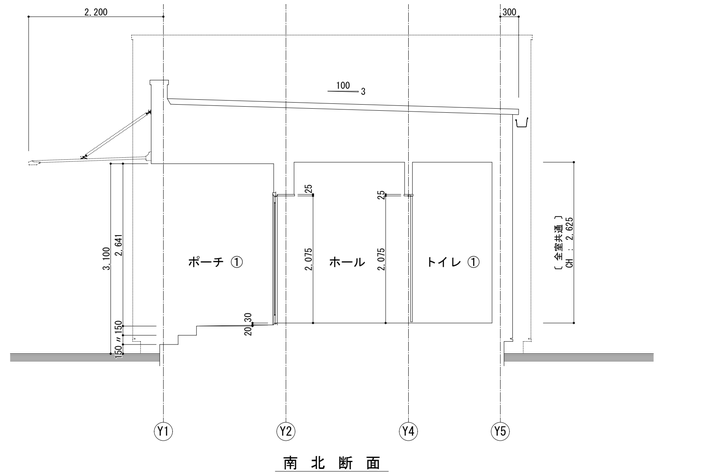


西側立面図（ 道路側 ）

立 面 図　scale 1 : 50



東 西 断 面



南 北 断 面

断 面 図　scale 1 : 50

株式会社第一建築設計事務所

〒350-1126　埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357　FAX 049-244-5372

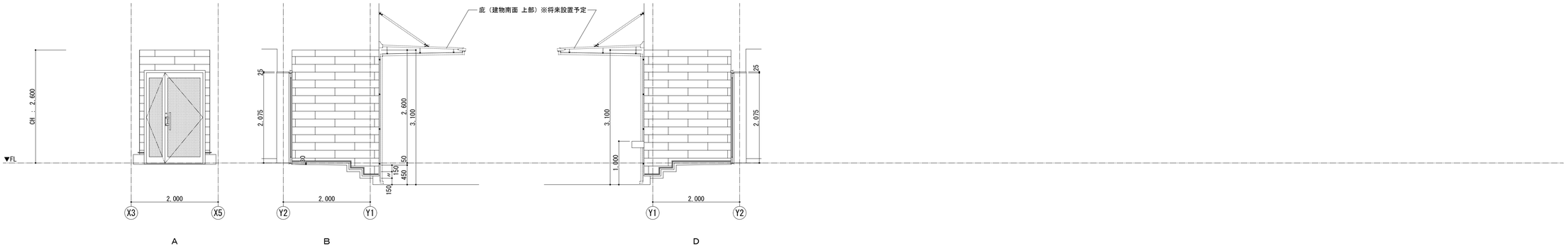
一級建築士 大臣登録 第 348040 号　古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称		図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事		D－11
				年／月／日	図面名称	縮尺	
					平面図，立面図	A1 1 : 50 A3 1 : 100	

ポーチ ①

※ 特記なき室内仕上

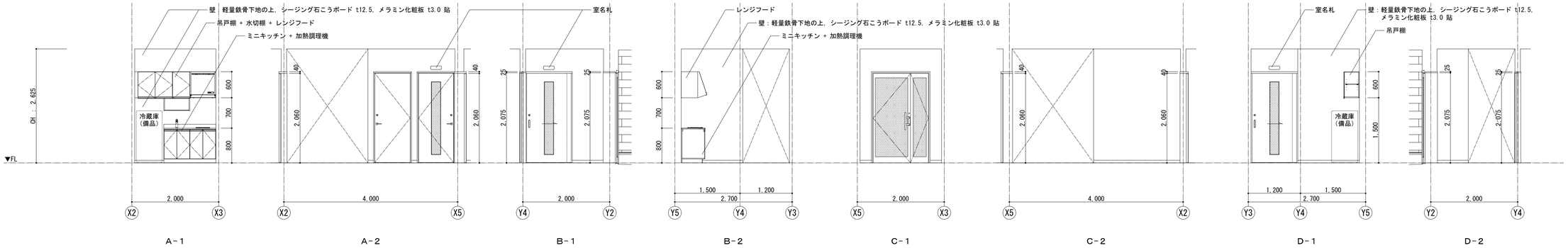
床	コンクリート下地, 外装用磁器質タイル 300□ 貼
幅木	コンクリート打放し補修, DP塗装
壁	透湿防水シート, 胴縁 t15, 構造用合板 t9, 防水紙（専用部材）, 外装材貼 ※外部仕上表（D-/図）参照
廻縁	—
天井	軽量鉄骨下地, アルミスパンドレル （木目柄, 羽目板調, 働き幅100程度）



ホール, 湯沸コーナー

※ 特記なき室内仕上

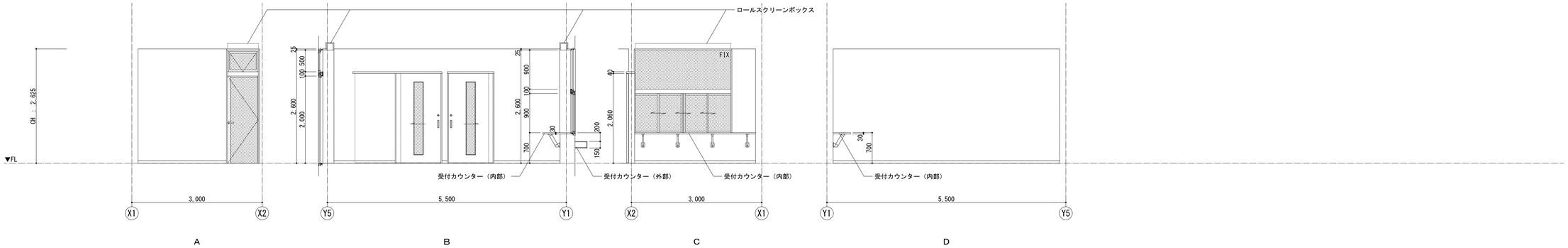
床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, 石こうボード t12.5, ビニルクロス貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼



警備室

※ 特記なき室内仕上

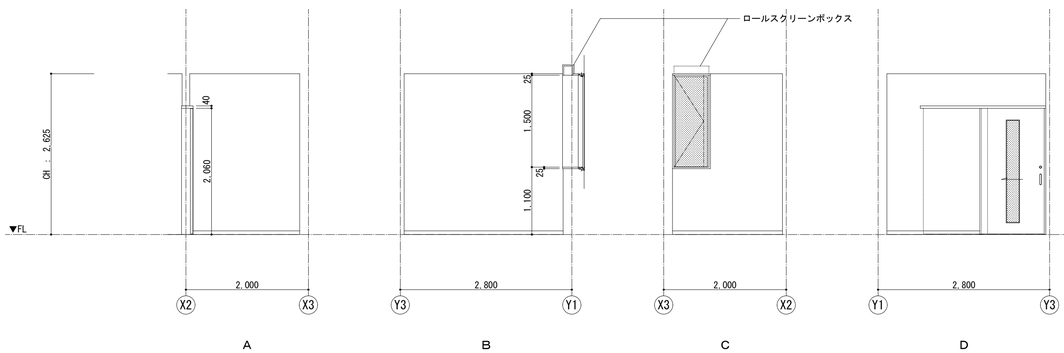
床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, 石こうボード t12.5, ビニルクロス貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼



仮眠室

※ 特記なき室内仕上

床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, 石こうボード t12.5, ビニルクロス貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼



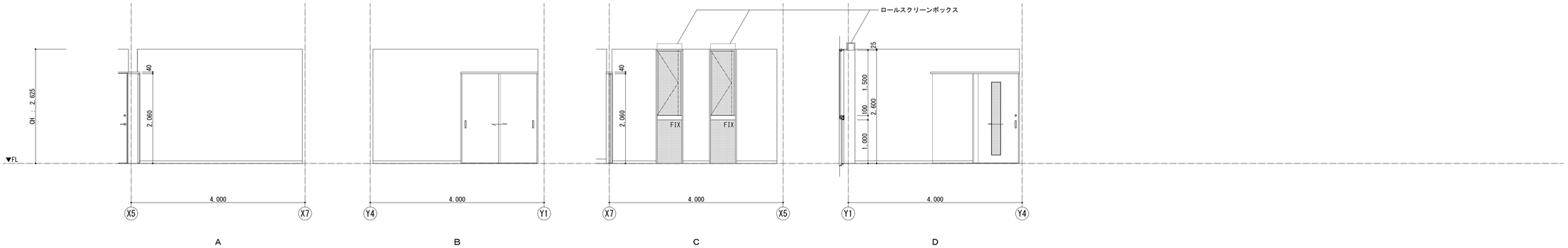
株式会社第一建築設計事務所
〒350-1126 埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357 FAX 049-244-5372
一級建築士 大臣登録 第 348040 号 古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D－12
				年／月／日	図面名称 展開図 － 1	縮尺 A1 1：50 A3 1：100

会議室

※ 特記なき室内仕上

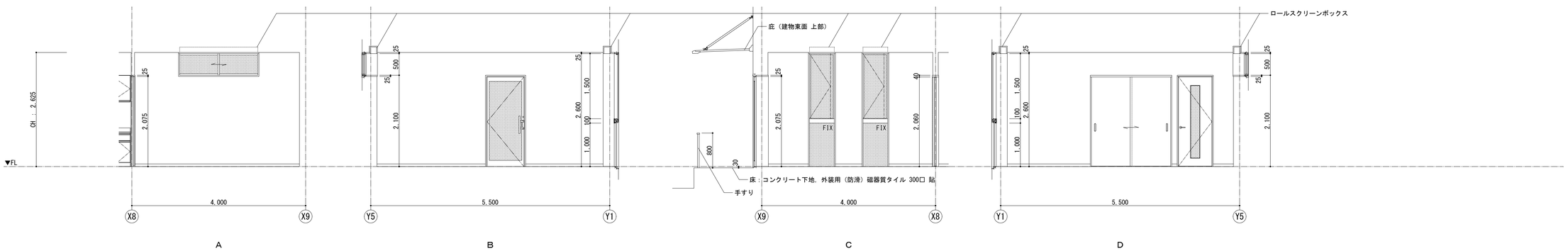
床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, 石こうボード t12.5, ビニルクロス貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼



従業員執務室

※ 特記なき室内仕上

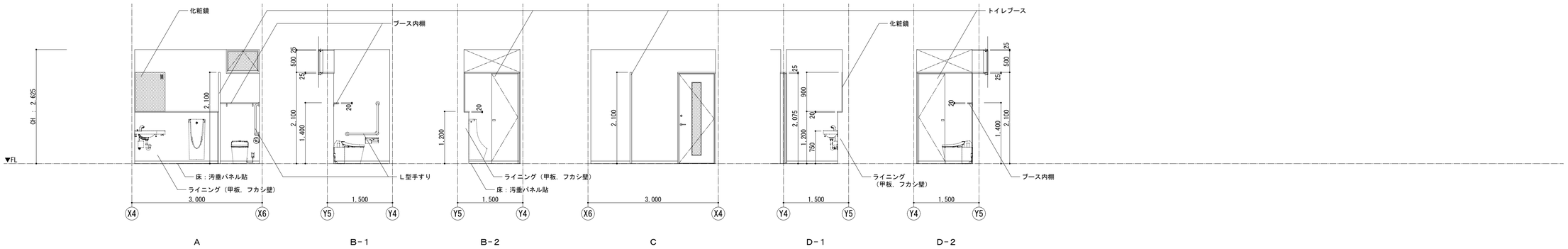
床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, 石こうボード t12.5, ビニルクロス貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼



トイレ ①

※ 特記なき室内仕上

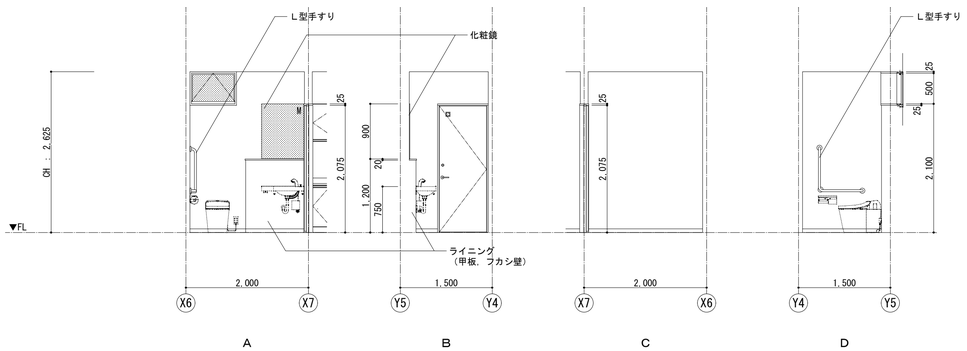
床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, シージング石こうボード t12.5, メラミン化粧板 t3.0 貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼



トイレ ②

※ 特記なき室内仕上

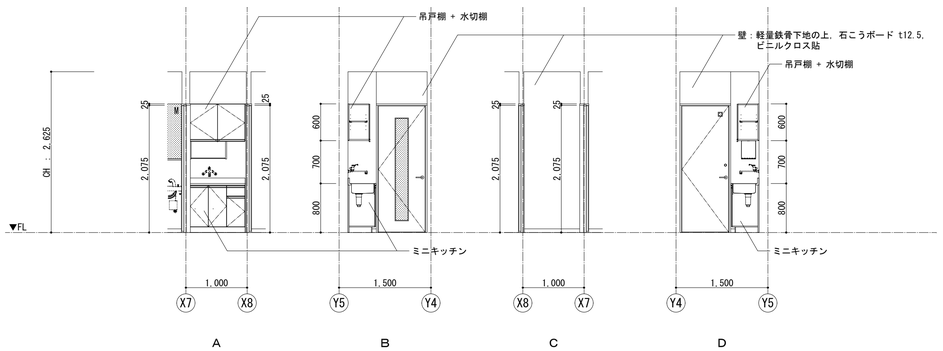
床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, シージング石こうボード t12.5, メラミン化粧板 t3.0 貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼



給湯室

※ 特記なき室内仕上

床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, シージング石こうボード t12.5, メラミン化粧板 t3.0 貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼



株式会社第一建築設計事務所

〒350-1126 埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357 FAX 049-244-5372

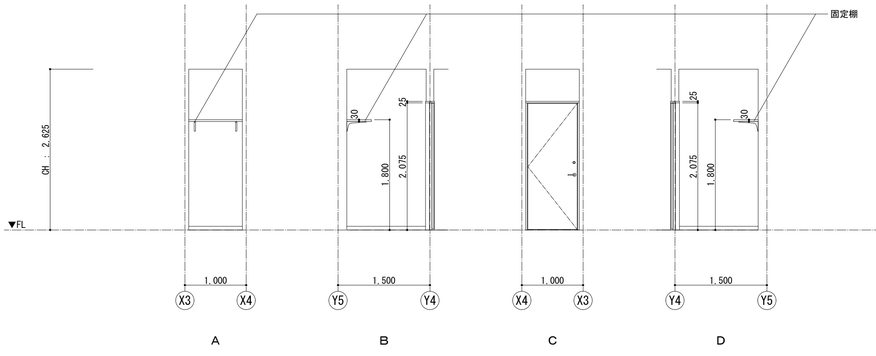
一級建築士 大臣登録 第 348040 号 古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D - 13
				年／月／日	図面名称 展開図 - 2	縮尺 A1 1 : 50 A3 1 : 100

倉庫 ①

※ 特記なき室内仕上

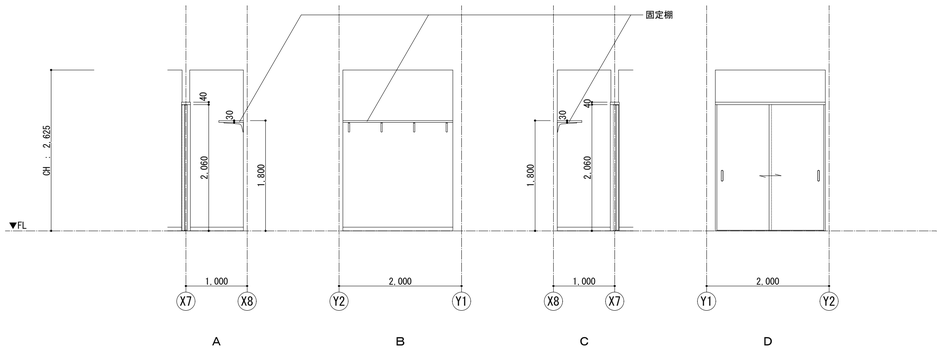
床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, 石こうボード t12.5, ビニルクロス貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼



倉庫 ②

※ 特記なき室内仕上

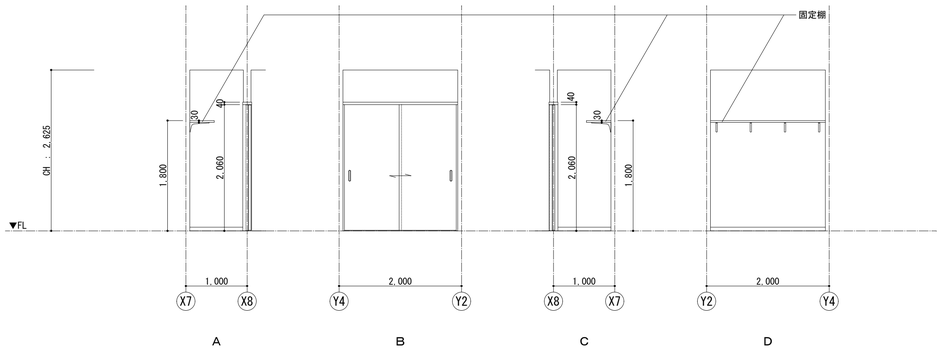
床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, 石こうボード t12.5, ビニルクロス貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼

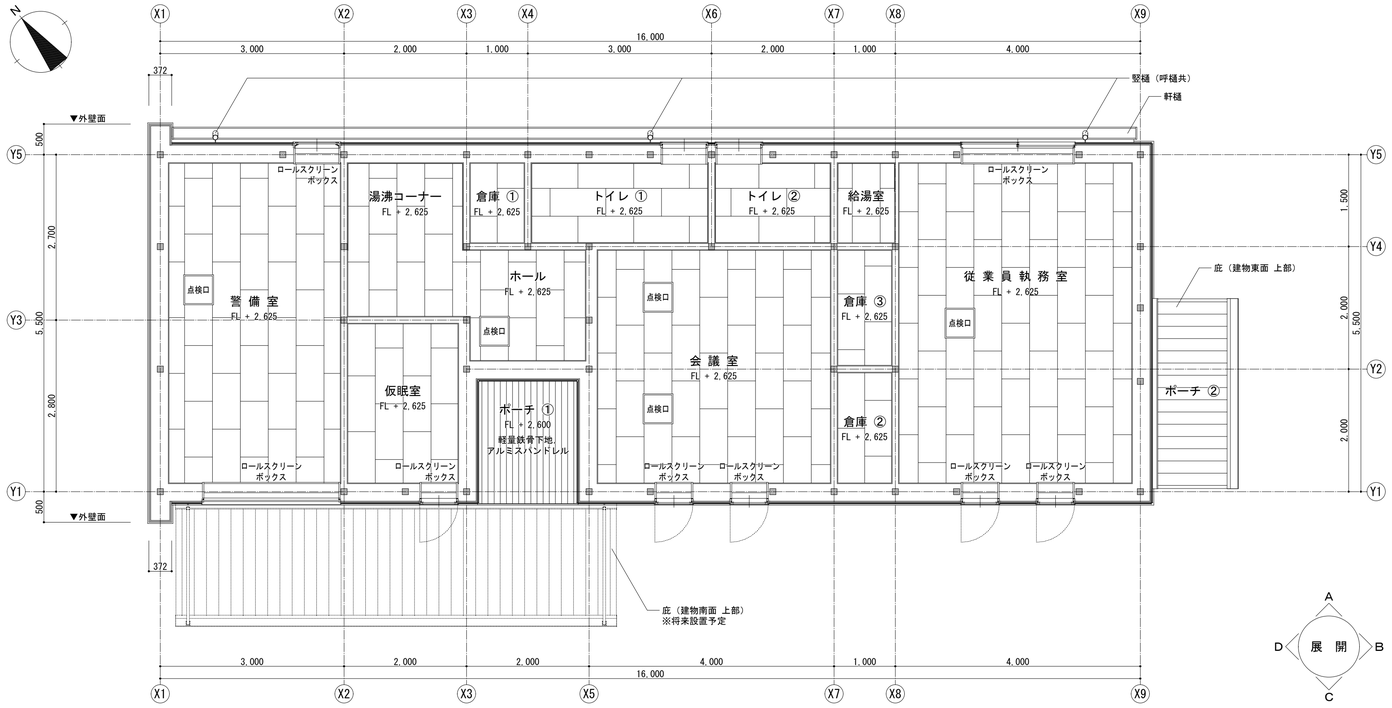


倉庫 ③

※ 特記なき室内仕上

床	コンクリート金ごて下地の上, 複層ビニル床タイル t3.0 貼
幅木	ビニル幅木 H60
壁	軽量鉄骨下地の上, シージング石こうボード t12.5, メラミン化粧板 t3.0 貼
廻縁	塩ビ製
天井	軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼





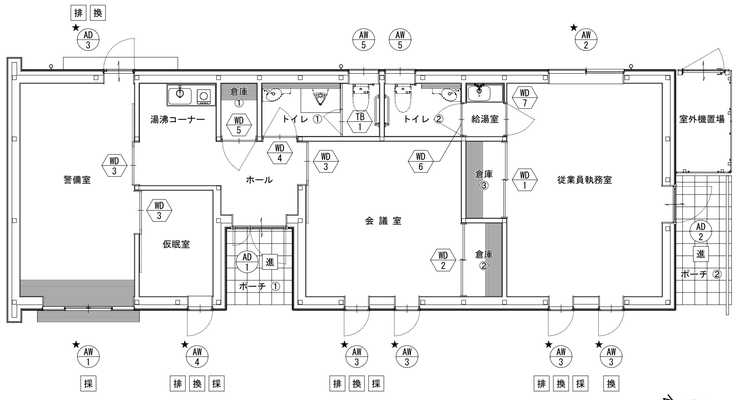
天井伏図 scale 1 : 50

■ 特記事項

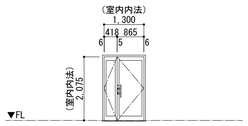
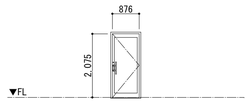
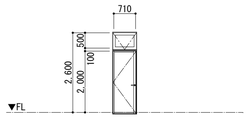
＊ 特記なき天井仕上は、“ 軽量鉄骨下地, 化粧石膏ボード t9.5 貼 ”とする
＊ 床点検口の位置は、現場にて協議を行い、監督員の承認の上、施工すること

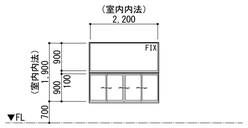
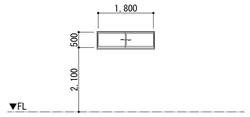
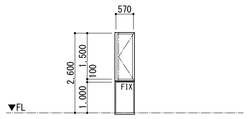
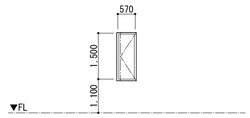
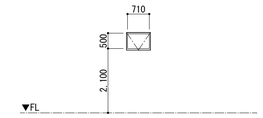
株式会社第一建築設計事務所
〒350-1126 埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357 FAX 049-244-5372
一級建築士 大臣登録 第 348040 号 古川 昇一郎

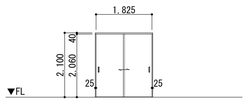
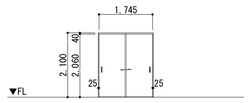
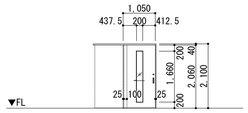
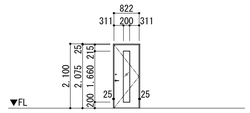
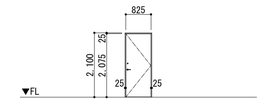
責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D − 14
				年／月／日	図面名称 展開図 − 3, 天井伏図	縮尺 A1 1 : 50 A3 1 : 100

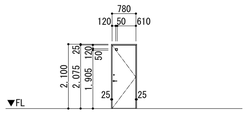
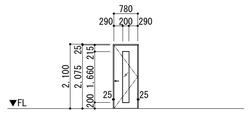


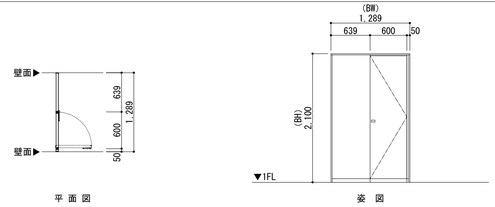
建具表キープラン　scale 1 : 75

記号・名称 AD〔アルミドア〕	AD 1 アルミ製 親子開き框ドア	AD 2 アルミ製 片開き框ドア	AD 3 アルミ製 片開きドア + ランマ外倒し窓（ 段窓 ）		
取付場所・数量	ポーチ① ― ホール　1箇所	ポーチ② ― 従業員執務室　1箇所	外部 ― 警備室　1箇所		
姿図・寸法 （ 外観 ） scale 1:100	 建具寸法　DW : 865 + 446　DH : 2,079	 建具寸法　DW : 865　DH : 2,079	 建具寸法　SW : 710　SH : 2,670（ 570 + 30 + 2,070 ）		
仕上	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色		
戸厚(T)・枠見込(D)	T : 33 / D : 260	T : 33 / D : 260	D : 88		
硝子	複層ガラス〔 トーメイ 3mm + 学校用強化 4mm 〕	複層ガラス〔 トーメイ 3mm + 学校用強化 4mm 〕	複層ガラス〔 トーメイ 3mm + 学校用強化 4mm 〕		
取手	バーハンドル（室外・室内共）	バーハンドル（室外・室内共）	レバーハンドル（室内共）		
錠前	開き戸鎌錠（ポーチ①側 : シリンダー / ホール側 : サムターン）	開き戸鎌錠（ポーチ②側 : シリンダー / 従業員執務室側 : サムターン）	開き戸用錠（外部側 : シリンダー / 警備室側 : サムターン）		
金物	建具金物一式	建具金物一式	開放用引手，復帰器具，建具金物一式		
備考	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装） 丁番，ドアクローザ，飛散防止フィルム貼，付属金物一式	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装） 丁番，ドアクローザ，飛散防止フィルム貼，付属金物一式	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装），ロールスクリーン 飛散防止フィルム貼，付属金物一式		

記号・名称 AW〔アルミ窓〕	AW 1 アルミ製 ＦＩＸ窓 + ４枚引違いテラス窓（ 段窓 ）	AW 2 アルミ製 ２枚引違い窓	AW 3 アルミ製 タテスベリ出し窓 + ＦＩＸ窓（ 段窓 ）	AW 4 アルミ製 タテスベリ出し窓	AW 5 アルミ製 高所用ヨコスベリ出し窓
取付場所・数量	警備室　1箇所	従業員執務室　1箇所	会議室，従業員執務室　4箇所	仮眠室　1箇所	トイレ①，トイレ②　2箇所
姿図・寸法 （ 外観 ） scale 1:100	 建具寸法　SW : 2,270　SH : 1,970（ 970 + 30 + 970 ）	 建具寸法　SW : 1,870　SH : 570	 建具寸法　SW : 640　SH : 2,670（ 1,570 + 30 + 1,070 ）	 建具寸法　SW : 640　SH : 1,570	 建具寸法　SW : 780　SH : 570
仕上	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色	二次電解着色
戸厚(T)・枠見込(D)	D : 88	D : 88	D : 88	D : 88	D : 88
硝子	複層ガラス〔 トーメイ 3mm + 学校用強化 4mm 〕	複層ガラス〔 トーメイ 3mm + 学校用強化 4mm 〕	複層ガラス〔 トーメイ 3mm + 学校用強化 4mm 〕	複層ガラス〔 トーメイ 3mm + 学校用強化 4mm 〕	複層ガラス〔 トーメイ 3mm + 学校用強化 4mm 〕
取手					
錠前	建具金物一式	建具金物一式	建具金物一式	建具金物一式	建具金物一式
金物					
備考	窓台（受付カウンター），３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装） ロールスクリーン，引違い網戸，飛散防止フィルム貼，付属金物一式	４方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装），ロールスクリーン， 引違い網戸，飛散防止フィルム貼，付属金物一式	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装），カムラッチハンドル， ロールスクリーン，横引ロール網戸，飛散防止フィルム貼，付属金物一式	４方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装），カムラッチハンドル， ロールスクリーン，横引ロール網戸，飛散防止フィルム貼，付属金物一式	４方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装）， 固定網戸，飛散防止フィルム貼，付属金物一式

記号・名称 WD〔木製ドア〕	WD 1 木製 ２枚引違いフラッシュドア	WD 2 木製 ２枚引違いフラッシュドア	WD 3 木製 片引きフラッシュドア	WD 4 木製 片開きフラッシュドア	WD 5 木製 片開きフラッシュドア
取付場所・数量	従業員執務室 ― 倉庫③　1箇所	会議室 ― 倉庫②　1箇所	警備室 ― ホール，仮眠室 ― 警備室，会議室 ― ホール　3箇所	トイレ① ― ホール　1箇所	倉庫① ― ホール　1箇所
姿図・寸法 scale 1:100	 建具寸法　DW : 1,825　DH : 2,060	 建具寸法　DW : 1,745　DH : 2,060	 建具寸法　DW : 1,050　DH : 2,060	 建具寸法　DW : 822　DH : 2,075	 建具寸法　DW : 825　DH : 2,075
仕上	ポリ化粧合板貼（木目柄）	ポリ化粧合板貼（木目柄）	ポリ化粧合板貼（木目柄）	ポリ化粧合板貼（木目柄）	ポリ化粧合板貼（木目柄）
戸厚(T)・枠見込(D)	T : 40 / D : 145	T : 40 / D : 145	T : 40 / D : 190　※会議室部のみ D : 270	T : 40 / D : 148	T : 40 / D : 145
硝子	―	―	型板強化 4mm	型板強化 4mm	―
取手	引手	引手	引手	レバーハンドル	レバーハンドル
錠前	―	―	引戸鎌錠（ホール側 : シリンダー錠 / 居室側 : サムターン）　※仮眠室部のみ 錠無	開き戸錠（ホール側 : 非常開錠付表示錠 / トイレ①側 : サムターン）	開き戸錠（ホール側 : シリンダー錠 / 倉庫①側 : サムターン）
金物	上吊引戸用金物，建具金物一式	上吊引戸用金物，建具金物一式	上吊引戸用金物，建具金物一式	開き戸用金物一式，建具金物一式	開き戸用金物一式，建具金物一式
備考	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装） ソフトクローズ（開放・閉鎖）	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装） ソフトクローズ（開放・閉鎖）	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装），４方額縁（タモ集成材 t10，OSCL塗装） ソフトクローズ（開放・閉鎖）	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装），４方額縁（タモ集成材 t10，OSCL塗装） ドアクローザー（ソフトクローズ，ストッパー付），アンダーカット H20	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装） ドアクローザー（ソフトクローズ，ストッパー付），アンダーカット H20

記号・名称 WD〔木製ドア〕	WD 6 木製 片開きフラッシュドア	WD 7 木製 片開きフラッシュドア
取付場所・数量	トイレ② ― 給湯室　1箇所	給湯室 ― 従業員執務室　1箇所
姿図・寸法 scale 1:100	 建具寸法　DW : 780　DH : 2,075	 建具寸法　DW : 780　DH : 2,075
仕上	ポリ化粧合板貼（木目柄）	ポリ化粧合板貼（木目柄）
戸厚(T)・枠見込(D)	T : 40 / D : 148	T : 40 / D : 98
硝子	型板強化 4mm	型板強化 4mm
取手	レバーハンドル	レバーハンドル
錠前	開き戸錠（給湯室側 : 非常開錠付表示錠 / トイレ②側 : サムターン）	―
金物	開き戸用金物一式，建具金物一式	開き戸用金物一式，建具金物一式
備考	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装），４方額縁（タモ集成材 t10，OSCL塗装） ドアクローザー（ソフトクローズ，ストッパー付），アンダーカット H20	３方枠（タモ集成材 t25，OSCL塗装），４方額縁（タモ集成材 t10，OSCL塗装） ドアクローザー（ソフトクローズ，ストッパー付），アンダーカット H20

記号・名称 TB〔トイレブース〕	TB 1 トイレブース
取付場所・数量	トイレ ①　1箇所
平面図・姿図・寸法 scale 1:50	 平面図　姿図 建具寸法　BW : 1,289　BH : 2,100
仕上	高圧メラミン化粧板
戸厚（T）	T : 40
取手	引手
錠前	表示付スライド錠（非常解錠付）
金物	建築金物一式
備考	芯材ペーパーコア，戸中心吊，SUS幅木，笠木，戸当り帽子掛

■ 凡例

- ：外部建具
- ：内部建具
- ★ ：ロールスクリーン設置建具（ 防煙物品 ）

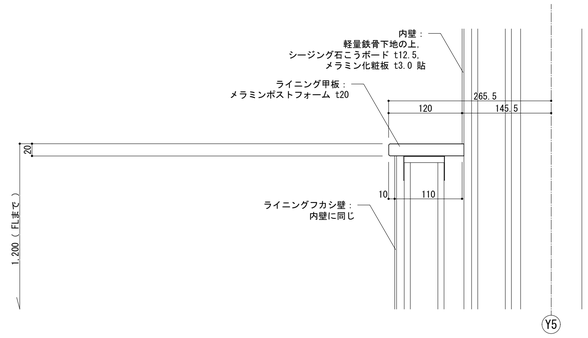
■ 凡例（ 法規関係 ）　※検討内容は、各種法定検討（D-08図）による

- 排 ：排煙検討建具
- 換 ：換気検討建具
- 採 ：採光検討建具
- 進 ：進入口・無窓階検討建具（消防法検討）
  ※ 該当開口部に設置する飛散防止フィルムの基材は、PET製 t100μm以下 または 塩化ビニル製 t400μm以下 とする

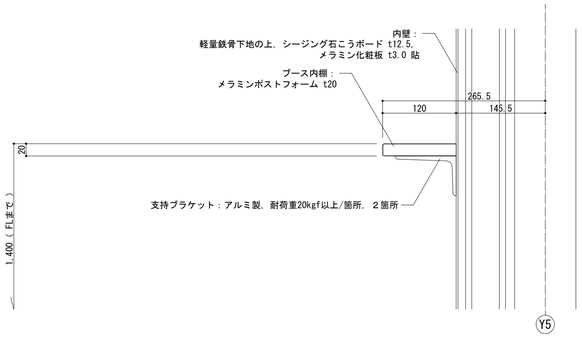
株式会社 第一建築設計事務所
〒350-1126　埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357　FAX 049-244-5372
一級建築士 大臣登録 第 348040 号　古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D－15
				年／月／日	図面名称：建具表キープラン，建具表　縮尺 A1 1 : 50，75,100　A3 1 : 100,150,200	

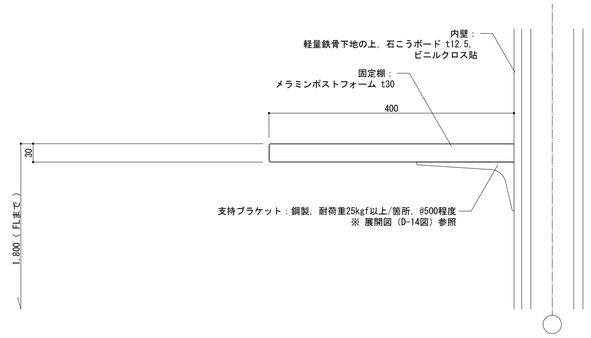
A ライニング廻り 詳細図 scale 1 : 5



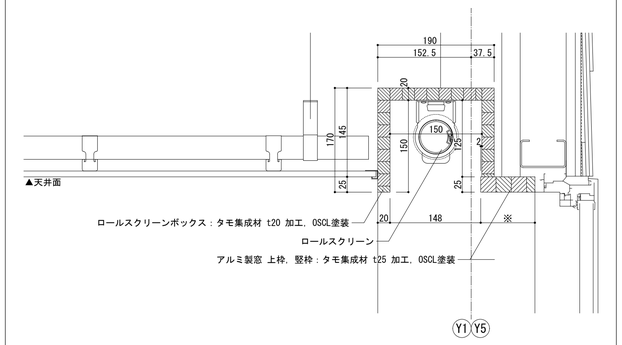
B ブース内棚 詳細図 scale 1 : 5



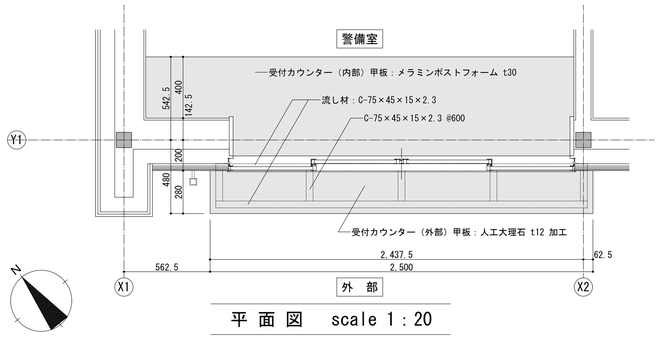
C 固定棚（倉庫内）詳細図 scale 1 : 5



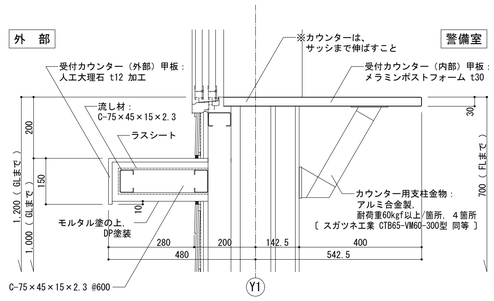
D ロールスクリーンボックス 詳細図 scale 1 : 5



E 受付カウンター 詳細図 scale 1 : 5, 20



平 面 図 scale 1 : 20



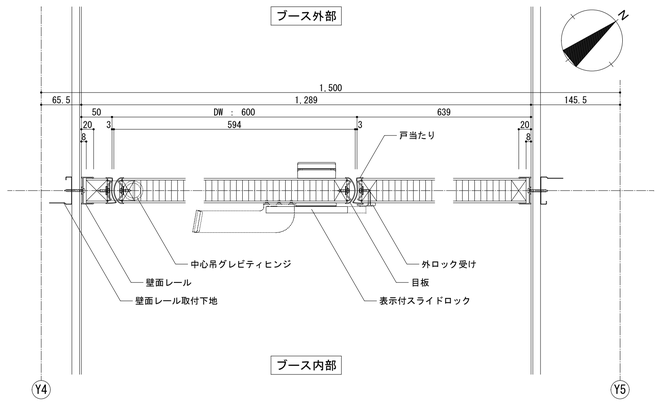
断 面 図 scale 1 : 5

F トイレブース 詳細図 〔 参考図 〕 scale 1 : 5

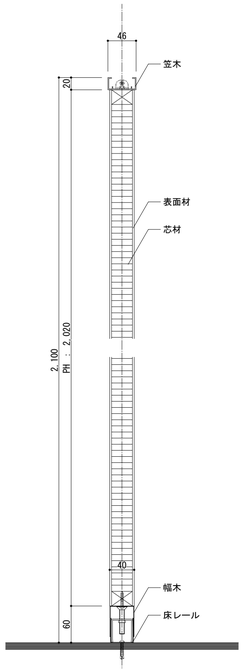
■ 仕様書

※小松ウオール工業 サニティＴＢ－ＧＰＲタイプ 同等

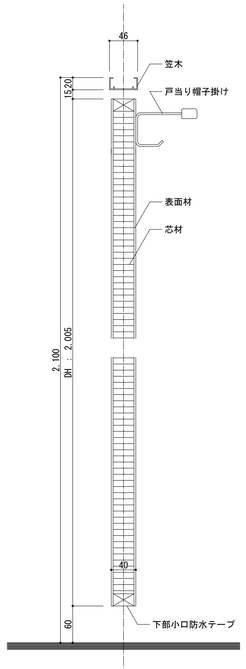
項 目	部 材	材 料
パネル	パネル表面材	高圧メラミン樹脂化粧板(下地：MDF)
	芯 材	ペーパーコア
	目板／戸当り	アルミ押出形材 〈アルマイトクリア処理仕上〉
付属品	巾木／床レール	ステンレス 0.8mm 〈ヘアライン仕上〉
	笠木	アルミ押出形材 〈アルマイトクリア処理仕上〉
	壁面レール／コーナーカバー	アルミ押出形材 〈アルマイトクリア処理仕上〉
	ヒンジ	中心吊グレビティヒンジ
	ロック	スライドロックSK
	その他金物	戸当り帽子掛けSK



平 面 図



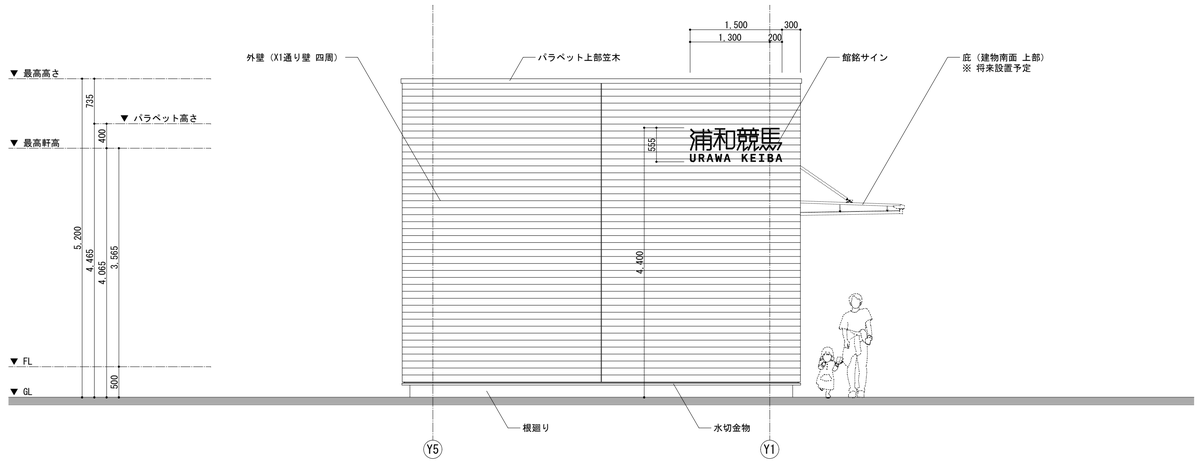
パネル部



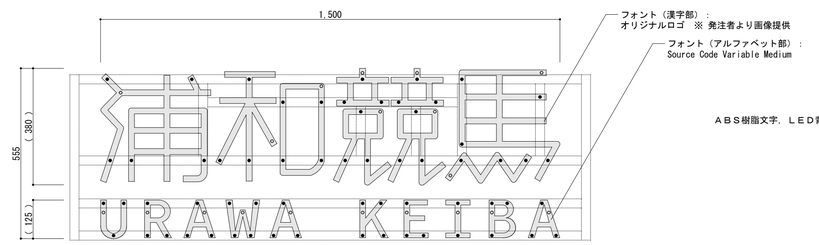
扉 部

断 面 図

G 館名サイン 詳細図 scale 1 : 3, 10, 20, 50



西側立面図（ 道路側 ） scale 1 : 50

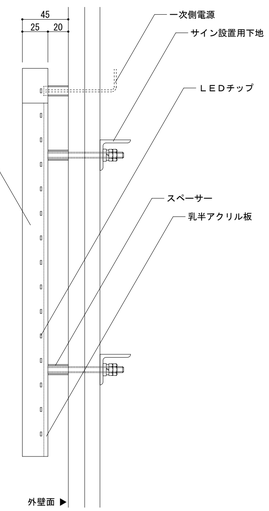


姿 図 scale 1 : 10

■ 特記事項

＊ □ 部は、サイン設置用下地位置（参考位置）を示す
＊ ● 印は、サイン設置用ボルト位置（参考位置）を示す
＊ ○ 印は、電源用開口位置（参考位置）を示す

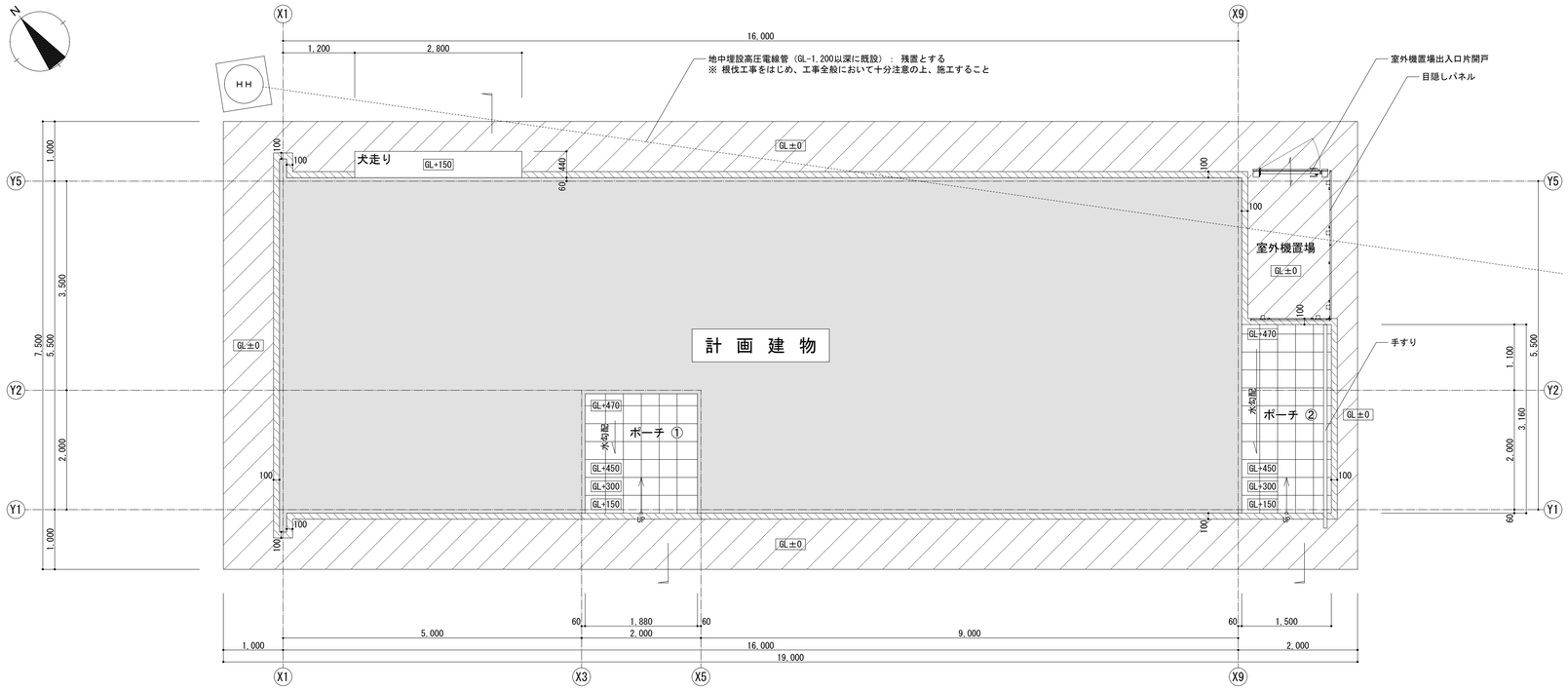
Lighting Image scale 1 : 20



断面詳細図 scale 1 : 3

株式会社 第一建築設計事務所
〒350-1126 埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357 FAX 049-244-5372
一級建築士 大臣登録 第 348040 号 古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D－16
				年／月／日	図面名称：各部詳細図	縮尺：A1 図示 A3 図示の50%

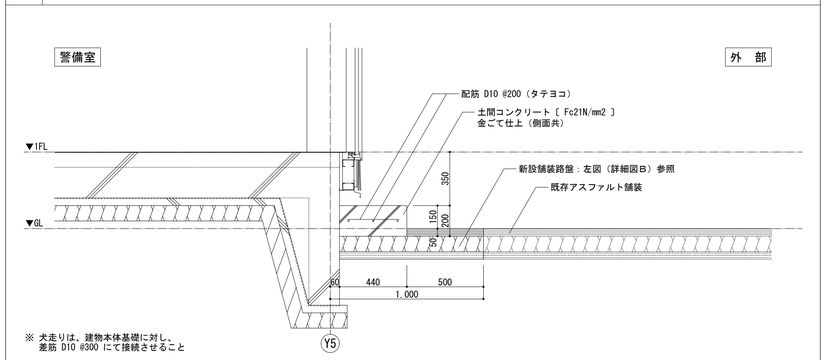


外 構 平 面 図　scale 1 : 50

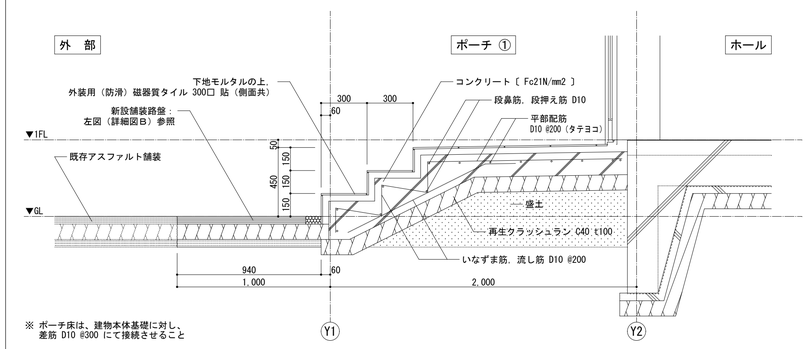
■ 特記事項

＊ 部は、計画建物（基礎外周輪郭）を示す
＊ 部は、砂利敷（下部路盤共）の新設範囲を示す
＊ 部は、アスファルト舗装（下部路盤共）の新設範囲を示す
＊ 新設舗装仕上面のレベルについては、上図を参照とするとともに、周囲既存舗装面レベルに擦り付けること

C　犬走り 詳細図　scale 1 : 20

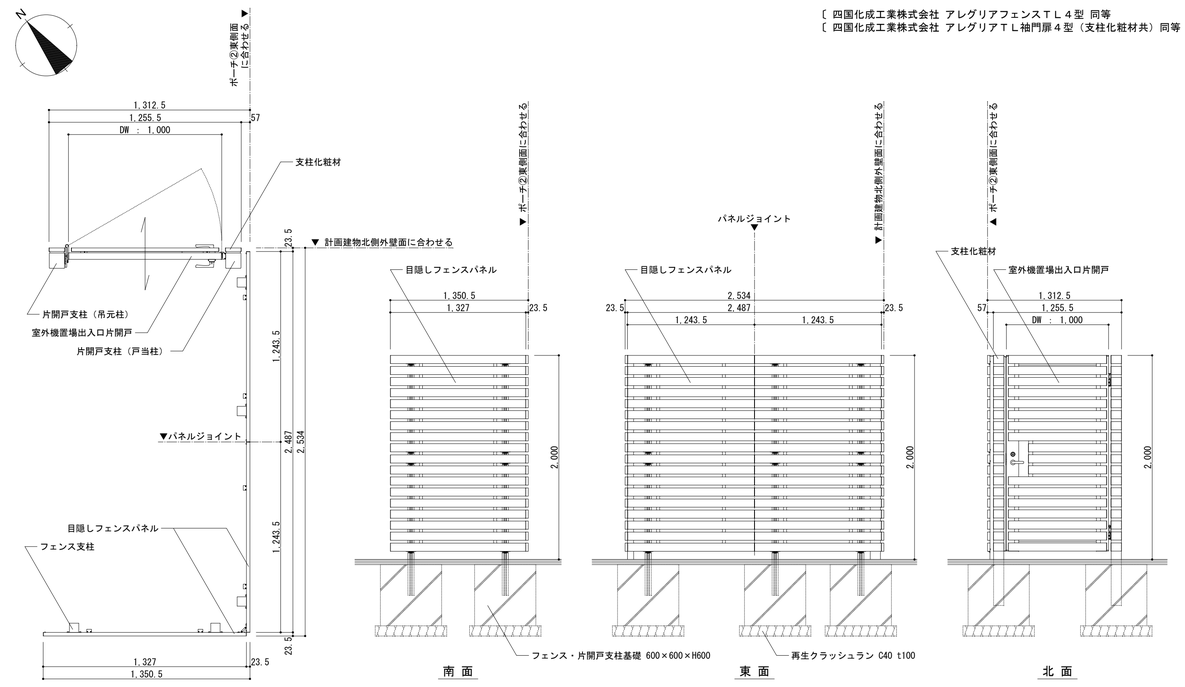


D　ポーチ① 床 詳細図　scale 1 : 20



A　目隠しフェンス，室外機置場出入口片開戸 詳細図 〔 参考図 〕　scale 1 : 20, 30

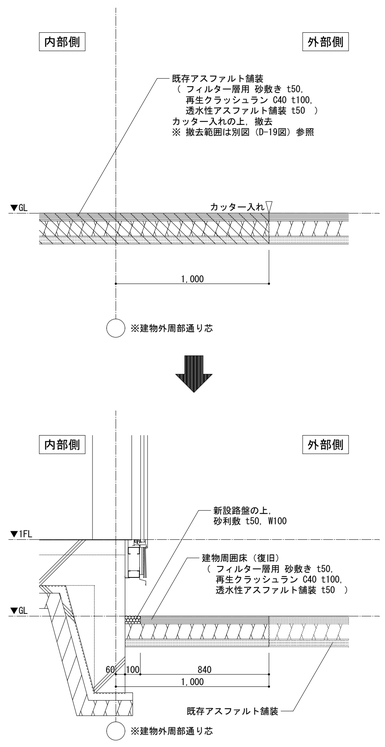
〔 四国化成工業株式会社 アレグリアフェンスＴＬ４型 同等 〕
〔 四国化成工業株式会社 アレグリアＴＬ袖門扉４型（支柱化粧材共）同等 〕



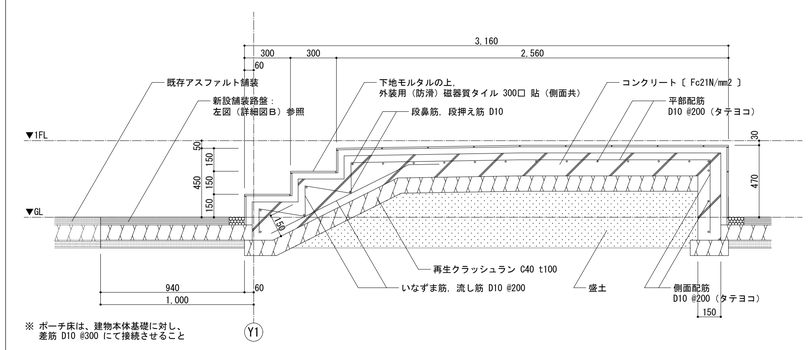
平 面 図　scale 1 : 20

姿 図　scale 1 : 30

B　建物周囲床（撤去，復旧）詳細図　scale 1 : 20

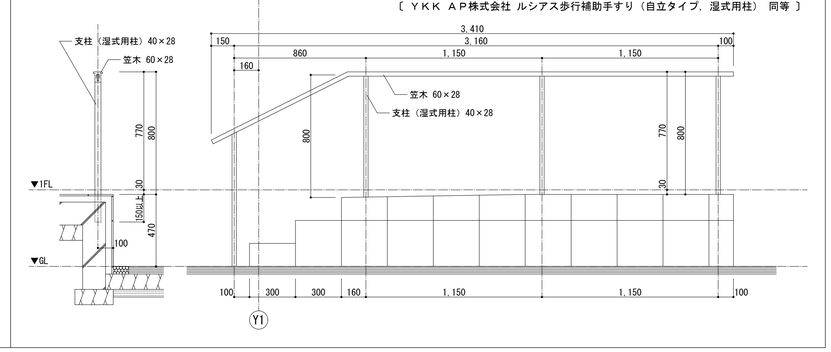


E　ポーチ② 床 詳細図　scale 1 : 20



F　手すり 詳細図 〔 参考図 〕　scale 1 : 20

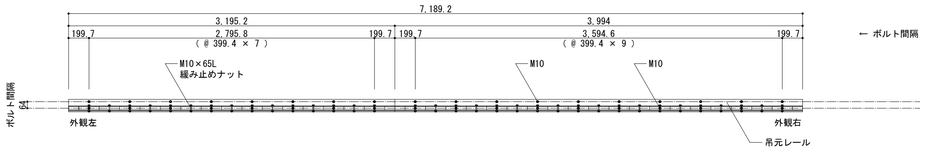
〔 ＹＫＫ ＡＰ株式会社 ルシアス歩行補助手すり（自立タイプ，湿式用柱） 同等 〕



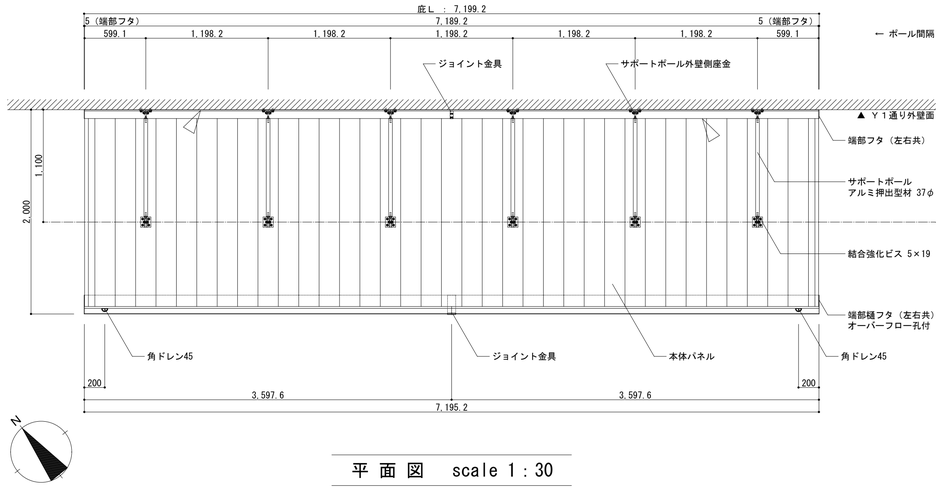
株式会社第一建築設計事務所
〒350-1126　埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357　FAX 049-244-5372
一級建築士 大臣登録 第 348040 号　古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D－17
				年／月／日	図面名称：外構詳細図　縮尺 A1 1:20,30,50　A3 1:40,60,100	

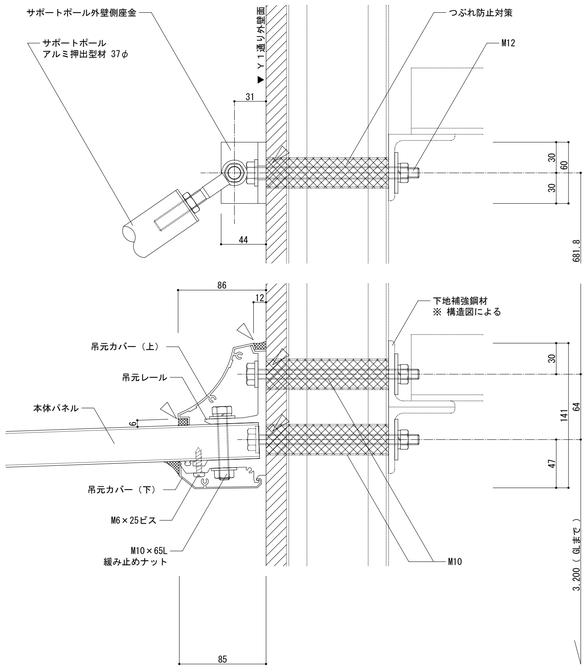
庇（建物南面 上部）詳細図 〔 アルフィン株式会社 AD2-2G（サポートポール仕様，竪樋45角基本セット共） 同等 〕　※ 将来設置予定のため、外壁面取付用ボルト（シーリング処理含む）及びボルト用受材のみ、本工事とする　scale 図示



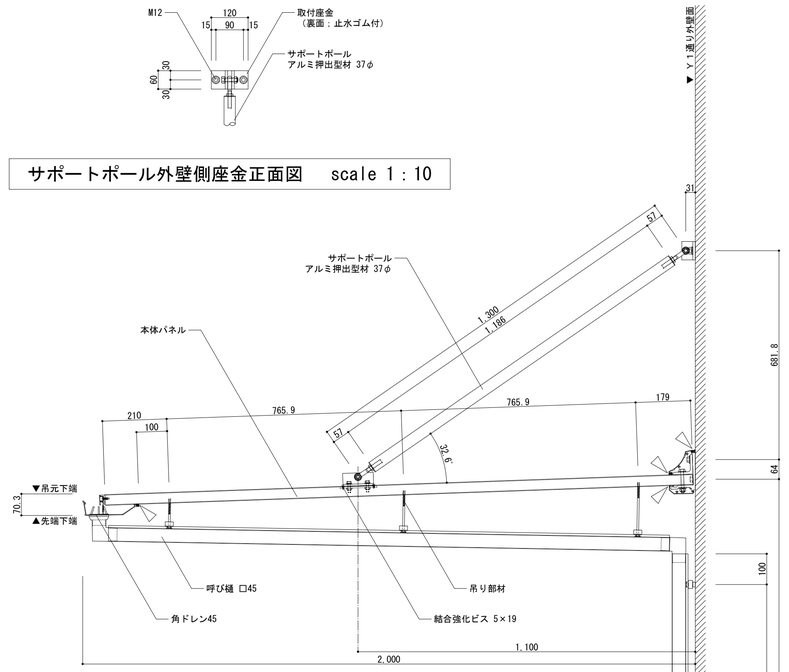
吊元正面図（ボルトピッチ図）　scale 1：30



平 面 図　scale 1：30



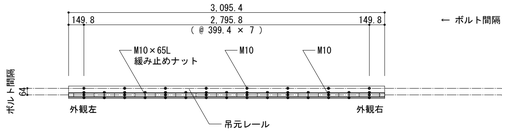
下地補強断面図〔参考図〕　scale 1：3



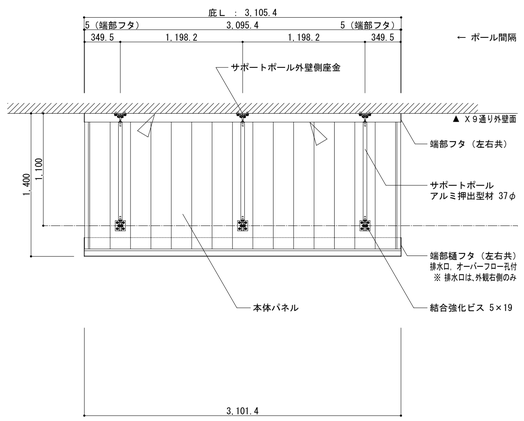
サポートポール外壁側座金正面図　scale 1：10

断 面 図　scale 1：10

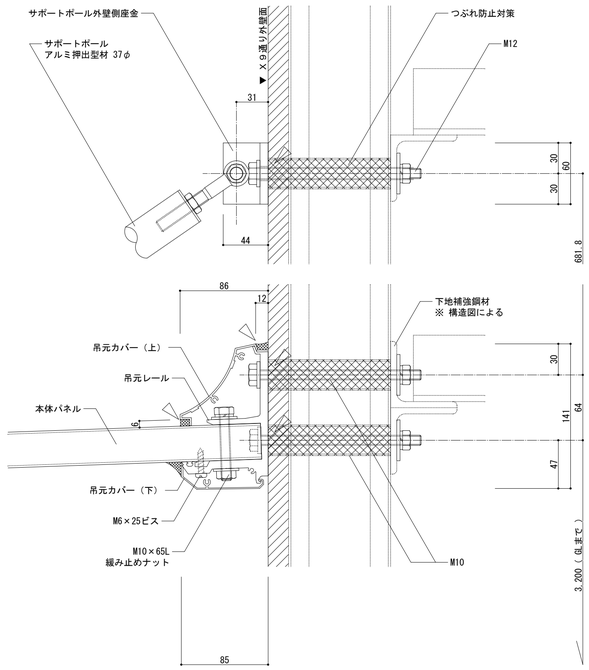
庇（建物東面 上部）詳細図 〔 アルフィン株式会社 AD2-2G（サポートポール仕様） 同等 〕　scale 図示



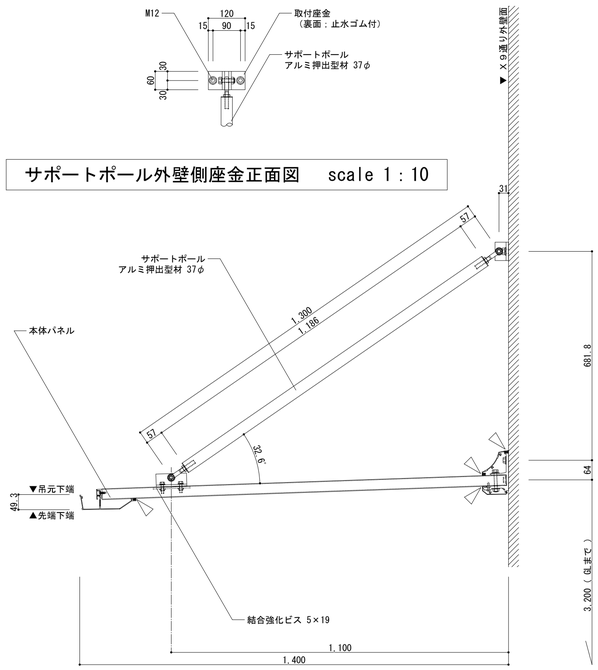
吊元正面図（ボルトピッチ図）　scale 1：30



平 面 図　scale 1：30



下地補強断面図〔参考図〕　scale 1：3



サポートポール外壁側座金正面図　scale 1：10

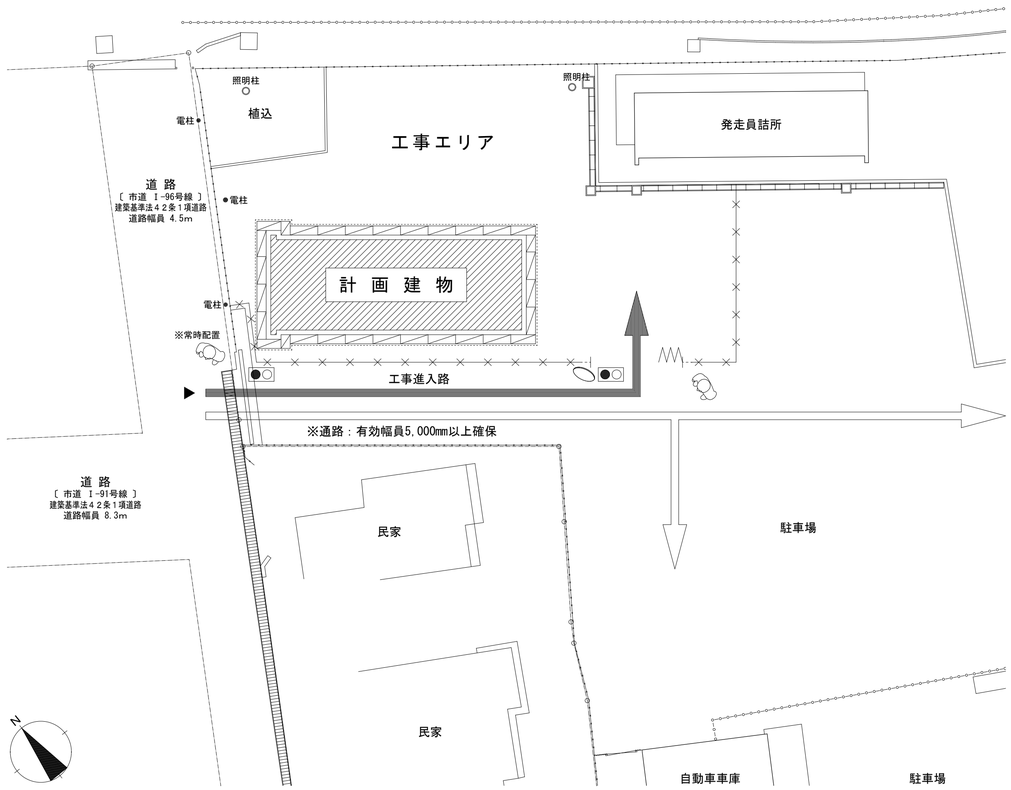
断 面 図　scale 1：10

■ 特記事項〔 共通 〕

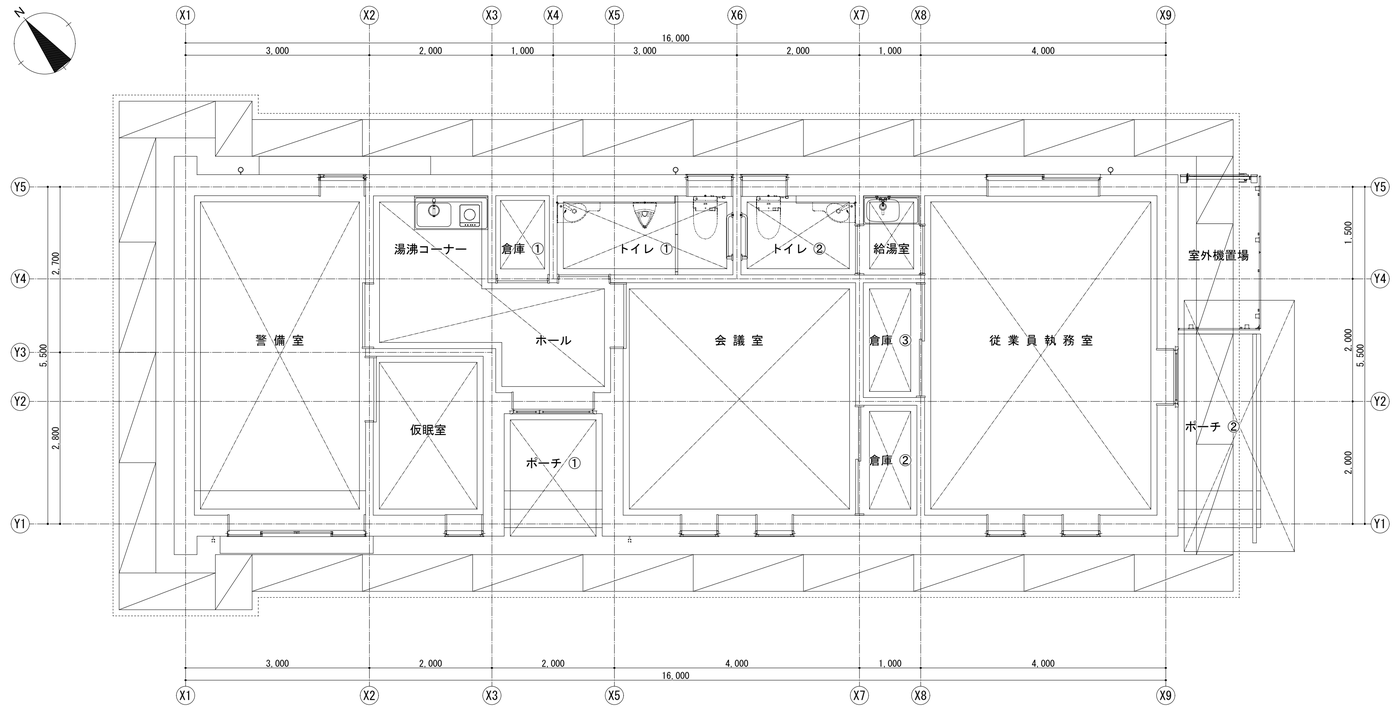
- ＊ ◁ 印は、シーリング位置を示す
- ＊ 吊元レール 及び サポートポール外壁側座金を外壁面に取り付けるにあたり、下地補強鋼材を設けることとし、下地補強鋼材については、構造図によるものとする
- ＊ 庇（建物南面 上部）は、将来設置を前提に、吊元レール 及び サポートポール外壁側座金取付用のボルトまでを本工事とする
  また、当該受材（ボルト）廻りにおいて、外壁の品質確保とともに、雨水の浸入等が無いよう充分配慮し、施工すること
- ＊ 外壁裏に空気層があるため、締付けにより外壁材が破損しないよう、補強対策を行うこと
- ＊ ボルト，ナットが緩む恐れがあるため、緩まないよう緩み止め対策を行うこと

株式会社第一建築設計事務所
〒350-1126　埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357　FAX 049-244-5372
一級建築士 大臣登録 第 348040 号　古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D－18
				年／月／日	図面名称：庇詳細図〔参考図〕　縮尺 A1 1：3,10,30　A3 1：6,20,60	



仮設計画図（工事エリア）〔 参考図 〕　scale 1：200



仮設計画図（建物廻り）〔 参考図 〕　scale 1：50

■ 仮設計画における注意事項

※ 仮設実施計画にあたって、仮設材の位置，仕様，車両の進入方法等、敷地内に乗り入れることが可能な車両について、施工前に必ず施設管理者及び施設関係者と協議すること。

※ 仮設実施計画については、監督員と協議の上、承諾を受けた後に工事を行うこと。

※ 仮囲い等は、現場の状況に応じて計画することとし、仮囲いや足場周囲に問題や異常が生じていないかを適宜巡回確認を行うこと。
また、仮囲いの場外側に面する部分は、番線やクランプなどの状態を確認の上、施設利用者，関係者に対し、安全性に配慮すること。

※ ゲート等の位置は、監督員と協議の上、必要に応じて適切な位置に移動すること。

※ 施設出入口付近に「お知らせ掲示板」（0.9×0.9m程度）を設け、施設利用者に対し工程表，配置図，危険箇所，迂回路（方法）等を記載し、周知させること。
また、安全対策，通行方法に関する貼り紙を施設管理者と協議し、必要に応じて適宜掲示すること。

※ 基本的な搬出入計画，施工工程，車両の進入方法等について、施工前に必ず施設管理者と協議した上で、監督員の承諾を得ること。
また、工事状況により安全・保安仮設材を必要に応じて設置すること。

※ 交通誘導員（警備員）を重機，仮設材，撤去材搬出時等には必ず配置するとともに、重機や大型の工事車両の出入の際は交通誘導員等を増員して、施設利用者，関係者，近隣に対し、交通安全に配慮すること。
また、常時通路や前面道路（ 工事関係者出入口周辺 ）の清掃を行うこと。

※ 粉塵等の飛散の予防の為、出来る限り施工範囲外へ影響がないよう養生等を行い、日常の清掃に努めること。

※ コンプレッサー等の騒音の生じる機器の置き場所には注意を払い、足場内への据付，防音シートで囲うなど、騒音対策を必要に応じて実施すること。

※ 騒音・粉塵等が施設関係者・近隣住民の迷惑にならないよう十分に配慮すること。

※ 仮設トイレの設置場所は充分配慮した位置とし、臭気や目隠しに対する対策を行うこと。

※ 重機等の乗り入れにより、既存舗装に支障が生じた場合は、現況復旧とすること。

※ 仮設材撤去後の工事範囲内の整地は、本工事に含むものとする。

※ 工事関係車両用駐車スペースは、本図に拠る範囲以外には無いため、必要となる駐車台数は工事受注者の負担にて近隣に設けること。

※ 定期的に安全協議会，安全パトロール等を実施し、安全対策に配慮すること。

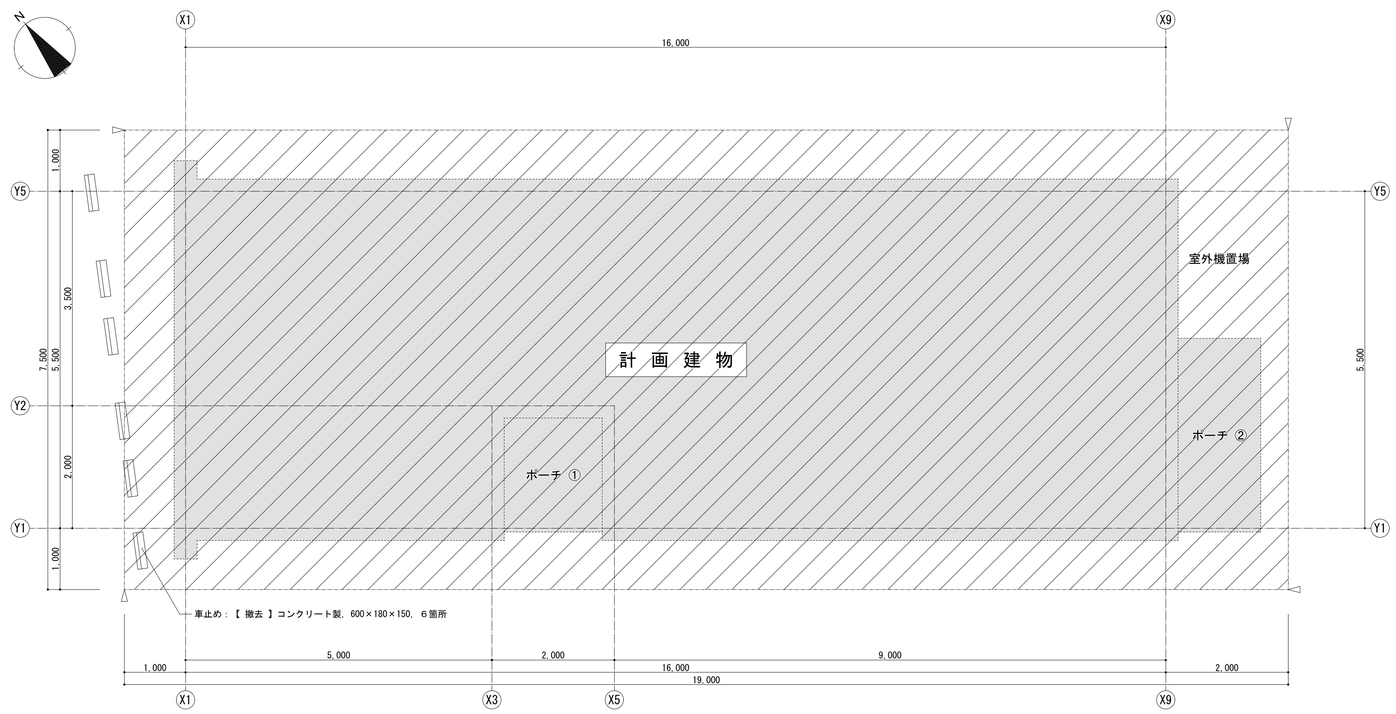
※ 工事エリアにおいて、建築基準法，労働安全衛生法，環境基本法，その他関係法令を遵守し、必要な手続き及び安全対策を行うこと。

※ 本計画敷地内において、本工事以外に複数の工事を併行して実施するものとし、工事受注者はその旨を充分に理解するとともに、必要に応じて他工事受注者と調整を図り、双方が円滑に工事を進められよう協力すること。

※ その他、特記仕様書（D-06図）における " 24 その他 "，図示記載事項，現場説明書等を充分に熟知し施工にあたること。

■ 図中凡例 〔 仮設計画図共通 〕

- ▼ ： 工事関係者出入口を示す
- ： 工事関係者の進入路・進入方向を示す
- ： 敷地内における他工事関係者，施設職員 及び 施設利用者の進入路，進入方向を示す
- ： 仮囲い 万能鋼板 H2,000 を示す
- ： キャスターゲート W6,000×H2,000 を示す
- ： 交通誘導員配置位置を示す
  ※ 道路際敷地出入口部は、工事実施時常時配置すること
  ※ その他、必要に応じて配置すること
- ： カーブミラー φ600程度 を示す
- ： 工事用信号機 を示す
  ※ 工事進入路は、車両について交互通行とする
- ： 足場（手摺先行方式）W 600 + 養生シート貼 を示す
- ： 脚立足場 を示す



撤 去 図　scale 1：50

■ 特記事項

＊ ◁ 印は、既存アスファルト舗装に対するカッター入れ位置を示す
＊ ▨ 部（斜線部）は、既存アスファルト舗装（下部路盤共）の撤去範囲を示す

株式会社第一建築設計事務所
〒350-1126　埼玉県川越市旭町3-19-3
TEL 049-243-0357　FAX 049-244-5372
一級建築士 大臣登録 第 348040 号　古川 昇一郎

責任者	担当	担当	担当	JOB CODE	工事名称	図面番号
杉原	古川			202205013	浦和競馬場北門警備棟建築工事	D－19
				年／月／日	図面名称：仮設計画図〔参考図〕，撤去図	縮尺：A1 1：50,200　A3 1：100,400